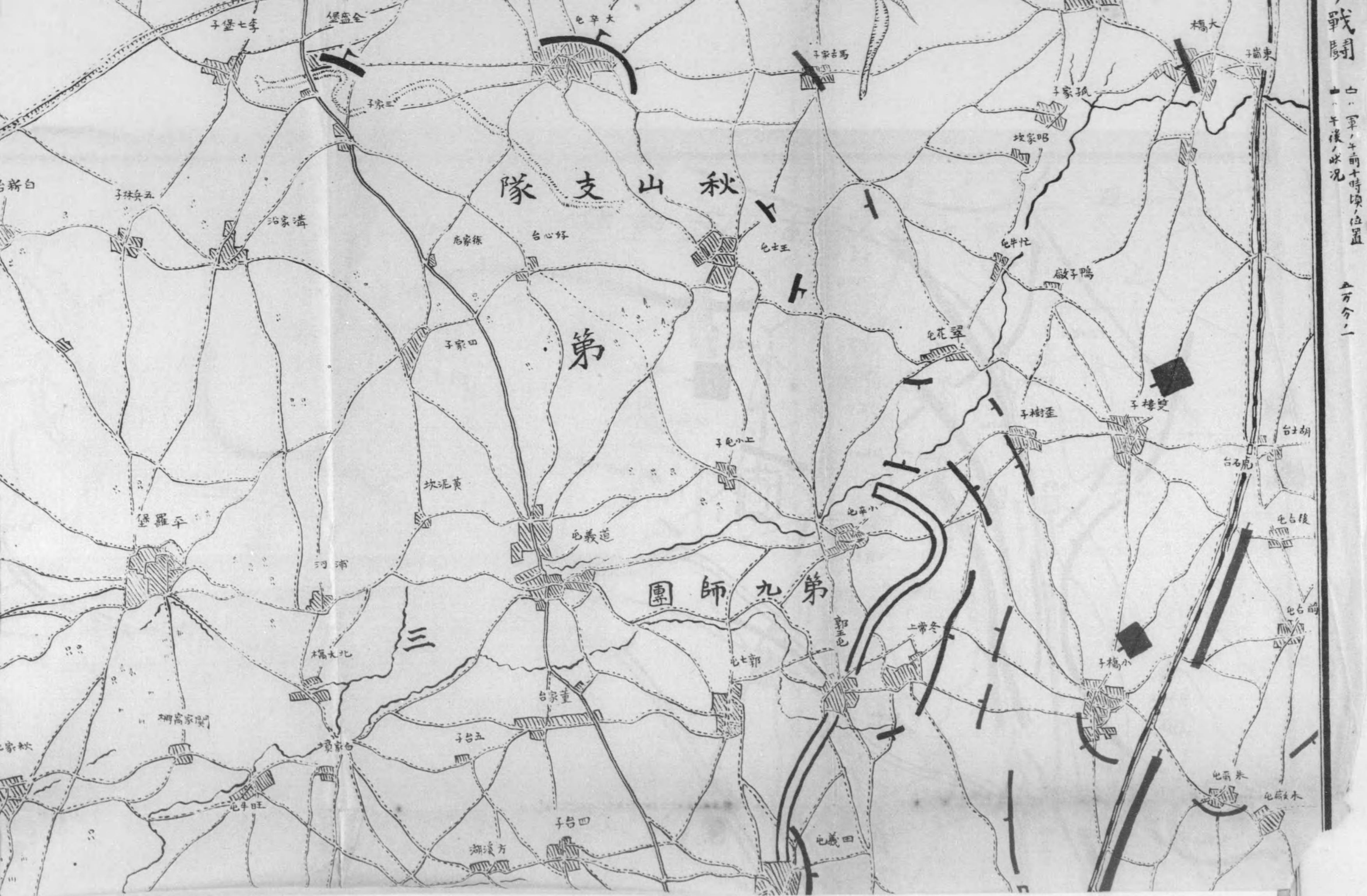
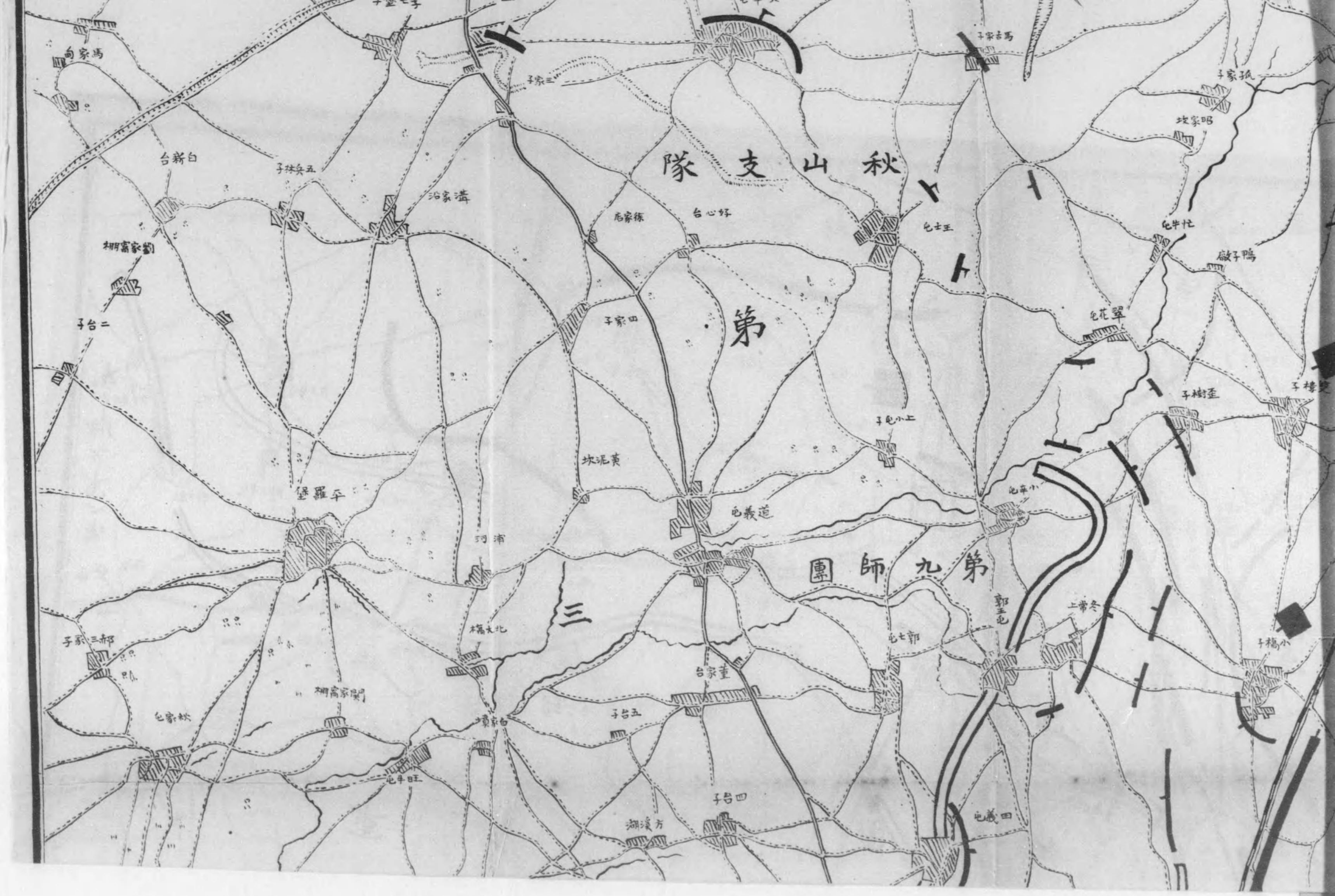
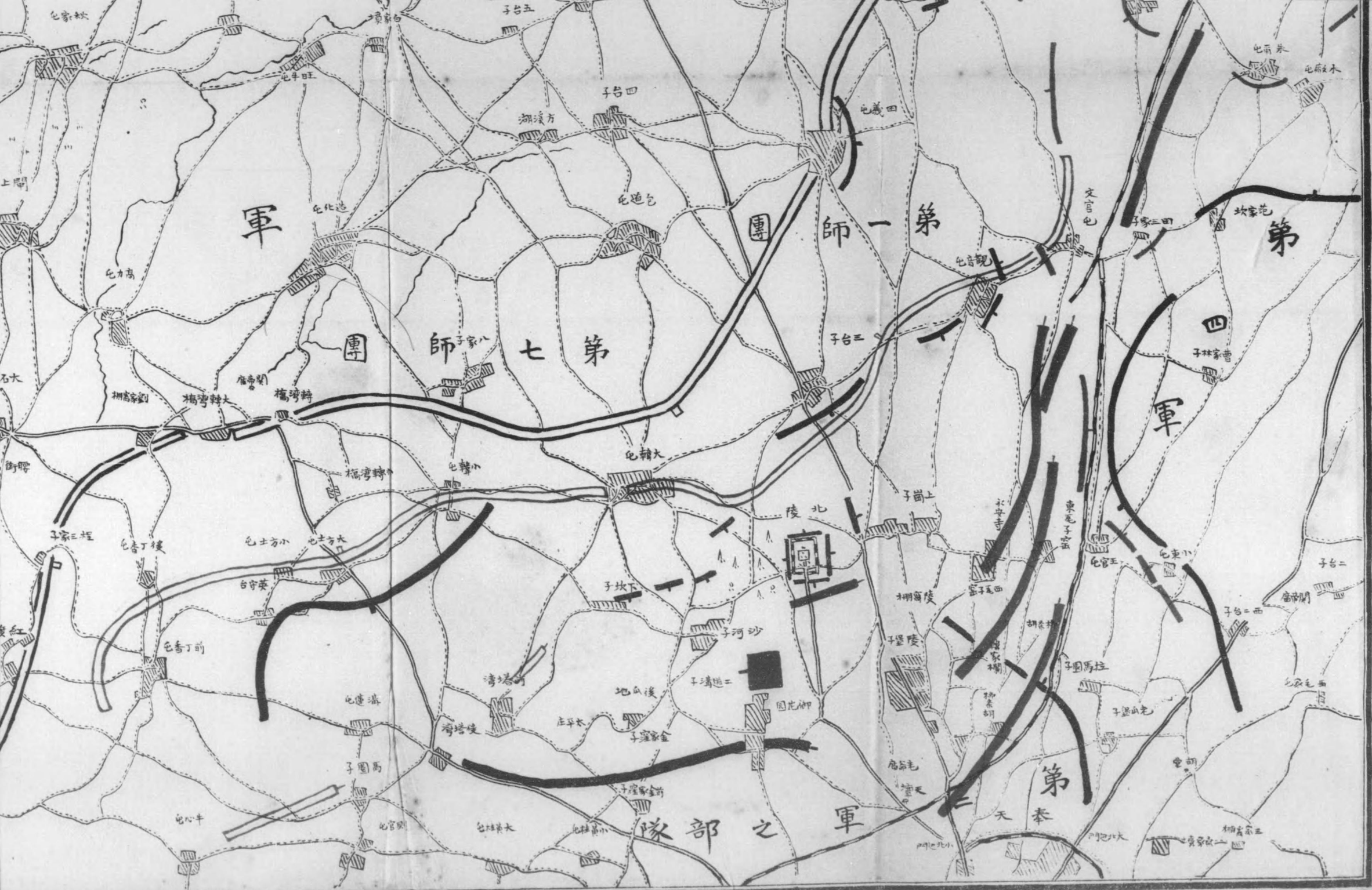


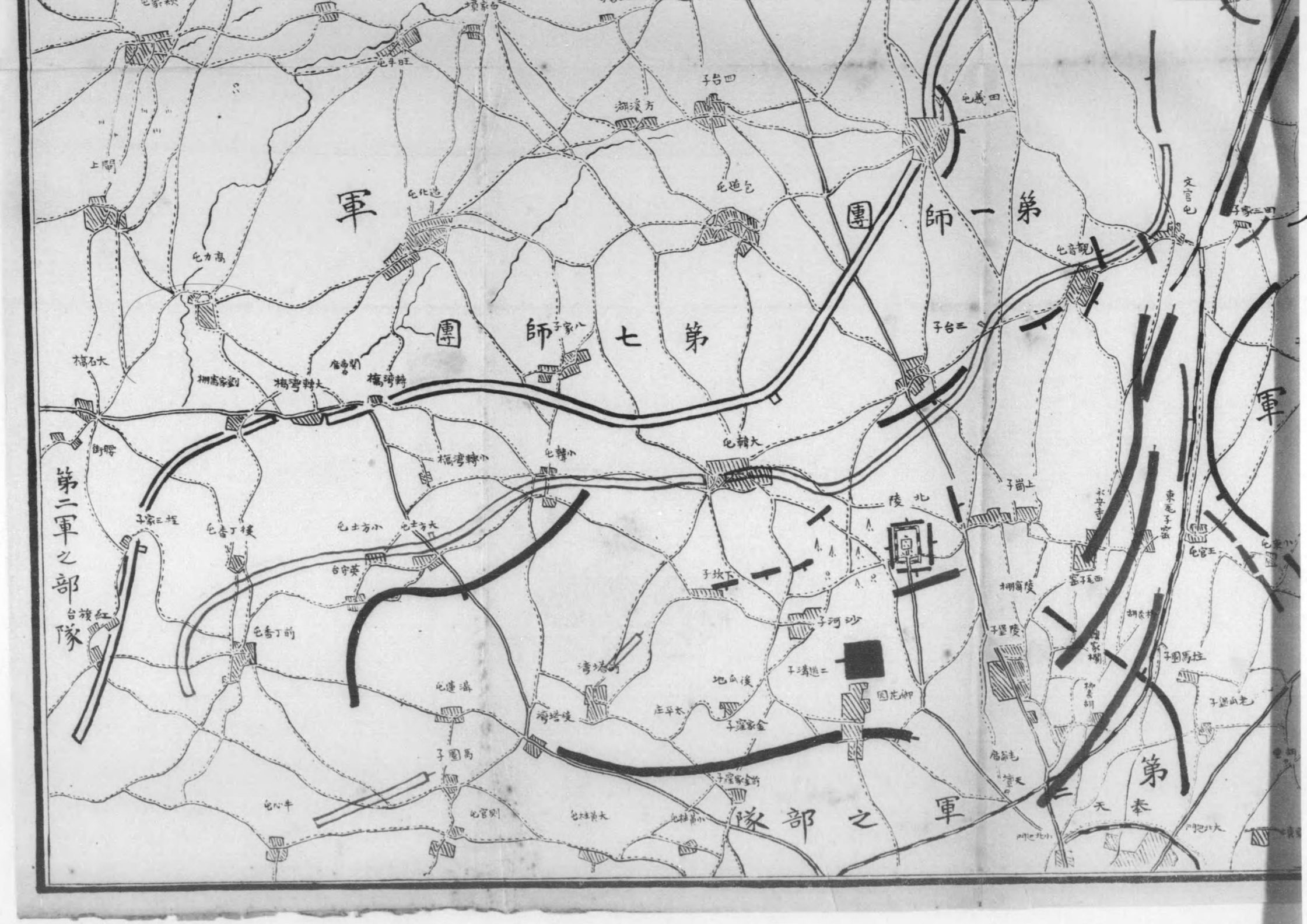
戰鬪

白ハ軍ノ午前十時頃ノ位置
山ハ午後ノ狀況

五万分ノ一


秋山支隊
第九師團
三
子家古馬
子家孤
坟家昭
白新台
子林矣五
沿家溝
居家徐
台心好
色士王
色牛忙
蔽子鴨
棚窩家劉
子台二
子家四
色花翠
子樹歪
子樓
子色小上
黄泥坎
色義道
色華小
平羅堡
河浦
郭王色
上常冬
子家三郝
橋大北
色七郭
子稿小
棚高家閻
台家董
色家秋
墳家白
子台五
色牛旺
子台四
湖浸方
色義田


第十一圖
第一師團
第七師團
第四軍
第二軍
第天奉
軍之部隊
北陵
子台五
子台四
子台三
子台二
子台二西
子坎下
子河沙
子溝二
子窪家金
子窪家金前
子圈馬
子林家曹
子圈馬拉
子窪山老
子家八
子家三田
子尚上
子堡陵
棚寫陵
棚寫家劉
梅灣轉大
梅灣轉
梅灣轉小
湾塔陵
湾塔河
地瓜後
庫平太
園花御
大轉屯
小轉屯
大方土屯
小方土屯
香丁屯
香丁前
香丁樓
台守英
化造屯
力高屯
華旺屯
家秋屯
家白屯
湖溪方
造屯
義田屯
音觀屯
官屯
東屯
東屯子家西
寺安
棚家陵
棚家
棚家胡
棚家胡
家子屯西
屯家毛西
屯家毛
壹胡
壹天
壹家敬一
棚寫家王
棚寫家王
屯家毛
屯家毛
屯家毛


第二軍之部隊
第七師團
第一師團
軍
軍之部隊
第
奉天
北陵
子台四
湖濱方
屯義田
屯造色
屯化造
屯力高
上關
文官屯
子家三四
屯音觀
子台三
子家八
梅石大
柵窩劉家
梅灣轉大
梅灣轉
關帝廟
梅灣轉小
屯轉小
屯轉大
子尚上
子坎下
子河沙
子溝造二
地瓜後
子窪家金
子窪家金前
屯土方小
屯土方大
台守英
屯香丁後
屯香丁前
子家三堡
紅旗台
屯蓮溝
子圍馬
屯心牛
屯官則
屯桂英大
屯桂英小
秀塔後
庄平太
仰花園
棚窩陵
子墨陵
子圍馬拉
子墨山老
屯官王
屯東小
東尼子窩
子尼西
屯官
屯

左側衛は騎兵第十六聯隊第一中隊を前衛とし、八時全盛堡を出發して六間房に向ひ、左側衛本隊を以て同時三十分頃下坎子に到着して支隊主力の進出を待てり、當時前面に敵騎二、三十出没せるも其大部概に東北方に去りしが如し、騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）は午前七時拉々屯の東部に集合し、第三中隊の一小隊を前衛ととて尹家窩棚に先遣し奉天――石佛寺道を警戒せり、此時敵の騎兵一小隊乃至一中隊小營子、田兵台附近を行動し、尚ほ午前十時頃敵の騎兵徒歩して尹家窩棚に向ひ前進せしも我兵之を擊退せり。

三家子に向ふ前進準備

支隊は正午軍命令を受領し、軍の運動に伴なひ尹家窩棚、三台子、四家子を經て三家子（新台子西北約一里）方向に前進せんとし、午前零時三十分命令を下し、右側衛を張家窩棚方向に進め、騎兵第十六聯隊、機關砲二門をして第七師團の運動に伴なひ、石佛寺以北に進出し法庫門（石佛寺北方約十里）方向を搜索せしめ、騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）をして全盛堡に、同第十三聯隊を大辛屯に留め、支隊主力を先づ全盛堡に到らしむ。

右側衛は騎兵第三聯隊第二中隊の一小隊を右側衛、同第六聯隊（第一中隊欠）を前衛、自餘を本隊とし大辛屯、姚家庄、營盤を經て張家窩棚に向ひ前進せんとし、其前兵たる第六聯隊第三中隊（二小隊欠）は午後二時好心台を出發し右側衛之に續行せり。

支隊の前進開始

支隊長は午後零時三十分頃本隊（歩兵第三聯隊第一大隊（第三第四中隊欠）騎兵第十四第十五聯隊、騎砲兵中隊、戰利野砲兵中隊、機關砲十一門、工兵第一大隊第一中隊）を率ゐ大辛屯を出發し、二時五十五分尹家窩棚に到着し、騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）は午後二時十分全盛堡の守備を撤し、尹家窩棚に於て支隊

三台子占領

騎兵第十六聯隊の沙崗子に向ふ追擊

に合し大辛屯の騎兵第十三聯隊は右側衛の同村を通過するや、亦守備を撤し全盛堡を經て本隊に追尾す。

支隊長は騎兵第十五聯隊〔杉浦大佐〕を前衛とし、三時頃尹家窩棚を出發し六間房、灰土崗、三台子を經て三家子に向ひ前進せしめ、自餘を本隊として之に續行す、乃ち前衛は第一中隊を前兵として前進し、第三中隊の一小隊を左側衛とし、其側方約一千米に進め畢家窩棚及六間房附近の小數の敵を驅逐し、前衛を以て之を追擊しつゝ四時頃十二家子を占領し、尋て敵の騎兵一、二中隊の灰土崗附近より東方に退却するを見、直に同村を占領せり、此時營盤より敵砲二、三門射擊し、又敵の騎兵、同村附近に集合せしに依り、戰利野砲兵及騎砲兵兩中隊は十二家子附近に放列を布き、之を射擊すること約二十餘發にして敵を擊退す、右側衛は尋で營盤に達し、前衛は五時三十分頃三台子に到り東方に退却する敵を射擊して潰亂せしめ、七時十五分四家子を占領し本隊は三台子に到着せり、時に敵の騎兵約八中隊六王屯附近より北方に退却するを見、支隊長は右側衛を同地に派遣し、此敵と接觸せしむ、乃ち同側衛は營盤より舊鐵道堤に沿ひ六王屯附近に前進せり。

騎兵第十三聯隊は六間房附近に於て本隊に追及せり。

本多大佐の率ゐる騎兵第十六聯隊、機關砲二門は下坎子に於て第七師團の前衛騎兵の來るに會ひ、稍遲れて午後二時第一中隊を前衛、第三中隊の一小隊を左側衛とし同村を發し、右側衛は六間房を經、前衛及左側衛は尹家窩棚を經て五時孟家台に達し、敵の騎兵約三中隊我右側に向ひ前進するに遭ひ、右側衛之を射擊す、則ち本多大佐は前衛を同地北端に、機關砲二門を其東端に備へ、第三中隊を搜索中隊として石佛寺方向に派遣せり、尋で敵の騎兵四、五中隊石佛寺方向より我左翼に向ひ前進するの報を得、第二中隊をして徒步し

支隊の宿營

て孟家台西端を占領せしめしも敵遂に前進せず、而して右側に向ひし敵は五時三十分より東北方に退却し、其兵力七、八中隊を下らず、乃ち聯隊（第三中隊欠）〔機關砲共〕は之を追擊して六時三十分沙崗子に達し、第三中隊は石佛寺西方高地に達し、第七師團前衛騎兵と協力して北方を搜索せり。

支隊は午後七時三十分前衛に步兵第三聯隊第二中隊を增加し、此夜右側衛は六王屯に、前衛は四家子に、騎兵第十六聯隊〔機關砲二門共〕は沙崗子に支隊本隊は三台子に宿營せり。

友軍第七師團は石佛寺街道を石佛寺に向て前進し、此夜石佛寺附近に停止す。

滿洲軍に對し總司令官より左の訓示ありたり。

奉天附近の會戰に於て我滿洲軍の目的を達し敵をして敗退に陷るの止むを得ざるに至らしめたるは大元帥陛下の御稜威と各隊勇行邁進以て全軍の協同一致の完成したることに依らずんばあらず、此戰勝に依り世界に　皇軍の威武を發揚すること大なるものにして余の感激措く能はざる所なり然れども戰況の細部に亘りて之を穿搜するときは遺憾なりし點多し故に事を處するに大なる注意を以て再び斯の如き點なからんことを希望す今や敵は奉天附近の敗戰に屈せず尙最終の勝利を得ることを希望するの報あり吾人は我最終の目的即ち敵をして屈從せしめざるべからず諸士希くは勝て兜の緒を締めよとの金言を守り百里を行く者は九十里を以て半ばとするの精神を以て我帝國の威武を全ふせんことを切望す

滿洲軍總司令官　元帥侯爵　大山巖

明治三十八年三月

滿洲軍に左の　勅語を賜り（三月十五日遼河沿岸に於て奉讀式を行ふ。

奉天ハ客秋以來敵軍此ニ鞏固ナル防禦工事ヲ設ケ優勢ノ兵ヲ備ヘ必勝ヲ期シ衝ヲ爭ハントセシ所ナリ我滿洲軍ハ機先ヲ制シ驀然攻進冱寒氷雪中力戰健鬪十餘晝夜ヲ連ネ遂ニ頑強死守ノ敵ヲ擊破シ數萬ノ將卒ヲ虜ニシ多大ノ損害ヲ與ヘ之ヲ鐵嶺方向ニ驅逐シ曠古ノ大捷ヲ博シ帝國ノ威武ヲ中外ニ發揚セリ　朕深ク汝將卒ノ能ク堅忍持久絕大ノ勳功を奏シタルヲ嘉ス尙益々奮勵セヨ

腰忠台に向つて追擊部署

三月十二日　支隊は拂曉運動を開始し主力を以て鐵嶺方向に前進し、同地附近の敵情を搜索し、特に一部を以て奉天――法庫門道の敵に對し第三軍の左側を警戒し、且つ遼河の情況之を許せば主力を以て右岸に運動するも妨なき軍訓令ありたり。

支隊長は前夜十時命令を下し右側衞〔司令官中山中佐、騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）同第六聯隊（第一中隊欠）機關砲二門〕を午前六時三台子北方に、前衞〔司令官杉浦大佐、歩兵第三聯隊第二中隊、騎兵第十五聯隊）を同時四家子に集合せしめ、沙崗子の騎兵第十六聯隊（機關砲二門共）をして奉天――法庫門道を北進し敵情を搜索せしめ、自餘の諸隊を三台子北方に集合せしむ、尋で午前零時三十分軍命令を得八家子、孤家子を經て鐵嶺附近に向ひ前進せんと欲し、六時更に命令を下し右側衞をして鐵道の西側に沿ひ、本隊の運動に伴なひ前進し特に右翼の友軍との連絡に任じ、騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）を左側衞とし、遼河左岸の道路を支隊本隊の運動に伴なひ鐵嶺方向に前進せしめ、騎兵第十六聯隊をして前任務を繼續せしめ、騎兵第十四聯隊を前衞とし、即時出發本隊の進路を鐵嶺に向ひ前進せしめ、歩兵第三聯隊第二中隊、騎兵第十五聯隊を午前六時三十分四家子に集合し本隊の到着を待ちて行軍序列に入らしめ、本隊〔歩兵第三聯隊第一大隊本部

及第一中隊騎兵第二旅團司令部、同第十三聯隊、騎砲兵中隊、戰利野砲兵中隊、機關砲十一門、工兵第一大隊第一中隊〕は前衞に續行す。

腰士屯附近に於ける前衞戰

右側衞は騎兵第六聯隊第三中隊の一小隊を更に右側衞、同第三聯隊第二中隊を前衞とし七時三十分六王屯を出發し敵の騎幕、十里堡より何家窩棚附近に亙る間に在りしも、漸次東北方に退却し其斥候、安心台、朱民屯に退き右側衞は九時四十分十里堡に達す、尋て八里庄東南に在りし敵の歩兵約一聯隊、砲二、三十門午前九時頃第一軍部隊の砲擊に遭ひ北方に退却せりとの報あり、更に前進して午後一時三十分小鮑家崗子に達し、第一軍部隊の午前十一時頃新台子を占領せるを聞き停止して搜索を繼續せり。

前衞司令官豐邊大佐は騎兵第十四聯隊第一中隊を前兵として、將校斥候を沙坨子（新台子北方約二里）方向に、下士斥候を遼河右岸に派遣し、午前六時三十分三台子北方を出發し七時四十分腰士屯に達す、此時我尖兵王家窩棚より敵騎約四十の射擊を受けたるを以て、支隊長は騎砲兵中隊を腰士屯東端に展開して之を射擊するや、同村の敵騎直に北方に退却せり、乃ち前兵は之を追擊して同村を占領し、腰忠台を搜索し敵騎數名同村に在るを知れり、同時頃騎兵第十三聯隊第一中隊は支隊長の命に依り前衞に增加し、前兵は小數の敵を驅逐して九時腰忠台を占領し、十時三十分吳家窩棚に達し、大丁家泡附近の敵騎約五十ミ徒歩戰を爲し、支隊長は戰利野砲兵中隊を吳家窩棚に急派して其西南端より援助せしむるや、敵の騎兵約二中隊大鮑家崗子方向に退却せり、乃ち前衞は之を追ふて十時四十分大丁家泡を占領す、此時敵砲二、三門西小河口東北丘阜附近より我を射擊し、同丘阜に敵兵點在し尙ほ有力なる部隊あるものゝ如し、乃ち前衞は暫く停止し本隊に吳家窩棚に到着す、當時敵の騎幕、張家窩

棚より朱民屯、大鮑家崗子を經て魚家窩棚に亙り數多の騎兵部隊は達子營北方丘阜に在るが如く、同丘阜の敵砲時々緩射せり、此に於て戰利野砲兵中隊は午後二時三十分吳家窩棚東北に一門を布き、敵砲に應射せしも距離遠く効力十分ならず、故に之を中止す、三時第三軍命令を受け工兵第一大隊第一中隊を第一師團に復す、爾後靜穩に歸し日遂に沒せり。

左側衛の朱々山方向搜索

左側衛司令官平佐少佐は將校斥候を遼河左岸に派遣し、騎兵第九聯隊第三中隊（二小隊欠）を前衛とし、午前七時四十分三台子を出發し、達連屯を經て九時三十分、中長河沿に達し長家窩棚に敵騎約百徒步戰の準備に在るを知り之を射擊するや、暫次の後退却せしに依り、左側衛の前衛は直に之に追尾して同村を占領し、尋で其北方森林に前進し、同騎兵約二中隊の朱々山麓を退却し他の一中隊の北孫家窩棚附近に行動し、西小河口附近の敵亦漸次北方に退却するを知り停止して搜索し六時頃、後長河沿に移れり。

騎兵第十六聯隊の草根泡に向つて退擊

騎兵第十六聯隊は下士斥候を派遣して新民府——舊門——鐵嶺道に沿ふ、電線を破壞せしめ、第四中隊を前衛、第二中隊の一小隊を左側衛として、午前七時五十分沙崗子を出發し、八時二十分石佛寺東南に達す、此時娘々廟に在りし敵騎約二十北方に退却せり、尋て前衛は遼河を渡り本隊は第三中隊の一小隊を右側衛とし、九時草根泡に達し停止して搜索を繼續せり、當時前衛は衣索牛堡子に、右側衛は套子李に、左側衛は連子湖附近に停止し、同時四十分頃敵の騎兵約二中隊衣索牛堡子の北部に來り、我尖兵を擊退せしも幾も無く退却し、同二、三十騎は黎杷彦西方高地より南進し、且つ同高地附近に敵兵點在し、三面船方向にも亦若干の敵兵徘徊せり。

電線破壞に任せし斥候は衣索牛堡子北方に於て之を遂け、敵騎約二中隊の急追する所となり、十一時三十分頃歸

支隊の宿營

來せり、當時前面の敵の騎兵五、六中隊を下らず其一、二中隊黎杷彦、舊門、三家子附近に行動し、又舊門北方一帶の高地に敵の監視兵あり、其後方に大部隊停止し在るに似たり。

支隊長は午後四時三十分、步兵第三聯隊第一中隊を前衛に增加し、騎兵第十三聯隊第一中隊を原隊に復し、此夜右側衛は小鮑家崗子及小河沿に、左側衛は後長河沿に宿營し、前衛は吳家窩棚に宿營し、騎兵第十四聯隊第一中隊を前哨として大丁家泡に出し、支隊本隊は腰忠台に宿營す、又騎兵第十六聯隊は右側衛を依然套子李に置きて警戒に任じ、主力を以て草根泡に宿營せり。

朱々山方向の搜索

三月十三日　支隊長は諸兵種より成る敵兵朱々山附近に在りて容易に前進し難きに依り、主力を以て暫く現在地に停止して搜索を繼續せんとし、午前六時命令を下し、騎兵第十三聯隊（機關砲二門共）を左側衛とし後長河沿に到り左側を警戒せしめ、前日來左側衛たりし騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）を軍命令により第九師團に復し、騎兵第十六聯隊（機關砲二門共）をして石佛寺方面より遠く北方を搜索せしむ、而して右側衛司令官中山中佐の率ゐる騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）、同第六聯隊（第一中隊欠）、機關砲二門は依然小鮑家崗子に在りて斥候を以て石山子、三家子及大鮑家崗子を搜索し、前衛司令官豐邊大佐の率ゐる步兵第三聯隊第一中隊、騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）も亦依然大丁家泡、吳家窩棚に在りて斥候を以て小河口山及朱々山方向を搜索し、敵の監視隊依然孤家子附近より遼河右岸に在りて斥候の進入を許さゞるも、朱々山附近に砲兵及大部隊なきものゝ如きを知れり。左側衛は午前七時三十分後長河沿に達し、騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）は八時五十分、後長河沿を出發して原隊に赴けり。

支隊の後長河沿に轉移

支隊長は前面の敵の大部既に退却せるが如きに依り、主力を以て後長河沿附近に移り、騎兵第十六聯隊に連絡して遼河南岸を捜索せんと欲し午前十一時命令を下し、騎兵第六聯隊（第一中隊欠）を右側衛とし吳家窩棚に移り前衛に代りて第九師團との連絡に任じ、騎兵第三聯隊及機關砲二門を本隊に收め、前衛は右側衛と交代後本隊に追及せしめ、騎兵第十五聯隊第一中隊を新に前衛とし本隊〔歩兵第三聯隊第一大隊本部及第二中隊、騎兵第二旅團司令部、同第十五聯隊（第一中隊欠）同第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）、騎砲兵中隊、戰利野砲兵中隊、機關砲十二門〕之に續行して午後一時腰忠台を出發し、二時長河沿附近に達す、高家窩棚に在りし將校斥候より午前十一時四十分徒歩兵約三大隊西方より來り、小河口山を越え東北方に行進し、後續部隊あるものゝ如く又正午頃同騎兵五、六中隊、東小河口より東北方に行進し敵兵小河口山に防禦工事を施すものゝ如く、又敵の騎兵約三中隊、朱々山東端に集合し再び東進せりとの報を得、乃ち敵の退却を覺り明朝朱々山方向より敵を追擊せんと欲し、其情況を確むる爲更に騎兵第十五聯隊をして孤家子、朱々山方向に斥候を派遣せしめ、左側衛及追及せる騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）、歩兵第三聯隊第一中隊を本隊に收め、騎兵第十三聯隊に歩兵第三聯隊第二中隊及機關砲二門を增加し、長家窩棚附近に位置して其東北方を、騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）に機關砲二門を屬し、魯家窩棚附近に位置して北方を警戒せしめ、本隊を以て尙家網、中長河沿の諸村に宿營す、午後四時五十分騎兵第四聯隊（第一中隊欠）第九師團より到着し當支隊に屬せらる。

騎兵第十六聯隊の行動

騎兵第十六聯隊は斥候を舊門より鐵嶺に通ずる道路及苗家溝に派遣し、第一中隊を右側衛、第三中隊を前衛とし午前八時五十分頃草根泡の北部を出發し、十時過ぎ前衛は衣索牛堡子東端に、本隊は其南方小林に達せり、此時

支隊の宿營

敵の騎兵小部隊、黎杷彦より舊門北方丘阜を經て馬家溝附近に亙る間に徘徊するも、大嶺附近に敵の大部隊を見ず、暫くして同騎兵約二中隊北方より前衛の前面に前進し來りしも、幾も無く北方に退却し其二、三十騎の舊門北方丘阜に行動せるに過ぎざるを以て、夜に入り再び草根泡に退き宿營せり。

三月十四日　支隊は早朝より前面の敵を擊攘せんと欲し、前夜十時命令を下し、騎兵第十五聯隊〔杉浦大佐〕を前衛とし、午前七時五間房（後長河沿西方千米）を出發し、朱々山を經て遼河左岸に沿ひ前進せしめ、騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）同第六聯隊（第一中隊欠）機關砲二門〔豐邊大佐〕を右側衛とし、同時大丁家泡を出發し、本隊の運動に伴なひ孤家子を經て小汎河方向に前進せしめ、騎兵第十三聯隊第三中隊を左側衛とし、長家窩棚附近に於て渡河し、遼河右岸に沿ふて前進し、且つ右岸の敵情並に他形を偵察せしめ、自餘の歩兵第三聯隊第一大隊本部及第一第二中隊、騎兵第二旅團司令部、同第十三聯隊（第三中隊欠）、同第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）、同第四聯隊（第一中隊欠）、騎砲兵中隊、戰利野砲兵中隊、機關砲十一門を本隊とし、前衛に續行せんとす、然るを夜半に至り、軍は第九師團の歩兵四、五大隊、砲兵約一聯隊を基幹とする一支隊を以て當支隊前面の敵を擊攘し、支隊の進路を開かんとする命令及機を逸せず敵を鐵嶺方向に追擊すべき訓令に接したるに依り、命令を改め右側衛をして孤家子、沙坨子を經て湯牛堡子方向に前進して、范家屯北方に進出せる第一軍の近衛後備混成旅團及第四軍の第十師團と連絡せしめ、左側衛をして遼河左岸に沿ひ前進せしめ、主力を以て先づ朱々山方向に前進し、騎兵第十六聯隊（機關砲二門共）をして依然草根泡附近に在りて法庫門方向を捜索せしむ。

右側衛司令官豐邊大佐は午前七時二十分諸隊を大丁家泡に集合し、騎兵第六聯隊第三中隊を前衛とし、七時四十

分同村を出發し、朱々山附近の敵の緩徐なる砲火を冒して、九時頃花寶屯に入り暫く之を避く、當時敵砲二門朱々山東北低地に在りて同山に少くも敵の徒歩兵一大隊あるが如く、西小河口東北丘に敵兵無く東小河口附近に少數の騎兵斥候出沒し、我第一軍の近衛後備混成旅團は前夜茨林子、三家子に、第四軍の第十師團の先頭は三台子附近に宿營せるを知りたり。

前衛司令官杉浦大佐は早朝より將校斥候を遼河左岸に沿ふて派遣し、騎兵第十五聯隊第一中隊の一小隊を右側衛、第三中隊の一小隊を左側衛、第四中隊を前兵として午前六時三十分尙家網を出發し、前兵中隊は一小隊を尖兵として行進中、七時二十分微弱なる敵騎の大丁家泡東北を北方に退却し、尙ほ徒歩兵の朱々山に在るを發見し、更に進みて小丁家泡東北約一千米に達したる時、遼河右岸の森林より敵騎約三十の射擊を受けたるに依り、暫く東南方に避く、此の間尖兵は敵の斥候を追蹤して西小河口に前進せしに依り、更に他の一小隊を尖兵として前進するや突然朱々山麓より敵の砲火に遭ひ、前衛は大丁家泡東方に廣間隔の縱隊に展開す、支隊の左側衛は七時過ぎ西長家窩棚を出發し、南孫家窩棚に向ひ前進し、支隊本隊は八時頃大丁家泡に達し、戰利野砲兵中隊に射擊を命じ其援護として騎兵第十三聯隊（第三中隊欠）を小丁家泡に停止せしむ、乃ち戰利野砲兵中隊は九時十分大丁家泡北方に放列を布き、朱々山東麓の敵砲兵を射擊し、尋で拉古台森林の敵騎を射擊せり、當時第四軍の歩兵約一大隊、騎兵約一聯隊は徐家胡に達し、第一軍の近衛後備混成旅團は范家站附近の敵と對戰中にして、遠く東方に砲聲あり、前衛は戰利野砲兵中隊の射擊開始と同時に前進し、西小河口南方約一千五百米附近に達し、敵の砲火を冒し前進して同村に入り、尋で東北方丘阜に進出せり、此際朱々山附近の敵の騎兵の主力、遼河右岸に退却するに似

たり、乃ち杉浦大佐は騎兵第十五聯隊第二第四中隊を、西小河口北方丘阜に配置し北方を警戒せしめ、同第一第三中隊を其南麓に置き豫備隊と爲せり。

是より先支隊長は騎兵第十三聯隊第一中隊の一小隊を、南孫家窩棚に派遣して左側の警戒に任じ、更に同聯隊第二中隊をして朱々山附近に進み敵情を搜索せしめ、歩兵第三聯隊第二中隊及戰利野砲兵中隊を田村少將に屬し、依然大丁家泡に在り、本隊の前進を掩護せしめ、躬ら本隊を率る十時頃小丁家泡を出發するや、再び敵の砲火を受けしも損害無く大鮑家崗子に到着し、騎砲兵中隊をして之に對せしむ、乃ち同中隊は同村西北より射擊して之を沈默せしむ、乃ち本隊は更に前進して十一時三十分頃西小河口に達し、朱々山北方附近を退却中の敵の騎兵二、二中隊を發見し、直に騎砲兵中隊を以て西小河口北方丘阜まり之を射擊して潰亂せしめ、尋で遼河右岸の村落を掃射せり、此間右側衛は孤家子附近の小數の敵を驅逐して午後二時頃沙坨子に達す。

支隊長は午後一時過ぎ第九師團の平佐支隊の前進して、西小河口北方丘阜に達するや、前衛をして小汎河に向ひ前進せしむ、前衛は依然騎兵第十五聯隊第四中隊を前兵とし、同第一中隊と一小隊を孤家子西方より前進せしめ二時頃主力を以て東小河口に到着す、此時第四軍前田支隊の騎兵部隊は榮家屯附近に達し、小汎河に向ひ前進せしを聞き、支隊長は前進目標を賀家坎附近に變更し、右側衛をして其方面安全なるに至らば支隊本隊に合せしめ、前衛をして二時三十分より前進せしむ、乃ち右側衛は第四軍の前田支隊、沙坨子に到着せしに依り三時三十分同村を出發し、北堡東北丘阜附近に於て揚威樓附近より敵の砲火を受け、丘阜脚に接して開進し尋で一部を以て英守屯を占領せり、前衛は三時二十分頃湯牛堡子東北約一千米の丘阜に達し、數次の一齊射擊を聞き、又將校斥候

より揚威樓に敵の騎兵約二中隊其西方に砲兵あるが如く、更に其西方にも騎兵約二中隊あり、尚ほ汎河附近に多數の敵騎ありとの報告を得停止して捜索せり、而して揚威樓附近には依然敵兵あるが如く、其歩騎兵の大縱隊太窩(揚威樓北方二千米)附近を續々北方に退却せり、當時支隊本隊は北堡東北丘阜脚に開進し田村少將の率ゐる部隊も亦追及し之に合せり、此に於て支隊長は砲兵兩中隊を以て同丘阜より揚威樓西北端の敵兵約二中隊を、砲尋て小汎河北方の同約一中隊を射撃し、爾後揚威樓北方附近を退却する諸兵連合の大縱隊を射撃し、又時々退却する敵騎兵及揚威樓の砲兵を射撃す、敵の砲兵亦我に應射せり。

第四軍の前田支隊(第十師團より派遣したる前進支隊)の歩兵は午後四時頃沙坨子より續々北堡に進入し、其砲兵一中隊は四時三十分頃北堡北方丘阜に放列を布き、我砲兵兩中隊に協力して退却する敵縱隊を射撃するや、敵の歩兵約一聯隊踵を回らして我に向ひしも、我猛射に遭ひて潰走し其揚威樓の砲兵も夕に至り沈默せり、又左側衛たる騎兵第十三聯隊第三中隊は途中少數の敵を驅逐し、午後三時四十分老河灣に達し賀家坟、逢家窩棚附近の敵情を捜索せり。

此夜前衛は歩兵第三聯隊第一大隊(第三第四中隊欠)機關砲四門を增加せられて北堡に宿營し、其北方丘阜を守備し自餘の諸隊は湯牛堡子に宿營せり(當地附近遼河沿岸一帶の地は山厰豌奬人烟稀なる僻陬にして、支隊の向ふ所井水濶し飲馬炊爨に惱みたり)。

三月十五日　支隊長は前面の敵兵退却せしに依り、鐵嶺方向に進出せんと欲し、午前三時湯牛堡子に於て部署する所ありしも午前五時頃、秋山支隊は第九師團平佐支隊の運動に伴なひ遼河右岸に移り、鐵嶺の背後に行動し

要すれば支隊の歩砲兵を一時平佐支隊に殘置すべき第三軍訓令に接し、諸隊を七時三十分同村南方に集合し、前衛〔司令官内田中佐、騎兵第三聯隊(第一中隊の一小隊及第三中隊欠)、同第四聯隊(第一中隊欠)〕をして西小河口、朱々山麓を過き速に遼河の渡過點を偵察せしめ、本隊〔歩兵第三聯隊第一大隊(第三第四中隊欠)騎兵第一旅團(第十四聯隊第四中隊欠)同第二旅團司令部、同第十五聯隊、同第六聯隊(第一中隊欠)騎砲兵中隊、戰利野砲兵中隊、機關砲十三門〕之に續行し、前衛は八時四十分朱々山に達し、前兵たりし騎兵第四聯隊第二中隊を遼河右岸に進めて、前衛本隊の渡河を掩護せしめ、後朱々山西方に於て渡河し(上面に流氷ありしも下部は河底に至る迄結氷し諸兵種徒渉し得たり)十時頃石磊子に到りて本隊の渡河を掩護す、當時尖兵は魏家窩棚に在り、支隊長は途中西小河口に於て平佐少將と會見し、協同動作に就き協定する所あり、尋で本隊と共に渡河し更に進みて十一時本隊を以て魏家窩棚に達し、騎兵第十四聯隊(第四中隊欠)を右側衛とし、又草根泡附近に在りし騎兵第十六聯隊(機關砲二門共)をして一部を以て奉天——法庫門道を監視し　主力を以て本隊の運動に伴なひ、前進せしむ、午後二時頃前衛は三台子に到着し、尋で左側衛も亦阿吉牛家堡子を經て同村に達し、其前衛たりし騎兵第十四聯隊第三中隊は石家崗子附近の敵の騎兵斥候を驅逐して同村に入る、當時敵の騎兵、宗荒地、前馬家孤山子附近に出沒す、支隊本隊は阿吉牛家堡子に到着し、騎兵第十六聯隊は草根泡より其東方馬家荒地に移りて敵情を捜索し、第二中隊を以て賀爾海北方を捜索中午後四時三十分支隊長の命令を受領せしに依り、第二中隊の一小隊を舊門附近に置き、花牛堡子を經て七時五十分沈家甸子に到着せり。

此夜前衛及左側衛は三台子に宿營し、左側衛より騎兵第十四聯隊第三中隊の一小隊を烏巴海に派遣し、本隊は古

大台山附近追擊

城子及阿吉牛象堡子に、騎兵第十六聯隊は沈家甸子に宿營せり。

此夜鐵嶺に火災あり紹烟天に冲す、是れ敗軍の糧食及建築物を燒棄するものならん。

三月十六日　支隊長は三台子、南長溝沿を經て鐵嶺北方に進出せんとし、前夜命令を下し騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）同第六聯隊（第一中隊欠）戰利野砲兵一小隊、機關砲二門を豐邊大佐指揮し左側衛として、午前七時三台子を出發し、大台山附近を經て支隊の運動に伴なひ北進せしめ、騎兵第十六聯隊（機關砲二門共）をして支隊の左側を掩護し、大台山方向に進出せしめ、騎兵第十五聯隊、騎砲兵一小隊、機關砲四門を田村少將に指揮せしめ前衛とし、自餘を本隊として午前七時阿吉牛象堡子を出發せり。

前衛は敵に遭遇することなく九時二十分頃、英二台子に到り十時南長溝沿に達し、蔡牛堡子西北約三千米の高地上に敵の監視兵、其後方斜面に敵騎約五十あるの報を得、十一時三十分東貝河に達し土民より同村に在りし敵の歩兵約百、騎兵二十前日東北方に退却せしを聞く、此際我斥候は什五間房に在りし敵の數騎を擊退せり。

支隊は更に前進し、正午過ぎ少數の敵騎を驅逐し、前衛を以て賈家瓦房に、本隊を以て二公台北方高地に達し更に前進し、午後三時頃前衛本隊は三台子北方谷地に、前兵たる騎兵第十五聯隊第三中隊は大新田堡に達せり、當時敵の歩兵少くも一旅團の大高力屯に集合し、尙ほ約一聯隊の董家孤家子北方を退却中にして、其砲兵の主廣福屯附近の高地より山頭砲射を擊し、又敵騎兵約十中隊は大新田堡北方三千米を東北方に退却す、而して前衛司令官田村少將は、敵の歩兵約一中隊大台山方向より西營盤附近の我左側衛を攻擊せんとするの報を得、前衛本隊を以て四時頃大新田堡に前進し、左側衛の側面を掩護し、騎砲兵小隊をして退却する敵の歩兵を射擊せしむ、此間

支隊の宿營

開原方向の敵情搜索

支隊本隊は三台子に到着せり。

左側衛は大榆樹堡を經て午前八時四十分頃英二台子附近に達し、其北方高地に出沒する微弱なる敵の騎兵斥候を見、更に西貝河、永安堡を經て三時三十分西營盤に達し、泉眼溝附近の敵の歩兵約一小隊及大台山南方高地の約百に對し徒歩戰を爲し、戰利野砲兵小隊を以て大台山の歩兵を射擊して北方に潰走せしめ、四時二十分西營盤を出發して小新田堡に達し、戰利野砲兵小隊を以て董家孤家子及老邊附近より北方に退却中の敵の二大縱隊を射擊して潰亂せしめ、騎兵第十六聯隊（機關砲二門共）は同時沈家甸子より小新田堡西北高地に達す、此間途中に於て小數の敵騎大青堆子附近に出沒し同七、八中隊の午前十時二十分頃前馬家孤山子附近より東北に退却するを見たり。支隊は此夜前衛（歩兵第三聯隊第二中隊を增加す）を以て大新田堡に、左側衛を以て西營盤に、騎兵第十六聯隊（機關砲二門共）を以て永安堡に、本隊を以て三台子、木廠（鐵嶺西北約一里半）附近に宿營せり。

第十五章　開原附近の追擊戰

三月十七日　支隊は前夜開原方向の敵情を搜索すべき軍命令を受け、騎兵第二旅團を奉天——法庫門道に派遣して軍司令官の直轄に移し、西營盤の左側衛を早朝大新田堡に派遣して、前衛と爲し其戰利野砲兵一小隊を除き舊前衛の騎砲兵一小隊を屬し、騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）をして午前八時木廠を出發し、開原方向の敵情を搜索せしめ、歩兵第三聯隊第一大隊（第三第四中隊欠）戰利野砲兵中隊を各其原所屬に復す、

花樓附近の追擊戰

乃ち新前衛は午前八時大新田堡に到着し、騎兵第六聯隊第二中隊を東北端に派遣して警戒し、本隊〔騎兵第四聯隊（第一中隊欠）同第十三聯隊、騎砲兵中隊（一小隊欠）機關砲七門〕は七時三十分三台子を出發し、九時大新田堡に到着し、支隊長は更に騎兵第四聯隊（第一中隊欠）を前衛、同第十三聯隊を左側衛とし九時三十分同村を出發し、開原方向に前進す、又先遣せる騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）は同時三十五分頃董家孤家子に於て清河を渡り、大高力屯、北溝を經て新屯北方高地に向ひ前進し、同地に在りし少數の敵を驅逐し、午後一時三十分頃同村に入り其前衛たる第一中隊（二小隊欠）は三時沙河子及其西方高地を占領せり、支隊本隊は十時頃老邊に於て遼河を渡り、十一時前史家堡に達し微弱なる敵騎を驅逐して、午後零時三十分前衛を以て後三家子に到る、此時敵騎の小部隊は南花樓及東馬家窩棚附近に出沒し、我斥候を射擊せり、左側衛亦同時頃後三家子に達せり。

支隊長は一時三十分頃本隊と共に前三家子に到着し、諸報告に依り一師團以上の敵の大縱隊は數多の通路に依り北方に退却中にして、午後零時三十分頃其後尾を以て南英城附近を通過し、別に開原停車場附近に歩兵約一大隊現在し大爪台子附近にも敵の歩騎兵退却中に在り、又前日來支隊の前面に在りし敵は約一軍團、騎兵二十中隊にして其大部開原停車場方向に去れるを知り、更に騎兵第六聯隊第二中隊（二小隊欠）を開原方向に派遣し、爲し得れば同地を占領せしめ、更に進みて前衛を以て二時三十分南花樓に達し、敵の歩兵一中隊騎兵三十北英城附近を退却するを知り四時過ぎ北花樓に達し、敵の歩騎兵各約一聯隊馬圈子及廣寧窩棚附近より退却し、八寶屯東北高地に集合中なるを見る、支隊長は本隊と共に北英城に到著して此報告を得、直に騎砲兵中隊、機關砲二門を派遣して敵を追擊せしむ、乃ち同隊は急行して北花樓東北端に到り、砲兵は樣堡附近の高地に集合せる敵を射擊し其大

支隊の宿營

開原方向追擊前進

部を潰亂せしめ、且つ我に向ひ前進せし歩兵約二中隊を擊退せり、而して敵兵一部を樣堡附近の高地に留め、自餘を以て東北方に退却せり、此間左側衛は騎兵第十三聯隊第二中隊を後史家堡に留め、二時頃後三家子を出發し、微弱なる敵騎を驅逐し、五時過ぎ兩家子を經て廣寧窩棚に達せり、又騎兵第六聯隊第二中隊（二小隊欠）は清河左岸を前進し、行々少數の敵を驅逐して、五時頃二塞子に達し開原停車場附近を捜索せり、朝來約一師團の敵は開原方向に退却し、夕に至るも若干は頭塞子附近に出沒し、小孫台及開原停車場は熾に燃燒中に在り。

此夜支隊は騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）を以て中固に、同第六聯隊第二中隊（二小隊欠）を以て三塞子に、前衛を以て北花樓に、左側衛を以て兩家子に、本隊を以て九間房、北英城に宿營す、而して敵の第一線は馬圈子より胡家窩棚を經て大灣屯附近に亙り、四社、胡家窩棚附近に稍有力なる敵の歩兵停止せるが如く、又北英城附近より退却せし長徑約一里の敵兵頭塞子附近に留まりしに似たり。

三月十八日　支隊は樣堡を經て開原の西北に進出せんと欲し、騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）を前衛同第六聯隊（第一中隊欠）を左側衛とし、中固の騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）を本隊に招致し、本隊の同第十三聯隊第一中隊を兩家子に留め、前衛は騎兵第十四聯隊第一中隊を前兵とし、午前八時二十分北英城を出發し九時頃娘々屯に、本隊は同時三十分北花樓に達す、是時八寶屯西北高地の敵の小部隊北方に退却せしも、其騎幕頭塞子より四社、胡家窩棚を經て八寶屯東北高地に亙り大灣屯北方、馬家窩棚附近に敵の騎兵數百あるが如く胡家窩棚に歩騎兵各一、二中隊あり、此に於て前衛は支隊長に請ひ、十時頃騎砲兵一小隊、機關砲二門の增加を受く、午後一時頃胡家窩棚に敵の歩兵一、二中隊、樣堡附近に多數の敵兵北方より進入し、又騎兵約一中隊

八寶屯附近の追擊戰

樣堡附近を東南に向ひ行進するを以て、騎砲兵小隊は同時二十分娘々屯東端に放列を布き、胡家窩棚を射擊するや敵兵其一部を殘し、馬鬚河に沿ひ退却せり、左側衛は午前八時南英城を出發し、兩家子に於て騎兵第十三聯隊第一中隊を合し、同第六聯隊第二中隊の二小隊を前衛とし、支隊の運動に伴なひ十時和順屯に到着す。

中固に在りし騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）は支隊の命令を受くるに先だち、高台子附近に前進し開原方向を搜索せんとし、第二中隊の二小隊を前衛とし、午前七時三十分中固を出發し、沙河子に到着して始めて支隊命令を得、九時沙河子を出發し午後零時五十分北英城に到りて本隊に合す。

支隊の前衛は午後三時頃八寶屯附近に在りし少數の敵を驅逐して、同地を占領せしも胡家窩棚附近の敵兵頑强に抵抗せしに依り、徒歩して八寶屯東北端に據り之に對す、支隊長は午後一時十五分開原附近に進出すべき軍命令を受領し、本隊を率ゐて四時三十分八寶屯に進み、機關砲二門を同村東北端に進めて前衛に增加し、騎砲兵中隊（一小隊欠）及機關砲五門を同村西北端に配置す、同時左側衛も亦來り合せり、六時過ぎ敵砲約二門、樣堡附近より射擊したるも黃昏に至りて止めり。

開原附近の敵は正午頃より概ね退却し、同停車場附近に步兵約一大隊、騎兵若干停止し四社、胡家窩棚、樣堡附近の敵の大部も亦退却せしに似たりと雖、尙ほ步兵一、二中隊、騎兵一、二百殘留しあり、馬圈子附近に於ける俘虜の言に依れば樣堡附近に在るものは、第十七軍團の步兵第百三十八聯隊にして後衛に任じ、主力は公主嶺附近に集合中にして其附近に防禦工事あるものゝ如し。

是夜支隊は八寶屯附近に宿營す、而して騎兵第六聯隊（第一中隊欠）を第四軍に復せしむべき軍命令夕刻到着せ

開原の占領

諸斥候を以ての搜索

しに依り同聯隊は依然支隊に在りて明日出發に決せり。

三月十九日　支隊は早朝騎兵第六聯隊（第一中隊欠）を第四軍に復し、午前八時前進を開始し、行々小數の敵騎を驅逐して前衛を以て午後二時四十分螞螂屯に達し、其騎兵第十四聯隊第三中隊は、小數の敵を擊退して開原に進入し、本隊は劉家屯、小灣屯（開原西北約一里）に達し、同夜各到着地に宿營す、當時敵の諸縱隊は連續退却し、夕に於て其騎兵は螞螂屯北方約二里半附近の地を、東西に亙る線に配置し其主力は遠く北方に退却せり。

支隊は奉天附近の會戰開始以來連日行動し、人馬共に疲勞甚大なりしに依り姑く停止して休養す。

第十六章　昌圖附近の行動

三月二十日　支隊は山口搜索隊（騎兵第三聯隊第二中隊（二小隊欠））を威遠堡門に、佐原搜索隊（騎兵第十三聯隊第一第二第四中隊の一小隊）を昌圖に派遣し、騎兵第三第十三聯隊より吉林方向に、騎兵第四第十四聯隊より長春方向に各將校斥候を派遣せり、乃ち山口搜索隊は午後四時威遠堡門附近に在りし敵騎四、五十を驅逐して同地を占領せり、當時附近に敵騎四、五中隊ありしも南城子方向に退却せり。

佐原搜索隊は下馬纏河に達し敵の步兵約二千、騎兵四、五百同村東北鐵道西側の各村に集合し、其騎幕の大營盤停車場の東西に亙るを知りしも幾くも無く、敵兵漸次北方に退却し、其騎幕磚城子、十里台附近に在るを知り、且つ諸情報を綜合し馬千總台及雙台子附近を經て、昌圖附近に退却せしもの共に約一師團なるが如く、其後尾尙

十里台附近に在りと判定し、之に接觸して二十二日昌圖に達し、敵の監視兵東二十家子及西二十家子附近に在るを知れり。

騎兵第十三聯隊より吉林方向に派遣せし將校斥候は、是日午後一時三十分小鬗屯を出發し、開原東方約四里附近より敵の背後に潛入せんと欲せしも、敵の警戒嚴密にして果さず、是に於て斥候長騎兵中尉小林環は騎兵上等兵向後三四郎と共に支那人に變裝し、斥候の殘餘を原聯隊に歸還せしめ、遠く迂回して敵の背後に進入し、後吉林に到り長春を經て敵の捕虜となり、哈爾賓に於て戮殺せられたり、洵に悲痛に堪へざるなり。

昌圖の占領

三月二十一日　騎兵第十三聯隊第三中隊は敵の退却に尾して昌圖を占領せり、依て支隊は主力を以て同地に前進せんと欲し、又夜に入り同一の軍命令を受け、且つ威遠堡門方向に派遣せし、騎兵第三聯隊第二中隊（二小隊欠）より前日開原――吉林道の敵の騎兵四、五中隊南城子以北に退却し、此日午後一時其後衛の如きもの蓮花街に停止せし報を得たり。

支隊の昌圖進入

三月二十二日　支隊は昌圖に向て前進せんとし、騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊第二中隊の二小隊及第三中隊欠）（小池中佐）を前衛とし、午前八時宿營地出發、馬蘭屯、馬千總台、馬鬃河、十里台、五里堡子を經て午後一時過ぎ昌圖に到着し、敵兵約一萬鐵道に沿ひ上滿井以北に退却せしも、其騎兵の一部前日午後七時頃尚ほ二道勾附近に停止し、雙台子停車場附近に多數の露營火あり、又其約五千昌圖――奉化道を興隆泉以北に退却せるを知り、前衛に騎砲兵一小隊、機關砲三門を增加し昌圖の東北部に、右側衛を東部に、騎兵第十三聯隊第三中隊を左側衛として西北部に、其他を西南部に宿營せしむ。

支隊の昌圖に到着するや市民は一齊に先登旗と記したる日章旗を新調し、各門戸に樹て歡迎の意を表せり。

三月二十三日　支隊は當分同地を根據とし搜索を續行す、當時敵の監視兵蓮花街に在り、同騎兵約五百西砂河子附近に南進し、四面城方向に退却せしもの大窪附近に停止し、又同騎兵約二聯隊雙山子より烟家窩棚に到り、其約二中隊東大勾に前進せり。

友軍騎兵第二旅團は金家屯に進出し、同地を根據地として搜索を續行せり。

三月二十四日　支隊は昌圖の周邊に防禦工事を施し、烟家窩棚附近を搜索せしも敵を見ず、鐵道方向に在りては敵の小部隊二道勾、大台子、上滿井附近に前進し來りしも、日沒後悉く北方に退却せり、而して數百の敵の騎兵雙台子停車場、鶯鶯樹、八面城附近の各地に停止せるものゝ如し。

三月二十七日　長谷川少佐の率ゐる搜索隊（騎兵第十四聯隊第二第三中隊機關砲二門）は西砂河子附近に前進し敵の騎幕の雙台子停車場、鶯鶯樹、大窪の線に亙り其一、二の搜索中隊時々興隆泉附近に來り、又奉化及八面城附近に諸兵連合の敵二、三萬停止せるを知り、二十八日行々少數の騎兵を驅逐して前進し、雙台子停車場、鶯鶯樹附近に敵兵なきを知り、前三道林子に進入せんとせしも敵の騎兵の妨ぐる所となり、二十九日昌圖に歸還す。

騎兵第四聯隊第三中隊の二小隊は二十里堡に達し、前儀合屯、楡樹堡間に敵の騎幕を發見せり

當時支隊長は敵兵吉林、長春の線以北に退却し、尚ほ奉天附近に約一軍團、支隊前面に約一師團ありと判定し、支隊の獨力を以て奉化を占領する能はずとするも、尚ほ鶯鶯樹附近迄前進し得べしと信じ、之を第三軍司令官に報告するや、同官亦奉化附近の敵情を明らかにせんと欲し、二十九日馬場支隊並に第七師團より各歩兵一大隊を

昌圖及金家屯に派遣し、我支隊及騎兵第二旅團の支援とし、又我支隊を鷺鷥樹附近に進め、奉化方面の敵情を搜索すべき命令を受く。

支隊の前進準備中騎兵第四聯隊第三中隊の二小隊は、前儀合屯附近に在りし敵騎兵約四十を擊退し、同第十三聯隊第二中隊と協力して興隆嶺附近より、鷺鷥樹方向に退却せる同約一中隊を追躡して、其蓮花泡附近を通過し、一部隊を二道河子附近に留めしを知り、興隆泉に停止警戒す、午後一時より雪降り夜に入り尙歇まず約五寸に及べり。

三月三十日　搜索中隊（騎兵第十三聯隊第二中隊）は將校斥候（渡邊少尉指揮す）を柳條溝、鷺鷥樹を經て二道河子附近に進め敵情を搜索し、午後八時昌圖に歸還せり、當時敵の主力は稍後退せしも、其約百騎は午後四時三十分頃柳條溝附近迄前進せり。

四月一日　第一挺進騎兵隊に編入したる將校以下原隊に歸還せり。

第三軍先進支隊たる馬場少將（歩兵第一聯隊、騎、砲、工、各一中隊）の一部（歩兵第一聯隊第一大隊、騎兵第一聯隊第一中隊の二分隊）當支隊の支援として來着せり。

騎兵第十四聯隊第一中隊は雙台子停車場南方高地に於て、敵騎兵約一中隊を徒歩戰に依りて擊退し、二道溝東北端に達せり、是時敵の奉天附近の會戰に於て、我軍中に遺留したる醫官百一、看護婦九、露軍に交付する爲め此附近に到着せしにより、少時戰鬪を中止し雙台子停車場北方高地に於て、之を敵軍に交付したる後紅山堡に退却す。

第十七章　鷺鷥樹附近の戰鬪

四月三日　支隊は鷺鷥樹に進出して遠く長春、奉化の敵情を搜索するの目的を以て、騎兵第十四聯隊を前衛、同第四聯隊（第一中隊欠）を右側衛として、午前八時昌圖府を出發し、鷺鷥樹に向て前進し、正午頃前衛は興隆泉に、右側衛は六家子に達し、同地北方高地に出沒せし敵騎十五、六を驅逐せり、支隊長は奉化附近に多數の敵あるを、四平街に約二百騎、蓮花泡、鷺鷥樹に各十餘騎あるを知り、更に前進し遙に西方に砲聲を聞き、午後三時三十分鷺鷥樹に到着し、前衛をして其の北端を守備せしめ、本隊を南端に停む、同時右側衛は小壕子を占領し前衛の左側衛たる第四中隊は四面城西北に於て　清國馬隊を混ぜる四、五十の敵騎を東大勾方向に驅逐して前進し　尋で前衛は北部鷺鷥樹に位置し、前兵たる第三中隊を二道河子に派遣して警戒し、右側衛は東部鷺鷥樹を守備し、其一部を小壕子附近に派遣し、前衛の左側衛中隊は鷺鷥樹西北約五百米の村落を守備し、騎砲兵中隊は鷺鷥樹北端に、機關砲六門は同村東、西、北の三面に、自餘の諸隊は其宿營地附近に防禦工事を施せり、當時敵の騎兵約二中隊鐵道に沿ひ南進し道を轉じて三道林子附近に來り、又斥候柳條溝附近に出沒せり。

此日支隊の鷺鷥樹に進入するや市民日章旗を揭げて歡迎せり。

四月四日　支隊長は敵の騎幕北三道子より東屯附近に亙り、尙ほ雙台子停車場附近に其一部隊現在せるを、並に友軍騎兵第二旅團の前日優勢なる敵の壓迫を受け金家屯に退却し、同地の支援部隊と協力して對戰中なるを知

り、依然鶯鶯樹に在りて騎砲兵一小隊及機關砲三門を前衛に、機關砲二門を右側衛に屬し、騎兵第三第十三聯隊をして奉化及鐵道に沿ふ方向、同第四第十四聯隊をして昌圖――奉化道及八面城方向を搜索せしむ。

搜索隊の太陽溝附近搜索

騎兵第十三聯隊第三第四中隊は喜多少佐指揮し搜索隊と爲り、午前八時出發後小壕子附近に於て敵騎約一小隊に遭遇し、第三中隊の一小隊を以て徒步戰に依り之を擊退し、尋で三道林子に達し同約二中隊雙台子停車場附近より北進するを見更に前進し十時頃北三道林子高地西麓に達せしとき雙台子停車場附近より北進せる敵騎約三十の射擊に遭ひ直に兩中隊の各半部をして之を擊退せしめ、他の半部を同高地上に遣り、其東方一千五百米の高地に敵騎四、五十の徒步散開せるを發見し、第四中隊をして徒步戰を以て之を驅逐せしめ、更に前進して二道溝の鐵道監視家屋に達せり、時に敵の騎兵約五百鐵道東方を四集團となり退却中なりしに依り、搜索隊は全部下馬して射擊するや、其一部徒步して應射し、他は太陽溝方向に潰走せり、此に於て搜索隊は午後一時二十分、第三中隊の約半小隊を鐵道線路上に殘置して、二道溝東方に前進し、敵騎兵約二中隊黑咀子東南約三千米附近より太陽溝附近に亙り停止せるを見、五時第三中隊の半小隊と第四中隊の斥候を殘して歸還せり。

鶯鶯樹の來攻

四月五日　支隊は騎兵第十三聯隊第二中隊を長毛勾に派遣し、雙廂子、四平街方向の敵情を搜索せしむ、乃ち搜索隊は午前八時出發長毛勾に到着す、十時頃敵の步兵約三中隊騎兵約四中隊二道河子附近に、午後零時三十分頃騎兵約一聯隊小房身附近に前進し來り、兩地の我前哨鶯鶯樹に退却せしに依り、前衛司令官豐邊大佐は第一中隊、機關砲二門及騎砲兵一小隊を鶯鶯樹北端の陣地に就かしむ、然るに三時四十分頃爰に二道河子附近に進入せし敵の騎兵約三中隊退却を始めしに依り、騎砲兵小隊は同村東北端より之を射擊し、尋で小房身附近の敵騎も亦東北方

に退却せしか故に、騎兵第十四聯隊第一中隊は五時二十分再び二道河子を占領せり、而して此附近に在りし敵は步兵約二中隊騎兵約一中隊にして、尙ほ各二中隊の騎兵一は東方二千米の地を北方に退却し、他は雙台子停車場附近に行動せり、朝來長毛勾附近に派遣したる搜索隊は、午後五時頃歸還せり。（夜に入り雪降る）

昌圖來攻

此日在昌圖の支援隊は敵騎五、六中隊の攻擊を受く、當時支隊の大行李及糧食、步、砲彈藥縱列より成る臨時縱列も昌圖に在り該指揮官長谷川騎兵少佐は、騎兵第十四聯隊の執銃の輸卒を同地西方及西南方に配置す、十一時五十分以後敵の騎兵漸次東朝陽堡より八家子方向に增加し、午後二時過ぎ五、六中隊に增加し、其一部北進し昌圖を包圍せんとするものゝ如く、三時頃に至り徒步散開して前進し來りしに依り、步兵第四中隊及輸卒隊熾に之を射擊し、交戰約一時間にして敵の一部東北に、同大部北方に退却せり。

鶯鶯樹に於ける支隊の防禦戰

爰に鶯鶯樹――昌圖間の電話線破損し修理に任せし電話班は、午後四時二十里堡南方の河中に於て電話修理中敵の四五騎に遭ひ之を擊退し、材料車を逐次左岸に移し昌圖に向ひ行進中、尋で西方より同約七、八十騎の來襲を受け電話材料若干を遺棄せしも班員は五時三十分昌圖に歸來せり。

四月六日　朝來濃霧支隊は騎兵第二旅團方面に來襲せし敵の騎兵の大部、前日北方に退却せしも其一部昌圖、興隆泉間に侵入せしを知り、騎兵第三聯隊第二中隊の一小隊を興隆泉に、同第四聯隊第二中隊の一小隊を雙台子停車場附近に派遣す、午前十一時在昌圖牛尾少佐の通報に依り、前日午後興隆溝に敵の騎兵來襲し、同地の守備隊之を擊退せしを知り、乃ち南方に對し警戒を嚴にせり、然るに騎兵第三聯隊第二中隊の一小隊は興隆泉に赴くの途中柳條溝南方一千米に於て敵騎約五十に遭遇し、直に徒步戰を爲せしも幾も無く敵兵約二中隊に增加し、我

兩翼に迫りしに依り漸次鷲鷲樹に退却し、同聯隊第二第三中隊の一部之を收容せり、是等敵兵濃霧に乘じ鷲鷲中樹南方七八百米に達せしも同聯隊第三中隊（二小隊欠）之を擊退せり。

然れども午後に及び敵兵南方より益々近接せしに依り、騎兵第三聯隊（第一中隊及第三中隊の二小隊欠）は同村南端に據り、同第十三聯隊長小池中佐は第三中隊を東南端に、第一中隊の二小隊を同村西端の陣地に據らしめ、第二中隊（一小隊欠）は豫備隊と爲り村内中央道路上に集合せり、然るに一時頃敵砲二、三門西南方より射擊を開始す、偶々砲火の爲騎兵第十三聯隊本部たりし、民家の裏園に集積しある高粱稈に發火し宿舍、馬繫場に延燒せんとす、尙ほ砲火の集注を避けんとし、豫備隊は砲火を冒して消火に努めたり、支隊長は濃霧の爲敵の砲兵陣地不明なりしも、騎砲兵各一小隊を鷲鷲樹の西北、西南及東南端の各陣地に、又機關砲二門を西南方に對し、同村西端突出部の陣地に就かしむ、是時敵騎三、四中隊徒歩して漸次前進し來りしに依り、騎兵第三第十三聯隊之に應射し、騎砲兵中隊は柳條溝東南を移動する約四中隊の敵騎か射擊して潰亂せしめ、尋で該村落附近に在りし敵砲四門の位置を發見して之を射擊し、又西端の機關砲も共に此敵砲兵を射擊せり、既にして敵の徒歩兵益々近接し彼我の火戰漸次猛烈と爲りしが故に、我機關砲隊は其一門を鷲鷲樹の西端陣地に增加し、一門を東端に二門を南端の陣地に就かしめ、又他の二門を西北端陣地に配置して、騎兵第十四聯隊長豐邊大佐の令下に移せり、當時敵砲四門鷲鷲樹西北二千米の森林に陣地を變換せるものゝ如く、同方向よりの射擊猛烈にして、別に敵の騎兵約一聯隊西方より散開して前進し來りしに依り、西北端陣地の我機關砲射擊を開始するや、敵兵同村西方小高地脈に停止して應射せり、此頃小壕子附近に存りし小哨（騎兵第四聯隊第三中隊の一小隊）は長尾溝（小壕子東南

約一里）及三道林子附近の敵騎約二小隊の壓迫する所と爲り、後小壕子に退却す、二時過ぎ敵兵漸次西北に移動し我騎砲兵並機關砲之を射擊せしも、終に遠ぐ鷲鷲樹西方を迂回して退却し、二時五十分頃同騎兵約一中隊四家子を經て、西北に退却し我機關砲、騎砲兵小隊之を射擊して潰亂せしむ、是に於て支隊長は騎兵第四聯隊（第一中隊欠）に命じ、柳條溝附近の敵を驅逐せしむ、乃ち同聯隊は柳條溝東方高地に到りしも敵を見ず、是時我大行李の興隆泉方向より前進し來るに會し、興隆泉、昌圖間の連絡舊に復せしを知り、六時鷲鷲樹に歸還す、而して敵の騎兵の主力（二十餘中隊）は東大泉以北に退却し、其一部は同地及蓮花泡附近に宿營す。

騎兵第三聯隊第三中隊の一小隊は前日來小房身附近に在りしが、四平街方向に前進して搜索中、敵の騎兵約一中隊の壓迫する所と爲り午後五時頃退却し、途中敵の騎兵大縱隊の退却するを認め、更に追躡して西大泉眼附近に前進せり、然るに俄然有力なる敵の騎兵縱隊に遭遇して奮鬪せしも、將卒殆ど死傷し卒三名のみ、辛ふじて歸還せしに依り、第三中隊（一小隊欠）は午後八時赴援せしも得る所なく歸還せり。

雙台子停車場方向に敵の騎兵約一中隊行動せしも夕に至り北方に退却せり。

鷲鷲樹——昌圖間の電話線修理に任ぜし第九師團野戰電信隊の一部は、是日昌圖に歸還す、又敵の指揮する清國馬隊屢々昌圖——鐵嶺間の電信を破壞せしにより、馬場支隊の歩兵第一聯隊第六中隊開原停車場に到り、之れが掩護に任ず。

此日の戰鬪に於ける支隊の損害は小島中尉外下士卒二名負傷し、加藤少尉外十八名俘虜と爲り、射耗小銃彈七千五百發、砲彈百二十八發なり。

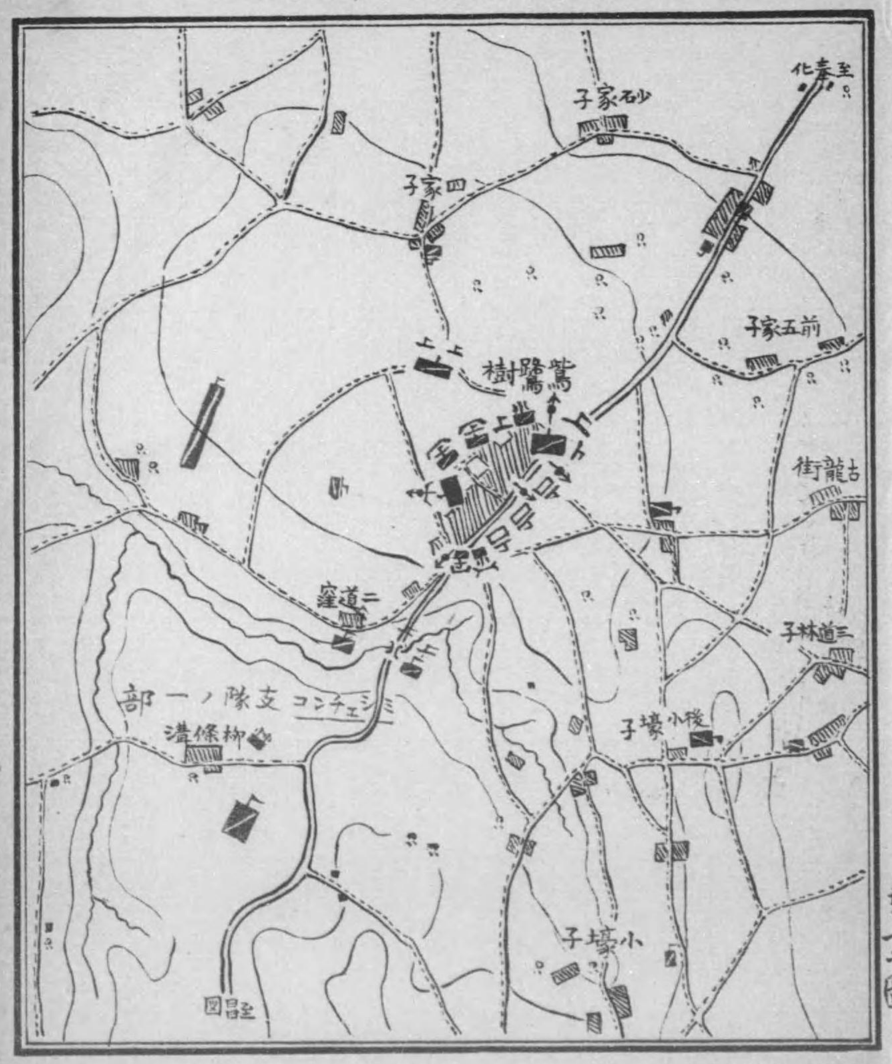
四月七日　支隊は警戒を嚴にし搜索を續行す、前日來攻せる敵は退却し終日靜穩なり。

此夜軍司令官より支隊前面の敵は、雙台子停車場北方四平街、八面城を搜索根據と爲し全騎兵を合すれば、約五十中隊にして奉化に在るその一軍團を下らず、支隊をして永く孤立して優勢なる敵と接觸し、苦境に在らしむるより、寧ろ昌圖の支援歩兵の掩護下に動作せしむるの得策なる旨の訓令を受けたるを以て、支隊長は前面の敵情大なる變化なければ、姑く主力を昌圖に移さんと欲し、諸隊をして出發準備を爲さしめ、明八日昌圖に移轉せんとせり。

四月八日　支隊は騎兵第十三聯隊第二中隊を雙台子停車場方向に派遣し、雙廣子、四平街方向を搜索せしむ、午前十時頃敵の歩兵五、六十蓮花泡附近より東南方に進み、雙台子停車場附近に騎兵約百あり、其一部東南方に運動し正午頃後五家子附近に、同騎兵一、二中隊前進し來り、又午後一時三十分頃同歩兵約一大隊十七頃附近に到着し、兵力未詳の大縱隊蓮花泡北方高地を南進中にして、其歩兵約二中隊既に二道河子附近に達す、乃ち騎兵第十四聯隊長豐邊大佐は騎砲及機關砲各二門をして、北方に對し陣地に就かしめ、機關砲は前五家子北方凹地を東進する敵の歩兵約一中隊を射擊し、尋で其附近に現出せし同騎兵約一中隊を射擊す、支隊長は二時各隊を鷲鷺樹中央道路上に集合せしむ、此頃敵の歩兵約二中隊北三道林子南方に達し、同騎兵約二小隊小壕子に向ひ攻擊し附近に在りし我前哨は鷲鷺樹に退却し、同村東南端の陣地に在りし騎砲兵一小隊は小壕子北方森林に侵入せし敵の騎兵約一中隊を射擊し之を潰亂せしむ、同時三十分頃敵の騎兵約四中隊雙台子停車場北方高地附近を、同約一聯隊蓮花泡北方高地を南進し、尙ほ歩兵二中隊前五家子に侵入し、益々我を包圍せんとす、茲に騎兵第十三聯隊

鷲鷺樹附近之戰鬪

四月六日午後一時頃 1/50,000



第十二圖

より雙台子停車場方向に派遣せし搜索隊は此敵の壓迫する所と爲り、退却して鷺鷺樹の西南端に在りしも後柳條溝に前進して右側背の警戒に任ぜり、四時鷺鷺樹東南端の騎砲兵小隊は前五家子附近の敵歩兵に對し、同西北端の小隊は其東北を南進する騎兵縱隊に向ひ、同東北端の小隊は其東北高地脚に密集せる歩騎兵に向ひ、射擊せしも敵兵益々前進し、是時其先頭既に雙台子停軍場附近に達し其一、二中隊の歩騎兵古龍街、小墜子間の高地に出沒す、依て鷺鷺樹東北端の小隊は五時十五分古龍街附近に散開せし歩兵を、同西北端の小隊は二道家子附近に集合せる騎兵約一中隊を射擊せり。

支隊長は午後六時過ぎ第三軍參謀長一戸少將より、昌圖に增兵すべき旨の通報に接し、又前面の敵兵歩兵五、六大隊、騎兵約二十中隊にして甚しく逼らずと雖、鐵道方面より遠く我を包圍せんとするが如く、其斥候既に鷺樹南方に出沒するに至りしに依り、永く此地に停止するを不利とし、日沒の頃に興隆泉附近に退き宿營するに決し、七時各隊に命令し鷺鷺樹南方に集合せしむ、同時頃敵の歩兵約五百、騎兵二中隊三道林子の東側を南進す、乃ち同時五十分より退却を始め十時興隆泉に達せしも、尙ほ一舉して昌圖に達するを有利とし、騎兵第四聯隊第二中隊、同第十三聯隊第一中隊、同第十四聯隊第三中隊、機關砲二門を喜多少佐の指揮に屬して此地に殘置し、自餘を率ゐて退却を繼續せり、此間昌圖に在りし支援歩兵〔第一聯隊第一大隊（第三中隊欠）〕の我支隊の退却援護として前進中なるに會し、之を併せ夜半一時三十分昌圖に着し宿營す。

本日の戰鬪に於ける我損害は、負傷下士卒一名にして、射耗せし小銃彈藥一千三百發、砲彈約八十發なり。

昌圖に退却

第十八章　昌圖の對陣

四月九日　南風土砂を颺け紅塵天を掩ふ、支隊は昌圖に防禦工事を施し、根據地と爲し搜索を續行す。

前夜興隆泉に殘置せる喜多少佐の率ゐる部隊は敵と觸接し、漸次主力を以て退却して、三十里堡附近に停止し、警戒に任す。（支隊は該警戒部隊を二日毎に交代せしむ）

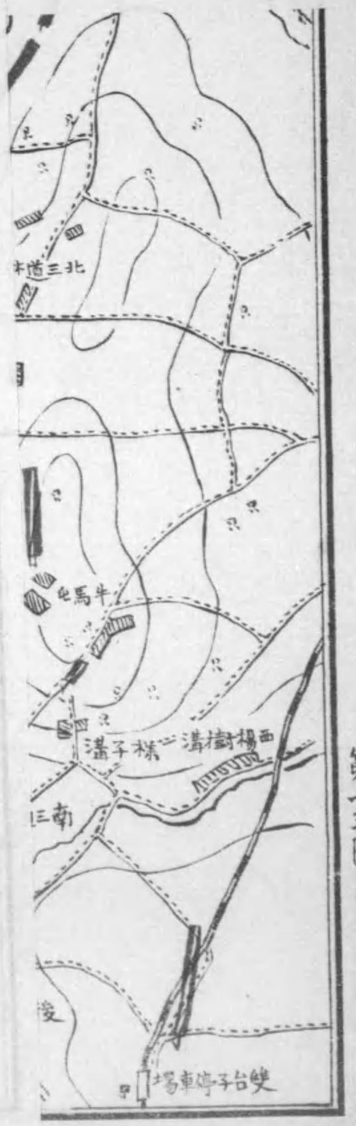
騎兵第四聯隊第二中隊は午前九時二十分二十里堡に到着せんとする時、興隆溝附近に敵騎の停止せるに遭ひ、相對峙し午後一時頃同騎兵二、三中隊東南方に向ひしに依り、西汗勾に到り敵情を搜索す、同第十四聯隊第三中隊は四面域に前進し、夕に至り四方台に退きて徹夜警戒せり。

支隊長は敵の騎兵三、四中隊鐵道に沿ひ南進し、大子勾附近に達し其一部大營盤停車場附近迄前進せるを知り、一部隊を派遣して之を擊攘せしむ。

是日午後三時三十分歩兵第一聯隊本部及第三大隊昌圖に到着す。

四月十一日　前日來支隊前面の情況變化なく、敵の騎幕は西砂河子東南高地より興隆泉、四面域、寶力宮南方高地を經て括子河に亙れり。

四月十二日　騎兵第十三聯隊第二中隊は二十里堡に到り、下番警戒部隊なる同第四中隊と協力して、興隆泉に在りし敵騎約三中隊を擊攘せり。



第十三圖

騎兵第四聯隊第二中隊は午前九時二十分二十里堡に到着せんとする時、興隆溝附近に敵騎の停止せるに遭ひ、相對峙し午後一時頃同騎兵二、三中隊東南方に向ひしに依り、西汗勾に到り敵情を捜索す、同第十四聯隊第三中隊は四面域に前進し、夕に至り四方台に退きて徹夜警戒せり。

支隊長は敵の騎兵三、四中隊鐵道に沿ひ南進し、大子勾附近に達し其一部大營盤停車場附近迄前進せるを知り、一部隊を派遣して之を擊攘せしむ。

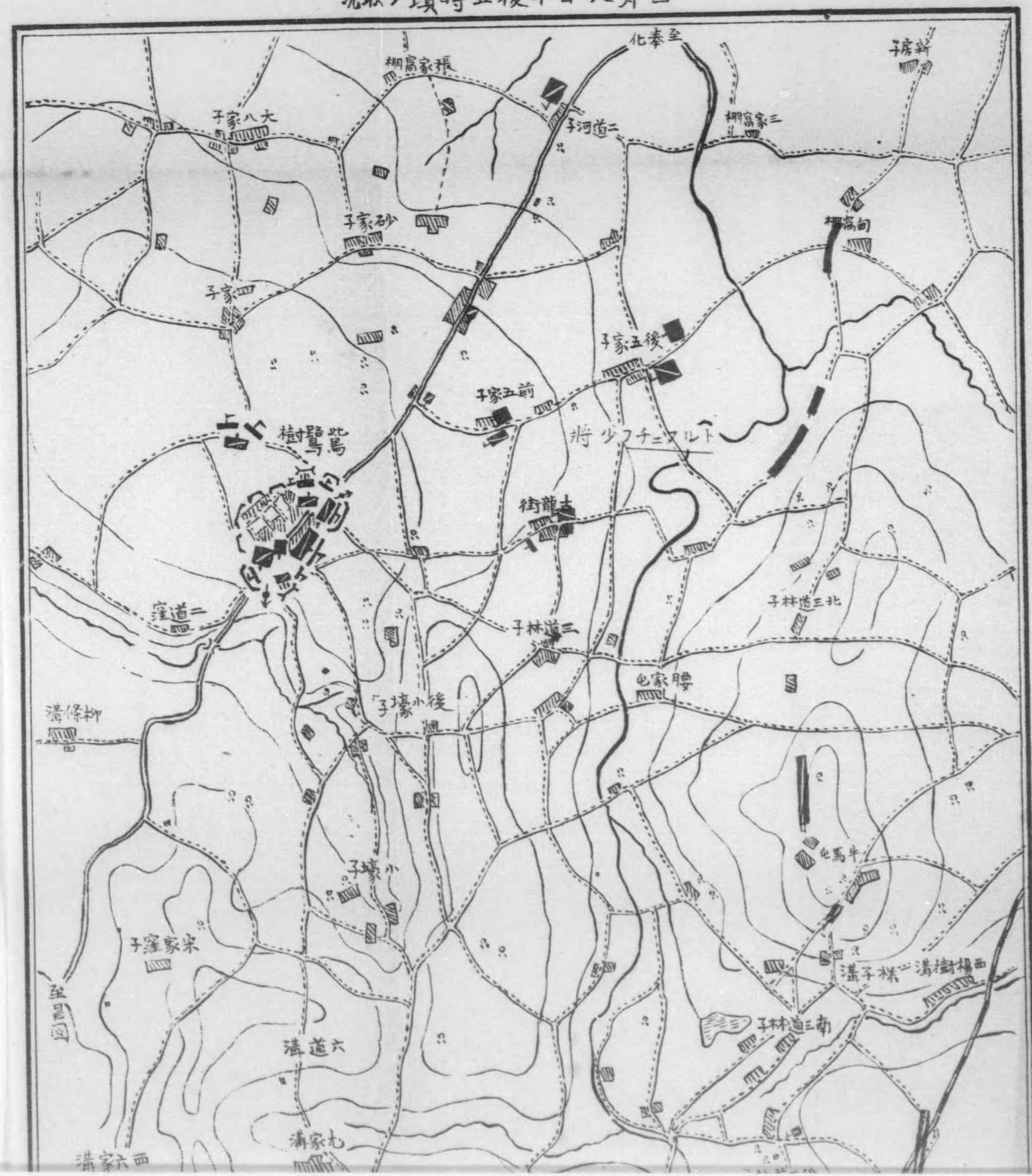
是日午後三時三十分歩兵第一聯隊本部及第三大隊昌圖に到着す。

四月十一日　前日來支隊前面の情況變化なく、敵の騎幕は西砂河子東南高地より興隆泉、四面城、寶力屯南方高地を經て哲子河に亙れり。

四月十二日　騎兵第十三聯隊第二中隊は二十里堡に到り、下番警戒部隊なる同第四中隊と協力して、興隆泉に在りし敵騎約二中隊を擊攘せり。

鷺鷥樹附近之戰鬪

四月八日午後五時頃ノ狀況



第十三圖

警戒に任ず。（支隊は警戒部隊を一日毎に交代せしむ）

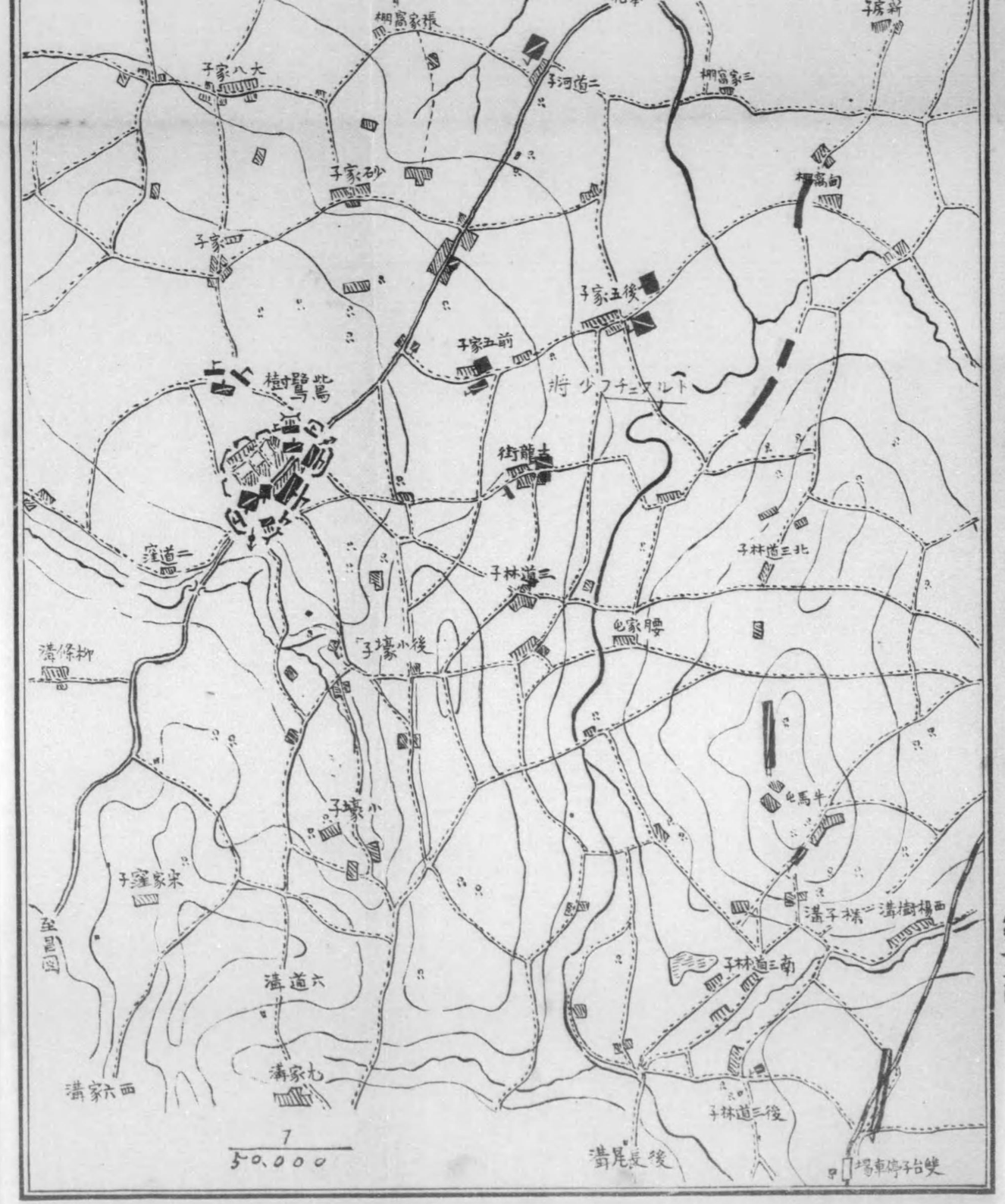
騎兵第四聯隊第二中隊は午前九時二十分二十里堡に到着せんとする時、興隆溝附近に敵騎の停止せるに遭ひ、相對峙し午後一時頃同騎兵二、三中隊東南方に向ひしに依り、西汗勾に到り敵情を捜索す、同第十四聯隊第三中隊は四面域に前進し、夕に至り四方台に退きて徹夜警戒せり。

支隊長は敵の騎兵三、四中隊鐵道に沿ひ南進し、大子勾附近に達し其一部大營盤停車場附近迄前進せるを知り、一部隊を派遣して之を擊攘せしむ。

是日午後三時三十分歩兵第一聯隊本部及第三大隊昌圖に到着す。

四月十一日　前日來支隊前面の情況變化なく、敵の騎幕は西砂河子東南高地より興隆泉、四面城、寶力高河方高地を經て括子河に亙れり。

四月十二日　騎兵第十三聯隊第二中隊は二十里堡に到り、下番警戒部隊なる同第四中隊と協力して、興隆泉に在りし敵騎約三中隊を擊攘せり。



第十三圖

四月十三日　午後五時敵の騎兵約一聯隊四方台に在りて、四面城方向の捜索に任じたる騎兵第十四聯隊の側背に迫り捜索隊は退却の已むなきに至る、乃ち二十里堡の警戒部隊たる同第十三聯隊第二中隊は蒙山屯に到り、捜索隊と協力して之を撃退せり。

一　四月十九日二十里堡の戰鬪

前日二十里堡の警戒に任じたる、騎兵第十三聯隊第四中隊〔德永大尉〕は夜に入り大四家子に後退宿營し、此日二十里堡に進出し、一小隊を三十里堡に派遣して警戒す、午後二時十五分頃敵騎約一小隊二十五里堡に侵入せんとせしに依り、同小隊は退路の斷絶を虞れ二十里堡に退却す、四時頃敵兵前面の諸村に侵入し、東西より我兩翼に迫りしに依り、同中隊は東南方の敵に對し射撃を開始せしも、北方の敵兵五、六百米に接近して、其歩兵若干西北方の凹地に在りしものと合し、左側に尙ほ二、三十のもの二十里堡東方凹地を經て右側に迫りしに依り、二十里堡の圍壁に據り之を攻撃す、然るに四時十五分頃正面の歩兵約七十、五百米前に、騎兵五、六十其西北高地に達し、又右側に在りし騎兵六、七十背面約五百米に近接し、南端守備の小隊對戰す、五時四十分に至り敵の歩兵約二十、正面前數十米の破壞せる獨立家屋に突入して之に據り、其左右に在るもの相連繫して前進し、約百米に迫り猛烈に射撃す、乃ち南端の小隊を除くの外悉く之を正面に集めて攻撃す、敵兵益々增加せるも我兵奮戰勇鬪するや、六時頃敵兵死傷者十數を收容し、死屍三を遺棄し、七時一部を二十五里堡に殘置して悉く北方に退却せり、乃ち同中隊は隊伍を整頓したる後大四家子に退き徹夜警戒せり。

此戰鬪に於て我損害は、戰死下士卒二名、負傷松田特務曹長外下士卒七名なり、而して來襲せる敵は歩兵約一中隊「オレンブルグ」哥薩克騎兵三中隊なりしが如し。

騎兵第十三聯隊長小池中佐は二十里堡の急を聞き、直に其一中隊をして赴援せしめしも、該中隊の到着せし時は敵兵既に退却せし後なりしに依り昌圖に歸還せり。

騎兵第十四聯隊第四中隊は四方台附近に在りて午後三時頃敵の騎兵四、五中隊興隆泉に、同約一中隊順山堡に現出せしも、在二十里堡の同第十三聯隊第四中隊の苦戰中なるを知り、四方台東北に行動して聲援せり。

四月二十日　警戒部隊たる騎兵第十三聯隊第四中隊は、二十里堡に進出し、午前八時二十五里堡の敵を攻撃中、九時二十分同聯隊第二中隊交代として到着し、其二小隊は同村西方約一千米の地より協力して、共に之を驅逐して同地を占領し、第四中隊は第二中隊に守備を讓り昌圖に歸還し、第二中隊は夜に入り單家窩棚に後退宿營し、西砂河子、興隆泉、四面城の線上の敵騎と對峙せり。

二　昌圖附近の戰鬪

四月二十二日　警戒隊たる騎兵第十三聯隊第二中隊は二十里堡附近に進出し任務を續行す、朝來敵兵漸次南進の狀ありしを以て、支隊長は喜多少佐をして騎兵第十三聯隊第三中隊を率ゐ、午前十時昌圖出發、長青堡に到り同地附近の第二中隊を合して敵情を搜索せしむ。

支隊長は敵兵昌圖を包圍せんとするものゝ如きを知り、乃ち歩兵第　聯隊（第三大隊欠）と共に昌圖を固守する

に決し、機關砲、騎砲兵各一小隊を陣地に就け、歩兵第一聯隊長生田目中佐は部領の諸隊を集合して、昌圖東端堡壘を守らしむ、乃ち騎砲兵一小隊は直に昌圖東端に、機關砲二門は午後二時三十分同村東端陣地に就き、歩兵第五第六中隊の各一小隊は散兵壕に據り警戒す、午後一時五十分西汗勾及七家子附近の敵の騎兵約一中隊に增加し、我を射擊せるも前進の模樣無く、張家屯の我歩兵第二中隊は午前八時過ぎ、敵の騎兵約二中隊北方より下滿井附近に侵入し、約一中隊鐵道に沿ひ前進し來りしが故に、之に對して同地を守備す、長青堡附近の我騎兵第十三聯隊第二第三中隊は午後三時頃敵の一部隊昌圖停軍場南方に運動し、尙ほ小四家子附近より歩兵一中隊、騎兵二中隊南進せしに依り、靠山屯に退却す、此時北方面に於ては前太平勾及前偏城子溝附近に、敵の騎兵小部隊徘徊するのみにして前進の景況無く六時頃に至り、西汗勾附近の敵の騎兵約五中隊東方に退却を始めしも、七時頃に至り歩兵一大隊、騎兵四中隊、砲兵一中隊、更に北方より十七㕓東北に前進し、尙ほ二、三百の歩騎兵昌圖停車場附近に侵入せり、此頃二十里堡附近に敵の騎兵百四、五十侵入し、四方台に在りし騎兵第十四聯隊第一中隊は八里台南側高地に退きて、北靠山屯の敵と對峙し、同第十三聯隊第二第三中隊は東二十家子に歸還す、六時三十分歩兵四、五大隊騎兵約二聯隊十七㕓の高地より、昌圖停車場方向に前進し、其歩兵約一中隊騎兵約三中隊再び在張家屯の歩兵第二中隊に向ひ前進せるに依り、該中隊は日沒後情況未だ切迫せざるに際し、張家屯を發し夜半昌圖に歸還せり。

是夜騎兵第四聯隊第三中隊は昌圖に歸還し、同第三聯隊第二中隊之に代りて、午後八時三十分東五台子（昌圖東方約一里半）に到る、騎兵第十三聯隊第二中隊亦昌圖に歸還し、第三中隊は依然東二十家子に、同第十四聯隊第一中隊は瓦盆窰附近に宿營し、生田目支隊の內昌圖東端の第五第六中隊の各一小隊は依然戰備を嚴にし、其他は我支

隊の主力と共に昌圖に宿營せり、而して鐵道線路方向の敵の大部は昌圖停車場附近に達せしが如く、尙ほ其一部は東方を迂回し、更に南進して馬千總台方向に前進せり。

附記　我右翼に前進せし露軍は西伯利第四軍團の「アブラモフ」少將（「ドン」哥薩克騎兵第二旅團長）の指揮する西伯利歩兵第七聯隊、同第八聯隊第一第四大隊、西伯利第二師團全聯隊の各乘馬獵兵隊、「ドン」哥薩克騎兵第二十六聯隊の三中隊、「ウユルフネウヂンスク」哥薩克騎兵第二聯隊の二中隊及東部西伯利山砲兵第十中隊の四門より成る支隊にして、昌圖方向の搜索に任ぜられたるものなり。

四月二十三日　支隊は前日の狀況に鑑み、拂曉生田目支隊の歩兵第五第六中隊の各一小隊を昌圖東方及北端の陣地に、騎砲兵第三小隊を昌圖東南孔子廟に、機關砲二門を同東南方丘阜の散兵壕に、同三門を東方散兵壕に備へて警戒す。午前六時三十分頃敵の歩兵約一大隊、騎兵約二中隊西砂河子方向より西金山堡を經て西進し、尋で歩兵約一中隊、騎兵約二中隊東二十家子の我騎兵第十三聯隊第三中隊を壓迫し、該中隊の昌圖東方に退却するや其歩兵約一中隊更に東二十家子より昌圖東北端に向ひ攻擊し、同五、六百、七家子に侵入せり、此時生田目中佐は第二中隊の一小隊を東方陣地に、第五中隊の二小隊を東北端の陣地に、第六中隊の一小隊を東方に、同一分隊（後一小隊に增加す）を東南端の陣地に據らしめ、第一大隊は第四中隊を昌圖南部に、其他を北部に置き、戰鬪準備を爲す、同時散兵續々西砂河子附近より南進し、昌圖停車場附近の敵兵は昌圖に向ひ前進するもの〻如く、尙ほ歩兵約一大隊、騎兵約一中隊東汗勾、東二十家子及西二十家子に侵入し、其一部更に其西方地際內に入り、其砲二門東二十家子東北丘阜より、昌圖並に其東北丘阜及東北端角面堡に向ひ緩徐に射擊せり、則ち騎砲兵第一小隊は

昌圖の北端に、第二小隊は西北端に放列を布き砲擊を開始す、同時機關砲二門亦市街の東端及東北端の陣地に就き騎兵第三聯隊第三中隊（二小隊欠）は砲兵掩護として、昌圖東南端に位置す、騎兵第四聯隊長內田中佐は第二中隊の一小隊をして十七寨方向を搜索せしめ、第二中隊（一小隊欠）をして昌圖東南端を守備せしむ。

是より先騎兵第十四聯隊第一中隊は敵の壓迫する所となり、瓦盆窰に退却し單家窩棚より長山堡に亙り停止せる敵の騎兵第二中隊と相對せしも、午前八時同聯隊第二中隊代りて之と對峙す。

生田目支隊は歩兵第一大隊を昌圖東部に移し、第八中隊の一小隊を北面して同地東端の土壁に據らしむ、十時頃昌圖東方約七百米の我獨立下士哨は、西汗勾西方地際より前進し來れる敵の歩兵約三十、徒歩騎兵二、三十と鬪ひ多大の損害を受けて本陣地に退却するや、敵兵增加して約百と爲り、該地の獨立家屋を占領し、圍壁に銃眼を穿ちて射擊し、尋で其歩兵六、七十、東二十家子南方橋梁附近より地際に入り、昌圖東北端の角面堡に接近し、其約十名更に東北約二百米の墓地匐潛進し、騎兵約三中隊は七家子附近より五台子方向に前進し、正午頃歩兵約二百同村附近の高地に現はれ、砲二門亦同地より射擊せり、爾後敵兵西五台子、西汗勾、東二十家子、西二十家子及長山堡の線に停止し、時々大四家子方向より砲擊するのみにして敢て前進せず、唯鐵道に沿ひ南進せし騎兵約一聯隊漸次昌圖南方三、四千米の地に迫り、下馬戀河に在りし我歩、騎兵は包圍せられ昌圖、開原間の連絡全く斷絕するに至れり、而して其砲兵は大四家子に四門、東五台子南北兩高地に各二門を配置せるものなるを以て我騎砲兵之を砲擊す、西汗勾及東二十家子方面の敵兵午後一時四十分頃、漸次地際內に隱匿し、其一部七家子附近に退却せるが如きも、昌圖東方獨立家屋內の敵兵銃眼を增設して射擊を持續せり、而して北方面の狀況は稍靜

下馬鬃河の正午迄の狀況

穩にして纔に長山堡の騎兵約百搜索中隊と近く相對するのみなりも、東南方面の敵は二時頃より漸次兵力を增加し、其歩兵約二中隊騎兵約一中隊西五台子より前進す、乃ち昌圖東南方面の守兵之を射擊して前進を阻止せしも其一部は四百米迄近接し、散兵壕を構築して之に據りしが故に、生田目中佐は二時四十分第四中隊を昌圖南部に派遣して北方の警戒に任じ、第六中隊を以て東南散兵壕を固守す、又昌圖北端陣地の騎砲兵第一小隊は四時より單家窩棚方向の敵の砲兵及長山堡方向の歩兵各約一中隊を射擊して之を退却せしめ、更に大四家子の砲兵を射擊す、第二小隊は三時西汗勾方向に現出せる敵騎を射擊し、六時三十分陣地を稍西方に變換し、再び大四家子の敵砲兵を射擊して沈默せしめ、更に西二十家子附近の歩兵を射擊して之を擊退せり、此時敵兵頻りに東五台子附近に防禦工事を施せしも、六時退却を始めしが如く、尋で其北方高地の敵砲二門亦退却せるも、七時頃鐵道線路附近より再び昌圖を射擊し、其大部は夕に至るも尙依然として近く前面に在るを以て、支隊並に生田目支隊は至嚴の戰備を保持し、大行李及病院を通江口に退却せしむ、乃ち長谷川騎兵少佐之を率る、歩兵第一聯隊第一中隊及騎兵第十四聯隊第三中隊の各一小隊之を護衛し、共に昌圖を出發せり。

此夜生田目支隊は第五中隊の二小隊第六第八中隊の各一小隊を依然陣地に留め、我支隊の騎砲兵及機關砲亦陣地に在りて、歩兵部隊と協力して警備に任じ、兩支隊の殘餘は市內に宿營せり。

此戰鬪に於て我支隊の損害は、負傷下士卒三名、生田目支隊は戰死下士卒四名負傷下士卒七名にして、外に下士卒二名俘虜となれり。

北澤少尉の指揮せる歩兵第七中隊の二小隊は、前日下馬鬃河に、他の一小隊は開原停車場に在りて、其日午後六

時三十分敵の歩兵四、五大隊、騎兵約二聯隊鐵道に沿ふて南進し、二道勾に達す然るに在張家屯の歩兵第二中隊昌圖に歸還せしに依り、下馬鬃河方面著しく危險と爲れり、此日北澤少尉は敵騎約三十、午前七時三十分下馬鬃河北方山河堡附近に侵入し、又騎兵第三聯隊の山口大尉の率るる部隊の通報に依り、約一聯隊は八時二十分頃二道勾を發して南進せるを知り、歩兵一分隊を下馬鬃河東北高地の下士哨に增加し、山河堡附近の敵を擊退せしむ、然るに約一時間の後敵の歩兵約一大隊、騎兵約二聯隊、砲六門鐵道に沿ひ、下馬鬃河東南を經て前進し、九時五十分頃其騎兵約一中隊、砲若干馬千總台に侵入せしに依り、該地の下士哨は下馬鬃河に退き、東北高地の二分隊亦同中隊に歸還す、而して此頃東五台子附近より下馬鬃河に向ひ、退却中の山口大尉の率るる部隊は、途中敵騎の遮斷する所と爲り、先行せし山口大尉及傳騎一名のみ此處に到著す、當時下馬鬃河、開原間の電話不通と爲れり、十時敵の騎兵約一中隊淸國馬隊五十と共に馬千總台方向より、下馬千河に向ひ散開して約六百米に前進せしに依り該中隊之に向ひ射擊を開くや、敵兵直に其後方獨立家屋に隱匿し、十一時に至り其圍壁に銃眼を穿ち再び射擊を開始す、此に於て北澤少尉は諸監視兵を收集し、該中隊を其宿營地たる一大圍郭內（周圍約四百米）に置き以て死守の準備を爲せり（山口騎兵大尉、第九師團遞騎哨長中川騎兵少尉及騎兵九名並に通信勤務の工兵二名亦此內に在り）午後零時二十分敵騎約五十、下馬鬃河西方高地上の我散兵壕に據り瞰射し、約七十及淸國馬隊五十、下馬鬃河の西南に近接し、彼我五百米を隔てゝ交戰せり、此間支隊長は喜多少佐に第十三聯隊第一中隊を屬し、下馬鬃河の部隊と連絡し、且つ支隊の右側背を掩護せしめんとせしも、途中敵の遮斷する所と爲り、午後二時三十分昌圖南方高地に停止し、騎兵第四聯隊第三中隊の增加を受け、五里堡子の敵の騎兵約二百と相對し、南嶺山以南に

進出するを得ず、夜間の運動困難なりしと敵兵亦前進の狀無かりしを以て昌圖に歸還す。

是より先騎兵第三聯隊の山口大尉の率ゐる第二中隊の二小隊第三中隊の一小隊（今朝二中隊の一小隊を增加す）は東五台子南方高地に在りて、八時三十分頃二道匂より鐵道に沿ひ南進せる敵の騎兵約一聯隊の壓迫する所となり、下馬鬃河方向に退却中、隊長山口大尉と別れし後水野中尉之を指揮し、東五家子附近より下馬鬃子河に退却する能はず、十里台に達して敵と對峙し、後南嶺山に到り喜多少佐の令下に入りたり。

下馬鬃河、午後より夜間に於ける狀況

午後一時三十分以來馬千總台邊門（萬里の長棚にして四つ足門路上に在り）附近より敵砲二門の射擊を受け、園郭内の家屋火災を起し、二時頃より昌圖との電話線斷絶し、諸方面の情況全く不明と爲れり、四時五十分敵騎約五十、下馬鬃河北方高地の我舊散兵壕に據り射擊を開始し、其約二十我園郭東方約二百米の獨立家屋に侵入し、五時過ぎ曩の砲兵東方鐵道線路附近の高地に移り、我を射擊すること依然猛烈にして、同中隊は四面四百乃至七百米の距離に騎兵約三中隊砲二門、機關銃一挺の敵を受け死守して日沒に及べり、此時に方り我彈藥は將に盡きんとして明一日を支持し難く、加之糧食は既に盡きて一部の者は携帶口糧を用ふるに至り、剩へ昌圖、開原西方面の情況全く明らかならず、而も敵兵坑道に由り我に迫らんとするの狀ありしに依り、北澤少尉は山口騎兵大尉、中川騎兵少尉と圖り、夜に乘じ血路を求めて老邊（鐵嶺北方約三里）方面に脫出せんとせしも、敵の監視嚴密にして果さず、乃ち全滅を賭して固守するに決せり、夜に入り西南の風殊に烈しく火災尙ほ熄まず、火焰四周を照らし前面の敵兵亦頻りに笛を鳴らし、夜襲を準備するもの〻如く、然れども概して靜穩に夜を徹せり。

下馬鬃河の凱歌

四月二十四日　下馬鬃河の部隊は、午前五時三十分より再び敵の攻擊を受け、當時敵兵下馬鬃河北方高地に機

關銃を置き道路側方の溝を掘開して交通壕とし、我北方正面前約二百五十米の地に近接し、九時頃より東方約八百米及東南約六百米の園壁より熾に射擊し、尋で東方約百五十米の家屋を占領して反復突擊せしも、悉く之を擊退せり、既にして敵の騎兵約一聯隊鐵道線路に沿ひ北方に運動し、十時三十分頃各方面の敵亦動搖の色あり、時宛も騎兵第八聯隊（第一中隊欠）の開原方向より北進し、馬千總台附近に達せしを知り、士氣大に振ふ〔騎兵第八聯隊（第一中隊欠）は奉天西北の大石橋を出發し開原を經て我支隊の令下に赴くものなり〕幾も無く東方及北方の敵兵は下馬鬃河東南に、西方及南方のものは馬千總台方向に退却を始めしに依り、北澤少尉は一小隊をして追躡せしめ、午後四時昌圖に歸還す。

此戰鬪に於ける下馬鬃河の部隊の損害は、死傷歩兵下士一名騎兵卒一名にして、敵の遺棄せる死屍七ありたり。

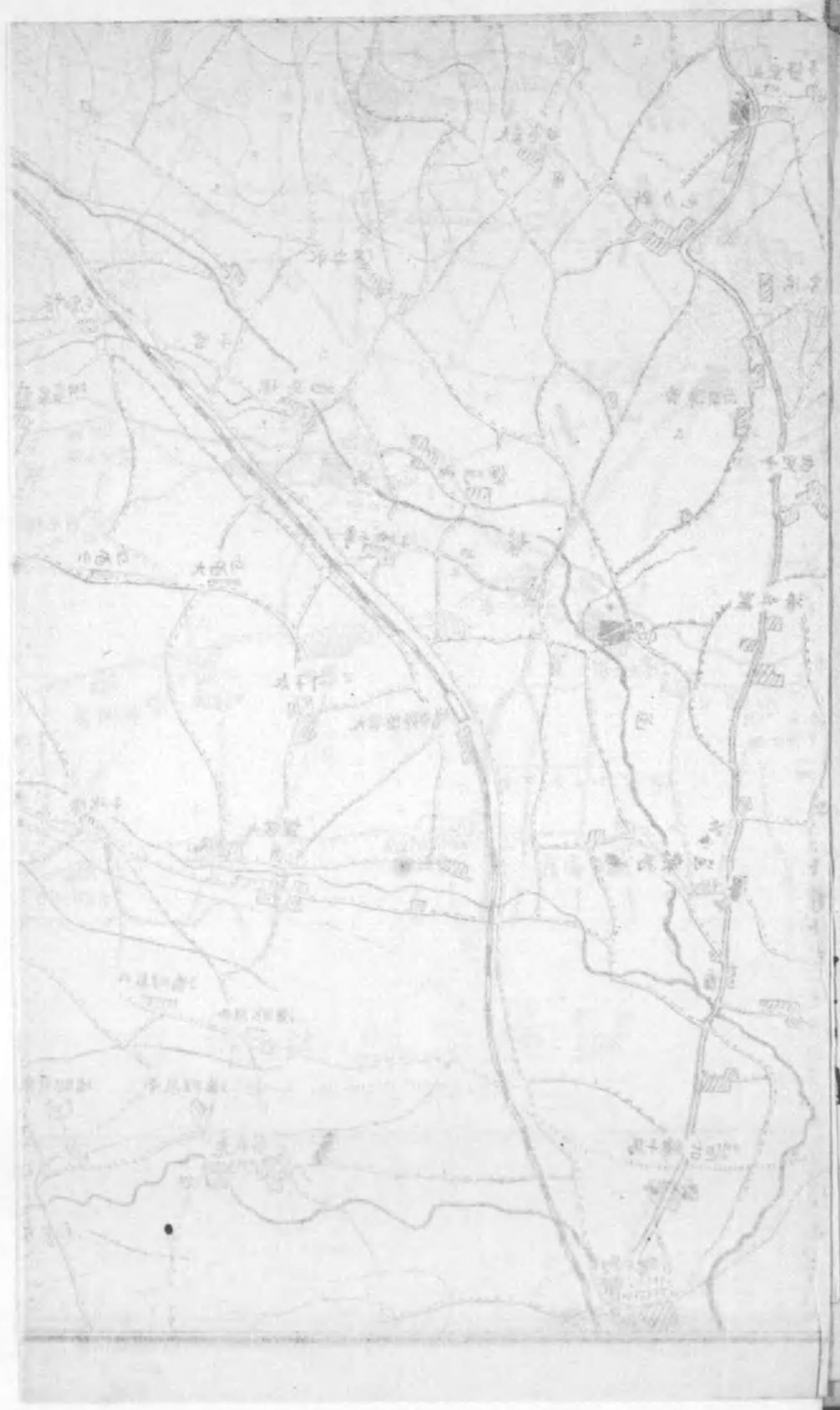
下馬鬃河守備隊は第三軍司令官より左の通り感狀を附與せらる。

歩兵第一聯隊第七中隊（一小隊欠）騎兵第九聯隊馬中河邏騎哨

右は北澤少尉に指揮に屬し、昌圖に在る秋山、生田目兩支隊の後方連絡線を安全ならしむる爲め、馬中河附近に在りて四月廿三日早朝より砲二門を有する敵の歩兵約一大隊騎兵約二聯隊より包圍攻擊を受け、其守備せる園壁内の家屋悉く砲火の爲めに燒失するに至るも、能く僅少の兵を以て十數倍の敵に對し陣地を死守し、翌二十四日遂に此敵を擊退し其任務を全ふしたり。

明治三十八年五月二十六日　　第三軍司令官男爵　乃木希典

昌圖方面は後來變化なく特に喜多少佐の率ゐる搜索隊（騎兵第十三聯隊第二中隊（第一中隊一小隊を增せるもの）同



第三聯隊第二中隊）を五里堡子に派遣す、乃ち同捜索隊は午前九時頃五里堡子東端附近に進出し、前夜下馬嶺河附近より東北方に退却する敵騎を攻撃し、騎兵第四聯隊第二中隊は午前七時五台子附近に達し、左家勾に敵の歩騎兵あるを見て同地に停止す、既にして昌圖北方の敵兵漸次退却の狀あり、乃ち我斥候東二十家子及西二十家子に進入す、午前十時三十分騎兵第十四聯隊第二中隊は瓦盆窰に進入して四方台方向の敵情を捜索し、砲二門を有する敵の歩騎兵夜來四方台に停止し在るを知り、同聯隊第四中隊は十一時三十分頃八家子に前進せしも、敵兵無く更に亮中橋方向に向へり、尋で午後零時三十分頃敵騎の一大縱隊昌圖東方鐵道線路に沿ひ退却せり。

喜多少佐の率ゐる捜索隊は一時十五分左家勾北方高地に達し、敵の騎兵線路東方地區を北進せるを認め、直に徒歩して射擊するや、其約二中隊少時應戰の後北進するに依り、左家勾に於て隊伍を整へ、七時東十八寢東方高地に前進せしも、敵の大部既に西砂河子以北に退却し、其騎蕃同村の東西兩高地に亙れるのみなりしが故に、騎兵第四聯隊第二中隊の一小隊を東十八寢に殘置して捜索を繼續せしめ、八時三十分昌圖に歸還す。

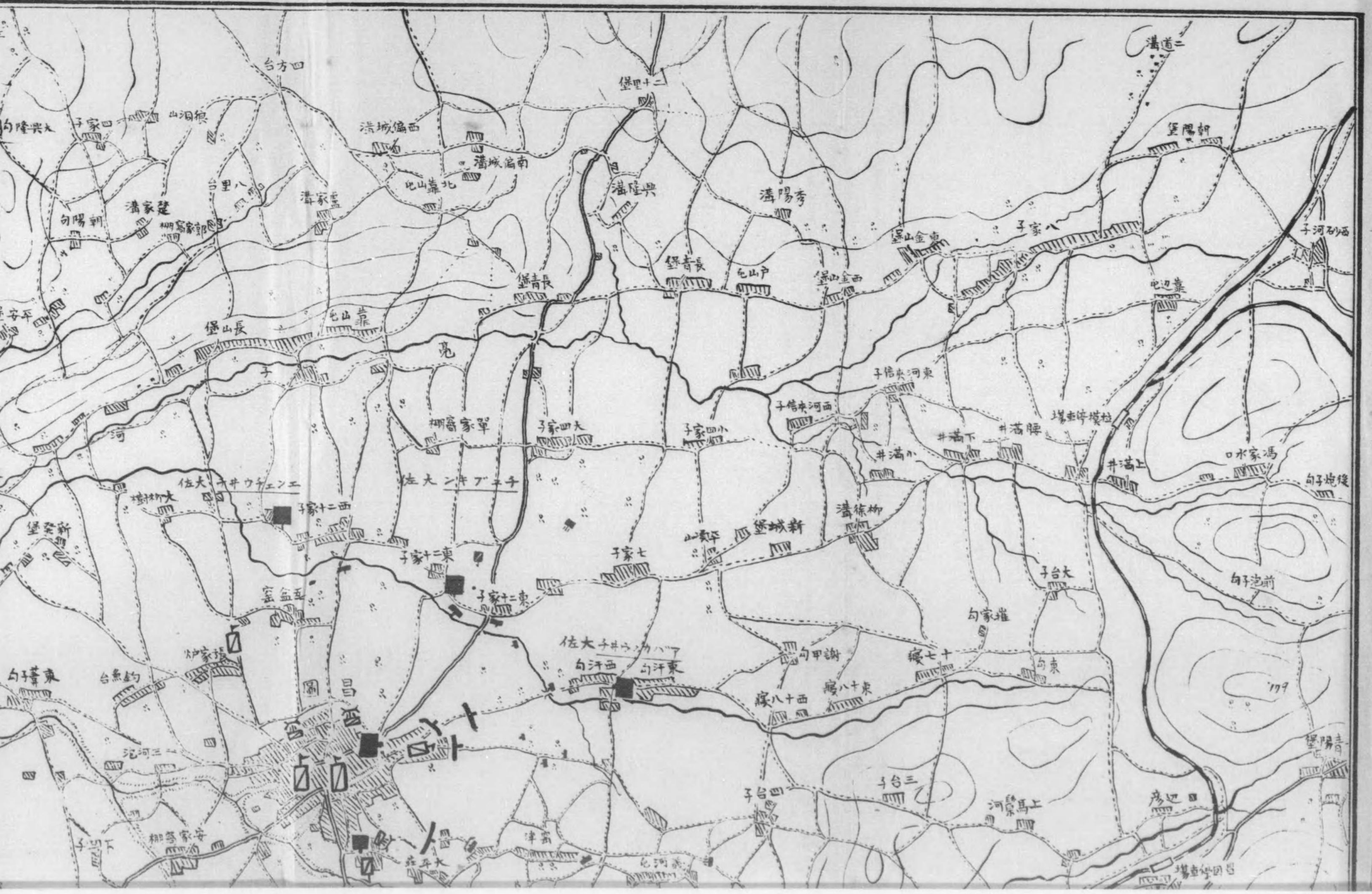
騎兵第十三聯隊第四中隊は東二十家子を經て午後零時三十分頃大四家子に到着し、後長青堡に前進し、三時三十分頃二十里堡に到りしも同村敵の破壞する所と爲りしに依り、大四家子に退きて宿營せり。

昌圖を守備せし部隊は敵兵退却の後各陣地を撤し、生田目支隊は防禦工事を補修して宿營に就き、第八中隊を馬梨河に派遣して同地の守備に任ず。

騎兵第八聯隊（第一中隊欠）は午後五時三十分昌圖に到着し、同第四聯隊と交代せり、是より先き午後二時昌圖、開原間の連絡回復せり。

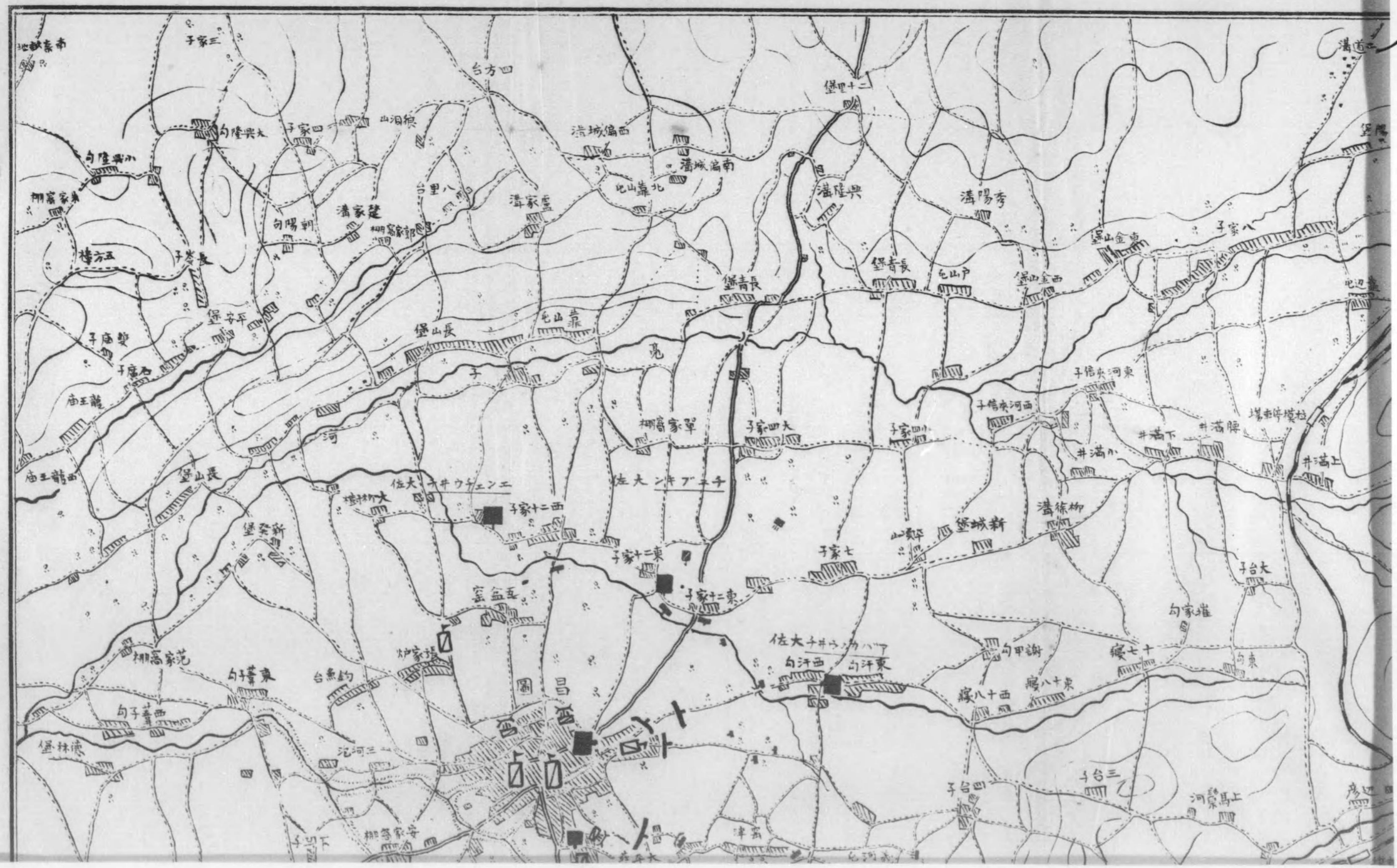
昌圖附近之戰鬪

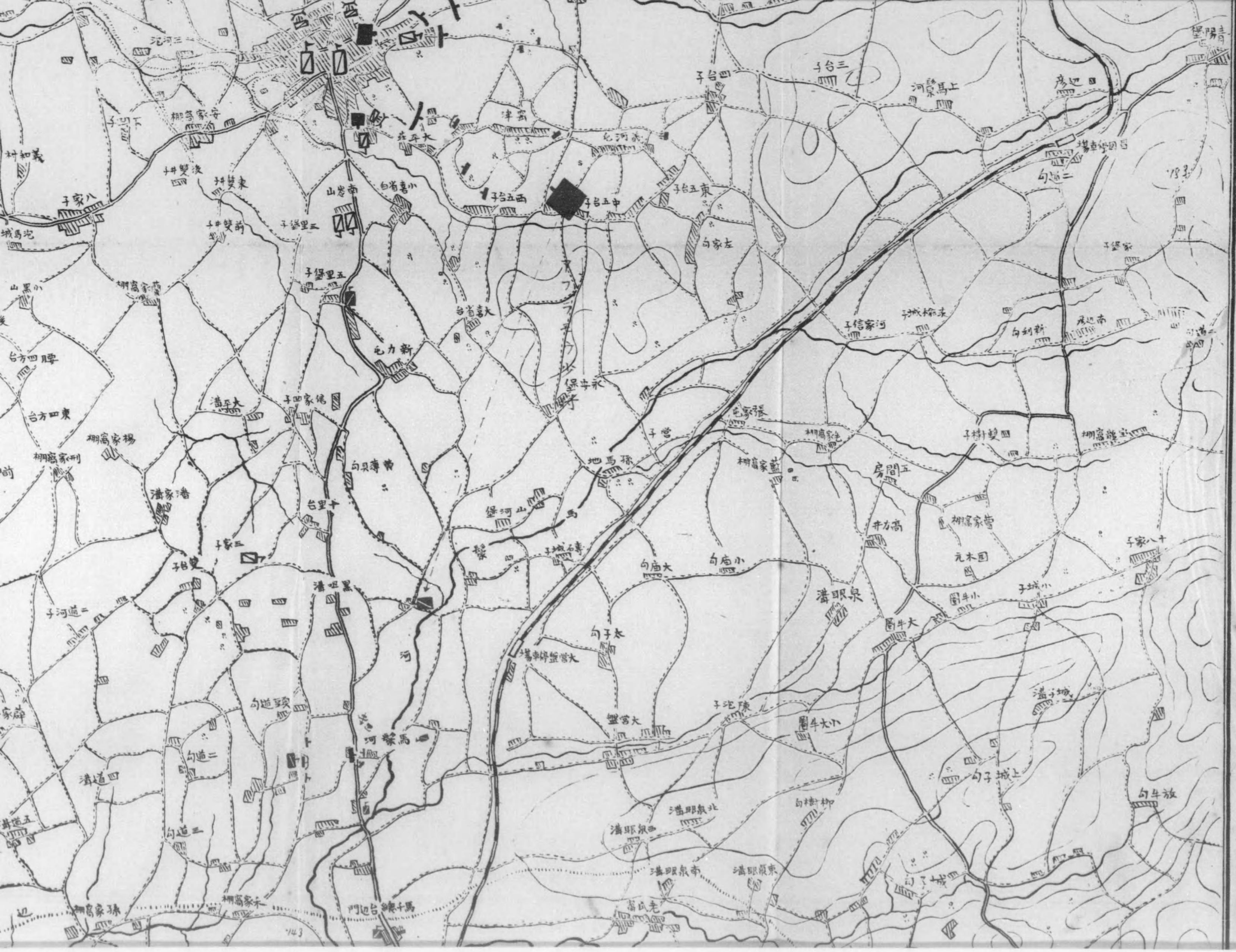
$\frac{1}{50,000}$ 四月二十三日正午頃



昌圖附近之戰鬪

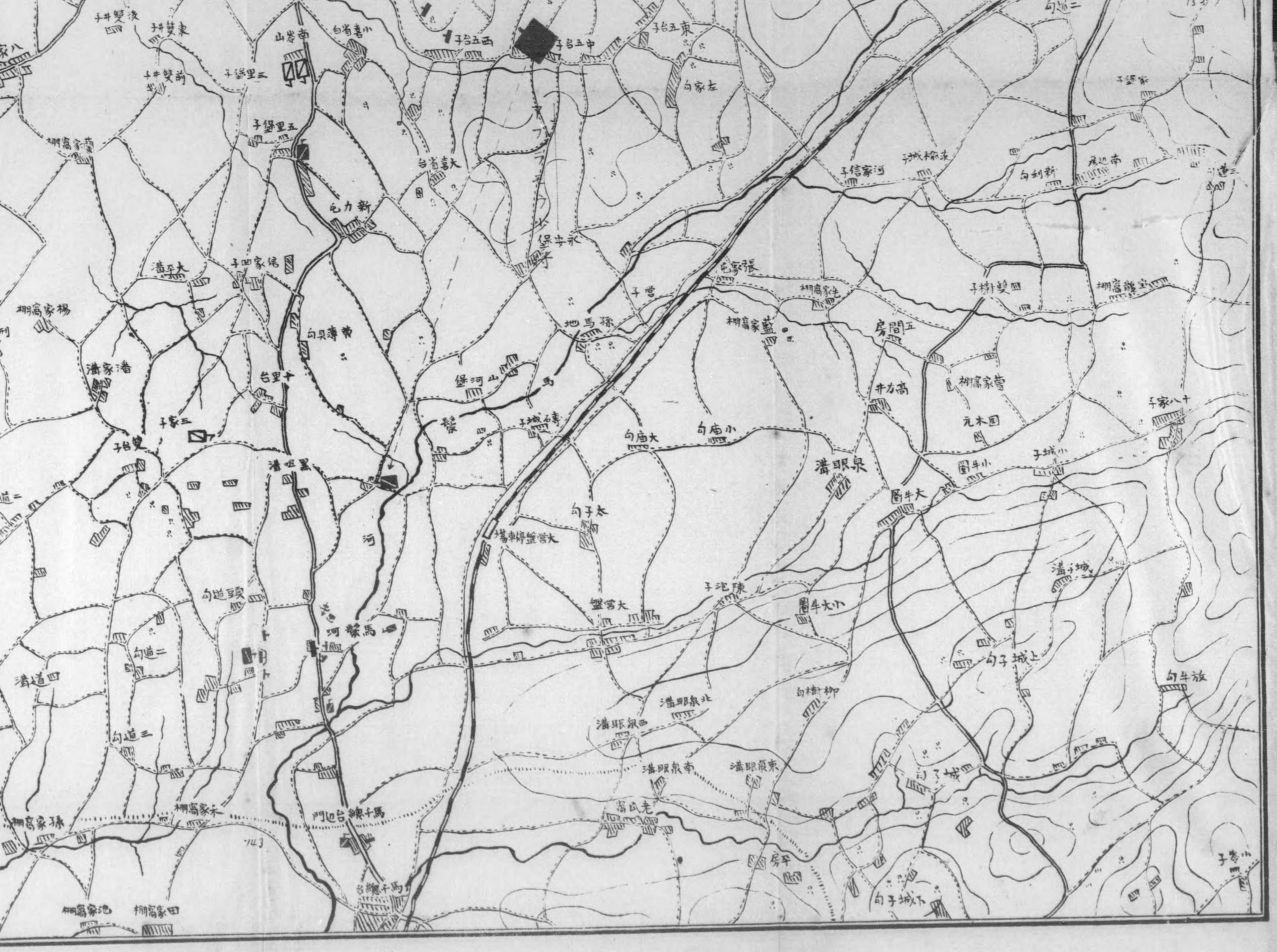
四月二十三日正午頃 $\frac{7}{50000}$


昌圖
子家三
子家四
子家八
子家七
子家十二西
子家十二東
子台大
子台三
子台四
子廟
子廟西
子廟東
子廟王龍
子廟王龍西
子廟王龍東
子廟王龍下
子廟王龍河
子廟王龍橋
子廟王龍堡
子廟王龍堡山長
子廟王龍堡林德
子廟王龍堡新
子廟王龍堡安平
子廟王龍堡山長
子廟王龍堡山長
子廟王龍堡山長


子台三
子台四
河漫馬上
彥迎
堡陽青
子台五西
子台五中
子台五東
句家左
子堡里三
子堡里五
子堡家
子城榆東
子信家河
句刹新
彥迎南
子四家徐
子營
子樹雙四
棚窩家藍
棚窩家楊
棚窩家刑
棚窩家張
棚窩家曹
棚窩家元木
房間五
井方高
地馬孫
句貝薄
句廟大
句廟小
子城石東
子城小
子家八十
子家三
子河道二
潘眼泉
圖牛小
圖牛大
句子太
大營盤
子泥陵
圖牛大小
潘子城
句子城上
句牛放
句樹柳
潘眼泉北
潘眼泉西
潘眼泉南
潘眼泉東
句子城
句道二
潘道四
潘道五
句道三
棚窩家孫
棚窩家禾
馬總十台
門迎台
河

第十四圖

子台三
河景馬上
子台四
棚等家安
子台下
莊乎大
津窩
色河家
堡陽朝西
堡陽朝東
村知義
子井雙後
子井雙東
子家八
山岑南
白省喜小
子台五西
子台五中
子台五東
子城馬泡
子井雙前
子堡里五
白家左
子堡里五
棚高家蕭
山黑小
台省喜大
子城榆東
子信家河
台方四後
台方四腰
色力新
堡寺永
台方四西
潘乎大
子四家徐
台方四東
棚高家楊
色家張
子營
棚高家先
子特雙四
棚高家刑
台方四前
地馬孫
棚高家藍
子營腰
潘家潘
向貝薄
台里十
堡河山
馬
五間房
井方高
棚高家曾
子家三
子城石亭
元木国
子白黑
潘眼黑
向廟大
向廟小
子河道二
潘眼泉
圖牛小
子城小
向獺剝
潘道二東
向子太
圖牛大
場車停盤營大
向文幸
岑家薛
向道頭
子池陳
向家泉
盤宮大
圖牛大小
河縣馬
向道二
岑家吳
潘道四
上城子向
岑家馮
向樹柳
岑家郭
潘道五
潘眼泉北
向道三
潘眼泉西
潘道六
潘眼泉南
潘眼泉東
棚高家孫
棚高家禾
門辺台總千馬
高氏老
潘道七
棚高家王
房平
台總千馬

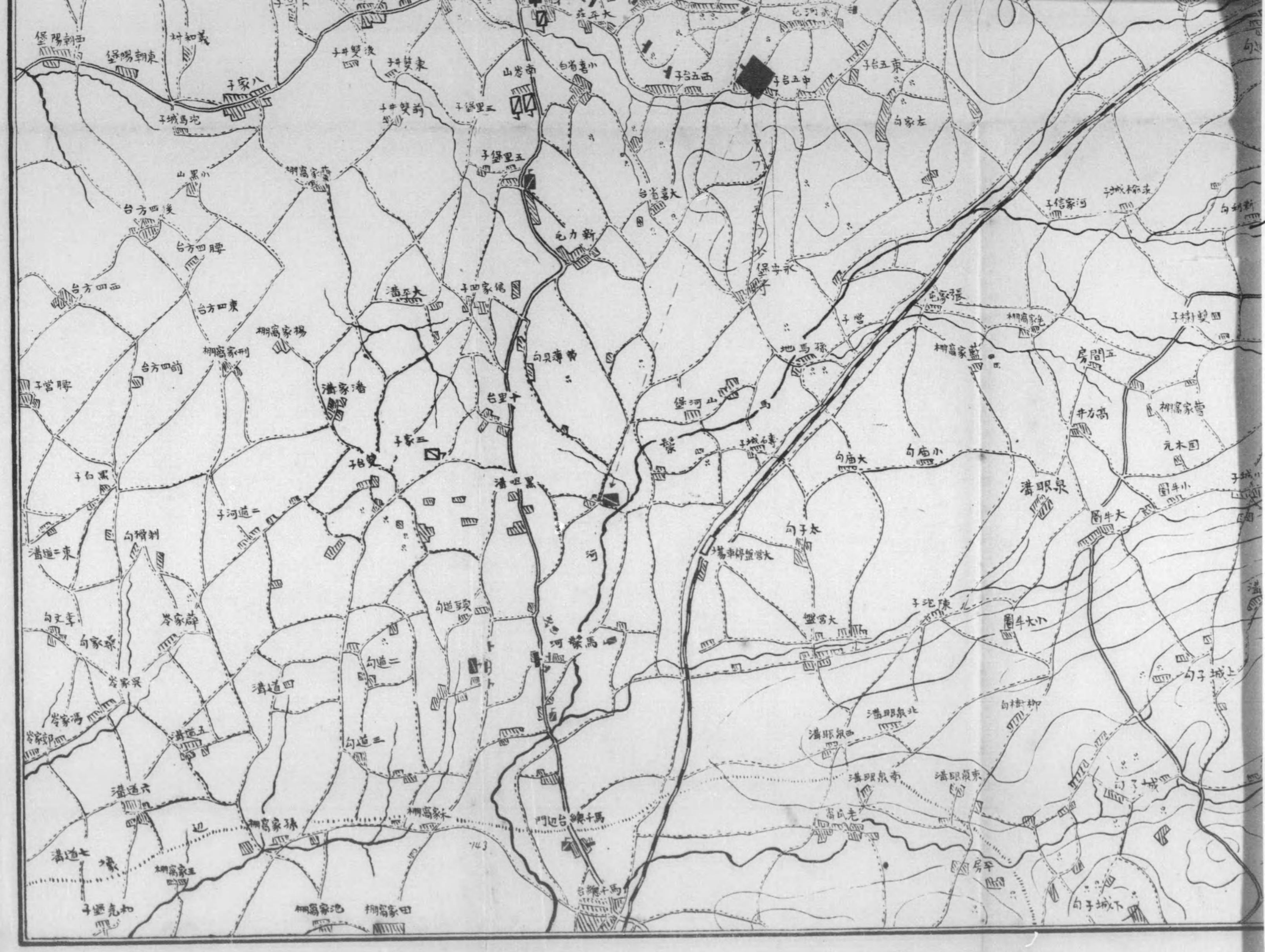


第十四圖

馬驛河に派遣して同地の守備に任ず。

騎兵第八聯隊（第一中隊欠）は午後五時三十分昌圖に到着し、同第四聯隊と交代せり、是より先き午後二時昌圖、開原間の連絡回復せり。

昌圖を守備せし師團は敵兵退却の後を追撃し、生田目支隊は防禦工事を補修して宿營に就き、第八中隊を下


堡陽朝西
堡陽朝東
村知義
子家八
子城馬沱
子井雙後
子井雙東
子井雙前
山岑南
子堡里五
白省喜小
子台五西
子台五中
子台五東
白家左
子堡里五
棚高家黃
山黑小
台方四美
台方四腰
台方四西
台方四東
棚高家楊
棚窓家刑
台方四前
子營腰
潘家大
子四家侯
潘家潘
台里十
子家三
子白黑
子河道二
白稽剝
潘道二東
白文章
白家桑
岑家薛
岑家吳
岑家馮
岑家鄭
潘道四
潘道五
白道二
白道三
潘道六
潘道七
棚高家孫
棚高家林
棚高家王
子堡亮和
棚高家池
棚高家田
白吳薄
潘眼黑
白道駿
子堡里五
白力新
白喜大
保寺永
子營
地馬孫
堡河山
馬
子城磚
白廟大
白廟小
白子太
大營盤停車場
盤營大
子池陳
白樹柳
潘眼泉北
潘眼泉西
潘眼泉南
潘眼泉東
潘氏老
房平
白子城下
白子城上
白子城
子城小
圖牛小
圖牛大
圖牛大小
潘眼泉
井方高
棚高家營
元木固
房間五
棚高家藍
棚高家老
子樹雙
子信家河
子城榆東
白幼新
白家張
子城
白子城
白子城下
白子城上
白子城
白子城下
白子城上
白子城
白子城下
白子城上

四月二十五日　二十二日以來昌圖に來襲せし敵は此日遠く北方に退却し、其騎幕蓮花街、西砂河子、興隆泉、四方台及二小屯の線に在り、我先進諸支隊も亦從來の地を守備し搜索を繼續す。

三　自四月下旬至五月下旬　狀況

四月二十六日　支隊に屬せる騎兵第三聯隊、同第四聯隊は騎兵第五聯隊、同第八聯隊と交代して原師團に復歸せり。

四月二十八日　昌圖守備隊に步兵一大隊增加せられ、步兵第一聯隊は完全なる聯隊と爲れり。

四月三十日　數日來情況靜穩なり、間諜の言に依れば奉化には二、三萬の敵兵ありと。

五月二日　朝來敵騎約四百、四面城方向より前進し、二十里堡附近に在りし警戒部隊たる、騎兵第十三聯隊第四中隊を壓迫せるの情報に接し、同第二中隊は之を擊攘すべく、午後零時三十分二十里堡に向て前進せるも、左側に前進し來りし敵の騎兵約二百は午前十一時三十分退却を始め、四面城方向に退却し、右側に前進し來れる騎兵約二百も亦同時興隆泉方向に退却せり。

五月四日　敵の騎兵約三中隊二十里堡前面に攻擊し來りしも、喜多少佐の率るる搜索隊之を擊退して多大の損害を與へたり。

滿洲軍は人馬及軍需品の補充に努力し、四月下旬殆んど戰鬪力を回復し、五月上旬前進準備の爲め開進を行ひ、十日頃新配備を終へたり。

支隊は第二軍に屬し依然昌圖附近を守備す、生田目支隊は十一日原所屬に復歸し、新に第五師團より歩兵第四十一聯隊（杉村中佐）代りて支隊に屬せらる。

五月十一日　數日來狀況靜穩なりしも朝來敵の騎兵約一中隊下滿井附近に、同約二中隊其西北に前進し來り、午前九時頃砲各二門を以て二十里堡並に其北方地區を射擊し、又徒歩兵約六十東北方より二十里堡に迫りしに依り、同地の騎兵第十三聯隊第四中隊は斥候を該地に殘置し、北靠山屯東方高地に退却せり、乃ち喜多少佐は同聯隊第三中隊を率ゐて二十里堡に前進すしも、敵の兵力歩兵約四百、騎兵約三百、砲四門にして十一時頃より北方に退却せるを知り。第四中隊を合し午後六時三十分昌圖に歸還す、此頃敵の騎幕は依然興隆泉、四面城及寶力屯附近の線に在りて微弱なる斥候時々其前面に出沒せり。

五月十八日　二十里堡に於て前哨に任じたる騎兵第十三聯隊第四中隊は、前夜單家窩棚に宿營し、早朝一小隊を三十里堡附近に派遣す、同小隊の斥候は敵騎約二十に遭遇せしのみにして、小隊は二十五里堡に到着し、敵方を監視す、午前七時三十分頃、敵の騎兵約二百五十、太平勾及九間房に侵入せしに依り、騎兵第十三聯隊長小池中佐は第二中隊を喜多少佐に屬し、二十里堡に派遣するや、九時頃敵の歩兵約二中隊　騎兵二百五、六十木道兩側より前進し來りしが故に、第四中隊は之と觸接して長青堡附近に退却し、第二中隊と合し喜多少佐の令下に入れり、同時頃四方台に於ても敵の騎兵五、六百南進中にして同地に在りし、騎兵第十四聯隊第二中隊は其壓迫を受け、長山堡方向に退却し又十七窰方面にも鐵道線路附近より、同數中隊前進し來り、此方面を守備せし長江支隊の歩兵第十三聯隊第七中隊、騎兵第六聯隊第一中隊は之と射擊を交換し、該方面に在りし騎兵第八聯隊第二中

隊も亦此敵に對せり。

支隊長は正午頃騎砲兵一小隊を昌圖の東北端に、機關砲二門を東方堡壘附近の陣地に就け、各隊戰備を整ふ、此頃敵砲二門二十里堡西端附近より長山堡に向ひ射擊を開始し、歩、騎兵益々前進し既に西金山堡、靠山屯の線に達し、尙ほ本道東方より約五百騎前進し、其大部西金山堡に侵入せるに依り、喜多少佐の率ゐる搜索隊は大四家子附近に退けり、乃ち支隊長は更に歩兵第四十一聯隊第二中隊を昌圖東方堡壘に就かしめ、騎砲及機關砲の掩護に任ず、爾後敵兵長青堡北方高地附近に停止せしが、其約三百騎午後零時三十分頃小四家子に、約一中隊は靠山屯に侵入せしを以て、喜多少佐の率ゐる搜索隊は東二十家子に、騎兵第十四聯隊第二中隊は張家爐附近に退却す十七窰方面に於ては敵の騎兵約二中隊該地北方高地に來りて、我騎兵第八聯隊第二中聯と對戰中又歩兵の大縱隊東河夾信子附近より鐵道に沿ひ南進するを以て、一時過ぎ我騎砲兵中隊は更に二門を昌圖西北端の陣地に就け、同五時四十五分より射擊を開き、二時三十分長山堡北方高地の三中隊餘の徒歩兵を射擊して潰亂せしめ、尋で大四家子及靠山屯に對し、十數發射擊し後之を止む、既にして敵兵二時過ぎ靠山屯附近より退却を始め、尋で大四家子附近のものも八家子方向に退却し、騎兵第十三聯隊第二中隊は五時三十分昌圖に歸還し、同第四中隊は二十家子に、同第十四聯隊第二中隊は張家爐に宿營し、同第八聯隊第二中隊は推家勾に進出して敵情を搜索し、後十七窰に退き宿營せり。

五月二十日　午前九時頃敵の歩兵約二百、三十里堡附近に、騎兵三、四中隊朝陽堡及興隆溝附近に前進す、乃ち騎兵第十三聯隊長小池中佐は第一中隊を、喜多少佐の指揮に屬し二十里堡に派遣す（當時第三中隊は長青堡附

近に於て敵と對峙す）するや敵兵十一時三十分頃砲二門を以て興隆泉西方高地より二十里堡を射撃し、喜多少佐の率ゐる第一中隊の同地を去るや之を占領し、尋で火を放ちて北方に退却せるを以て、喜多少佐は第一中隊を率ゐて昌圖に歸還せり。

五月二十一日　午前十時頃敵の歩騎兵及砲二門興隆泉方向より、二十里堡に在る騎兵第十三聯隊第三中隊を壓迫す、乃ち交代の爲同地に到着したる第二中隊と協力して之を邀撃せんとせしも、其先頭部隊と銃火を交へて前進せず、敵砲二門は緩徐なる射撃を爲し歩、騎兵の一部は午後二時頃より漸次退却を始めたるも、砲兵は午後四時迄射撃を繼續し、午後六時全部白塔河以北に退却せり。

情報に依れば敵の騎兵六十中隊は第三軍の右側背に迂回せりと。

五月二十三日　朝來敵騎約二百は興隆泉方向より前進せるも、二十里堡の警戒隊に任じたる騎兵第十三聯隊第二中隊は、長青堡に宿營せる歩兵と協力して之を撃攘せり。

五月二十五日　支隊長は騎兵第十四聯隊に歩兵第四十一聯隊第一中隊及騎砲並機關砲各一小隊を屬し、四面城方向を捜索せしむ、乃ち同隊は歩兵第一中隊を八里台南方高地に留めて收容に任じ、行々小數の敵騎を驅逐して申家窩棚西南高地に達し、四面城を砲撃するや、敵の騎兵約百退却を始めしに依り、騎砲兵を以て之を射撃し、尋で昌圖に歸還せり。

五月二十八日　正午頃敵の騎兵約二中隊十七寢に在る捜索隊を壓迫し來りしも、午後四時頃北方に退却せり。

此頃各軍の先進部隊は互に連絡して嚴に警戒し、敵亦陣地を構成して全く駐留の姿勢と爲りしに依り、我騎兵旅

團の活動地域漸く狹く、而かもミシエチンコ騎兵團の來襲以來、我左側方面に騎兵集團の必要ありとし我騎兵第一旅團は少時第二軍に屬せしも、更に第三軍に屬せられ軍の左側に轉ぜんとす。

五月三十日　旅團は擋澤支隊と、昌圖の守備を交代し、明日遼河右岸に轉移せんとす、當時第三軍方面は敵の騎兵團の退却後にして、大なる變化無く又軍の諸隊は轉宿を終り、尚新陣地の防禦工事亦略完了せり。

第十九章　第三軍左側の行動

五月三十一日　旅團は昌圖の守備を擋澤支隊に讓り、第三軍の左側に轉進し遼陽窩棚及鄭家屯附近の敵情捜索の企圖を以て、午前五時三十分昌圖出發八家子、朝陽堡、四家子、亮中橋を經て遼河に架せる小塔子の軍橋を渡り、遼河右岸に進出し小塔子及其附近に宿營す。

六月一日　午前七時小塔子附近を出發し劉家屯、郝家屯、孤甸、來虎屯、錢家屯、太平庄を經て花楊樹に到り騎兵第十四聯隊第四中隊を牧牛屯に、同第十三聯隊第一中隊を四家子に派遣して警戒し、花楊樹北端より東方丘阜に亙り東北に面し防禦陣地を構成し、敵情を捜索す、當時敵の騎幕は金家屯、馬家屯、七家子附近の線に在り。

一　六月三日獅子峪附近の戰鬪

旅團は遼陽窩棚附近の敵情を審にせんと欲し、騎兵第十四聯隊長豐澤大佐の率ゐる捜索隊〔騎兵第十三聯隊第二

中隊、同第十四聯隊（第一第二中隊欠）騎砲兵一小隊、機關砲二門）を同地方向に差遣し搜索せしむ、乃ち搜索隊は六家子、三合堡、四合堡を經て午前十時過ぎ獅子峪に到着す、時に敵の砲兵山嶽子を射擊し、其騎兵杏樹坨子、三義好附近を徘徊せるに依り、前衛たる第三中隊をして獅子峪北方高地を占領せしめ、第四中隊（二小隊欠）騎砲兵小隊及機關砲二門を其左翼に配備し、第四中隊の他の二小隊と騎兵第十三聯隊第二中隊とを中央後に位置せしめ、前面の敵を邀擊せんとす、先是午前八時頃より敵の騎兵約二百蕃家窩棚北方七、八百米に徒歩散開し來り砲二、三門を以て、歩兵第二十五聯隊第三大隊の守備せる杏樹坨子西北方高地より高家窩棚及山嶽子南方高地を射擊し、尋で九時三十分頃同騎兵二千五、六百新發街より西部河家窩棚方向に前進し、拉々街に達せり、而して其左側衛の如き騎兵約一聯隊鐵家窩棚に在りしが故に、騎砲兵小隊は獅子峪西北高地より射擊し其大部を北方に、一部を南方に潰走せしむ、幾も無く杏樹坨子北方の敵砲二門更に獅子峪北端を射擊せしも、我騎砲兵は專ら蘭洲街附近の森林内に密集せる敵を射擊し散亂せしめたり、十一時三十分頃敵の騎兵約四百西南部王家平房方向に退却し同約一聯隊三義好南方の王家平房より新發街方向に運動せり、然るに朝來南進せし敵の騎兵約一中隊、大鄉約窩棚附近に達せしものゝ如く、又新發街附近に侵入せし約一千、漸次鐵家窩棚方向に南進し來り、其一部本道西方を前進し、午後零時三十分頃其先頭小恒道子附近に達し、別に同約一千邢家窩棚、刺楡坨を經て東進せり、而して我騎砲及機關砲は陣地を防界線に進め、一時四十分騎砲兵を以て東南部蘭洲街附近に停止せる敵の騎兵約一聯隊を射擊して北方に退却せしむ、是時敵の大部隊鐵家窩棚、三義好及東河家窩棚附近に退却して、集合せるものゝ如く、其砲各二、三門を以て三義好東方の王家平房南方高地及三義好南方の王家平房、三義好の中間附近より共に、

山嶽子附近を射擊し二時頃に至り、其主力北方に退却し、砲約二門三義好東方の王家平房南方高地附近より蕃家窩棚附近を、又他の六門三義好南方の王家平房附近より射擊せしも、四時頃退却せるに依り、搜索隊は六時宿營地に歸還せり。

旅團命令要旨左の如し。

一、本日午前九時頃より、騎砲八門を有する敵騎約二十中隊は遼陽窩棚方向より康平縣方向に前進し來り、豐邊大佐の率ゆる搜索隊は獅子峪附近に於て敵騎の一部と遭遇し、該地を占領し一時敵の包圍を受けしも吉田支隊の一部と協力して午後三時頃頑强に抵抗し、遂に之を擊退せり、敵の損害死傷約百五十我に損害なし。

當時騎兵第二旅團は蒙古の境なる二牛所口、第七師團は康平縣の北方八家子附近より康平北方高地に亘り、堅固に防禦工事を施し、遼河右岸一帶の警備に任ず、而して第七師團の歩兵第二十五聯隊、砲兵第十六聯隊第二大隊本部及第四中隊は六家子附近に、同隊は二日以來玩々窩棚附近に宿營し、其第三大隊は龔龍山、四合堡、獅子峪、馮家窩棚、山嶽子を守備せり。

敵の騎兵團は遼陽窩棚を根據とし其警戒幕は公家來、西營子、窮邦街附近にあり、而して公河頼には兵力未詳の敵の騎兵部隊あるが如く、其十乃至百騎は日々馬家屯、七家子、刺楡坨、後三百天地附近に來り夕に至り退却するを常とせしに因り、小池中佐の率るる搜索隊（騎兵第十三聯隊（第一第二中隊欠）同第十四聯隊第二中隊、騎砲兵一小隊、機關砲三門）を以て之を搜索せし。

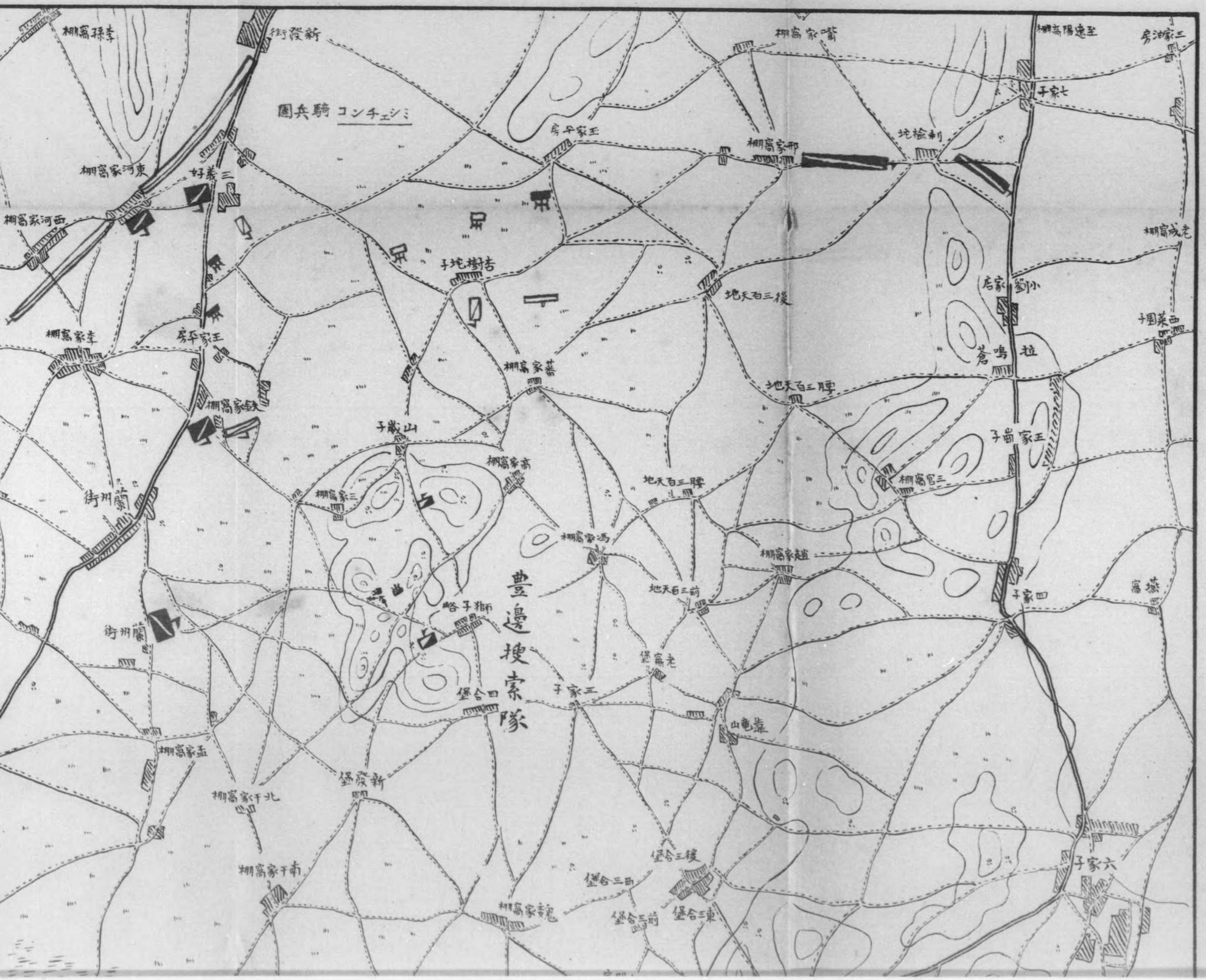
六月六日　小池搜索隊は拉鳴蒼西北高地に進出し、刺楡坨の敵を射擊し續いて騎兵第十三聯隊第三第四中隊を

以て攻撃し、敵騎百五、六十を驅逐して七家子附近迄追撃の後歸還せり、其の後情況靜穩なりしも、旅團長はミシェチンコ中將の率ゐる騎兵團の鄭家屯及遼陽窩棚附近に分宿せるを知り、主力を以て十日坑々窩棚、四合堡を經て午前九時三十分獅子峪に到り、依然馬家屯、七家子、刺楡坨、邢家窩棚、三義好東方及び南方の兩王家平房附近の線に敵の騎幕あるを知れり、當時敵の徒歩兵約二十焦家窩堡に、同約三十、三義好南方王家平房附近に、又約二百騎刺楡坨、邢家窩棚、三義好東方の王家平房北方高地等の諸村に駐止し、正午頃より其砲二、三門三義好東方の王家平房北方高地より獅子峪北方高地に向ひ緩射を始め、午後二時過ぎ新に同村東方附近にも亦砲兵現出せしに依り、山嶽子西方高地より我騎砲兵を以て若干應射し、尋で鐵家窩棚に若干の敵騎あり、又同約二中隊の新發街附近を西南方に前進するを見、敵の主力新發街、太平街及遼陽窩棚附近に在るものゝ如し歸還せり。

二　六月十五日遼陽窩棚の威力偵察

ミシェチンコ騎兵團は五月下旬以來、遼陽窩棚附近に在り、而して六月中旬に至り、其騎幕は寶家堡子附近より田家窩棚、三義好東方の王家平房、新發街及東西の兩河家窩棚を經て邊家窩棚附近の線に亘り、其搜索隊及斥候は我前哨線前に出沒し、又屢々獅子峪附近の我陣地を砲撃す、而して其兵力は後貝加爾「テレク、クバニ」「スレヂエレスコーウラヂ」高加士等に屬する哥薩克騎兵四、五千及第十軍團歩兵第三十一師團の一部と砲兵一、二中隊なるが如く、尙鄭家屯に將官の率ゐる約三、四千の騎兵駐屯せるものゝ如し。

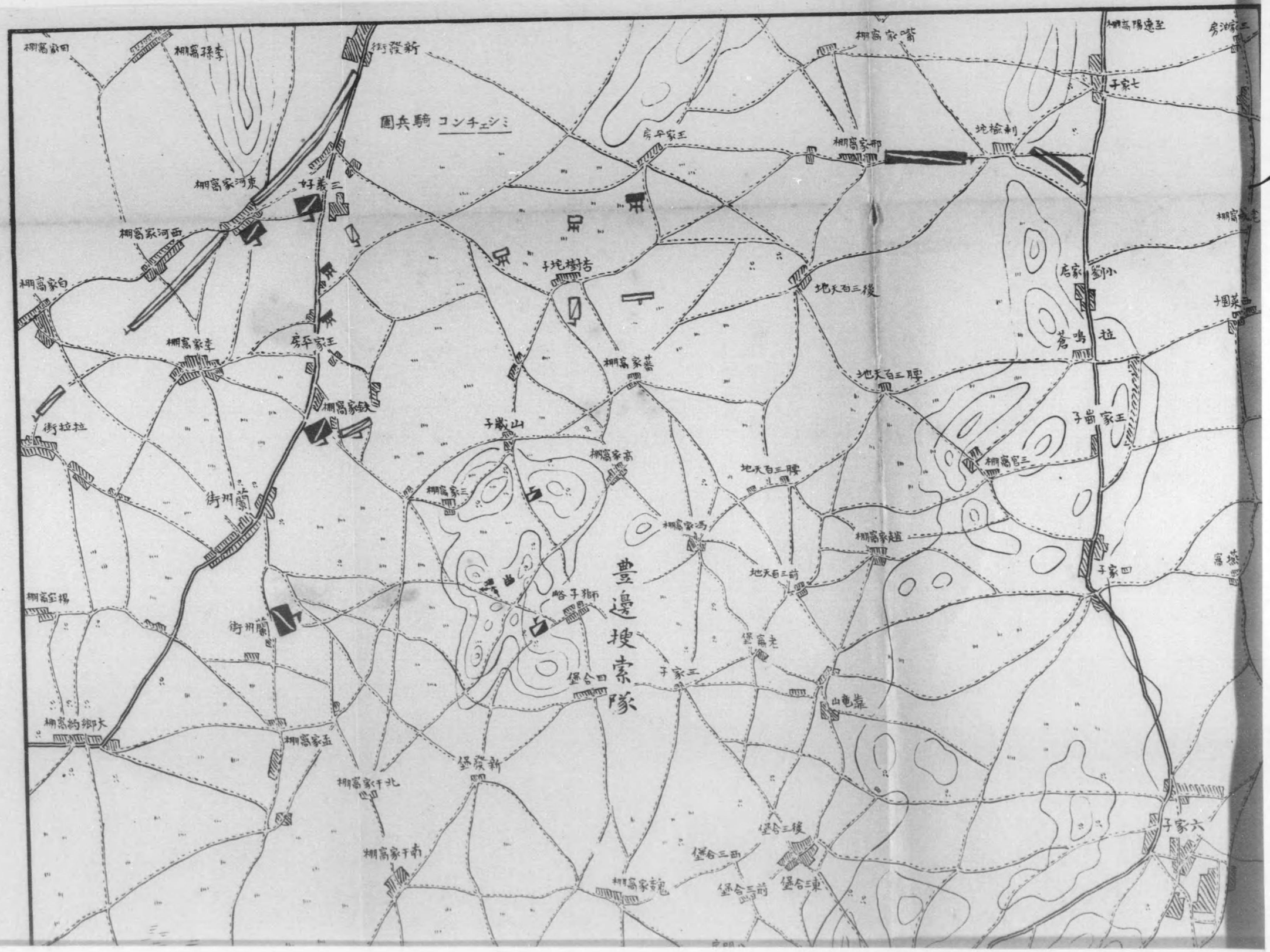
第七師團長男爵大迫中將は騎兵第一旅團及騎兵第二旅團と協力し、遼陽窩棚附近の敵を包圍して之を殲滅せんと



第十五

ブエルスコーウラ、尚加太第七騎兵團、五千及第十軍團步兵第三十一師團の一部を確兵隊なるが如く、尚鄭家屯に將官の率ゐる約三、四千の騎兵駐屯せるものゝ如し。

第七師團長男爵大迫中將は騎兵第一旅團及騎兵第二旅團と協力し、遼陽窩棚附近の敵を包圍して之を殲滅

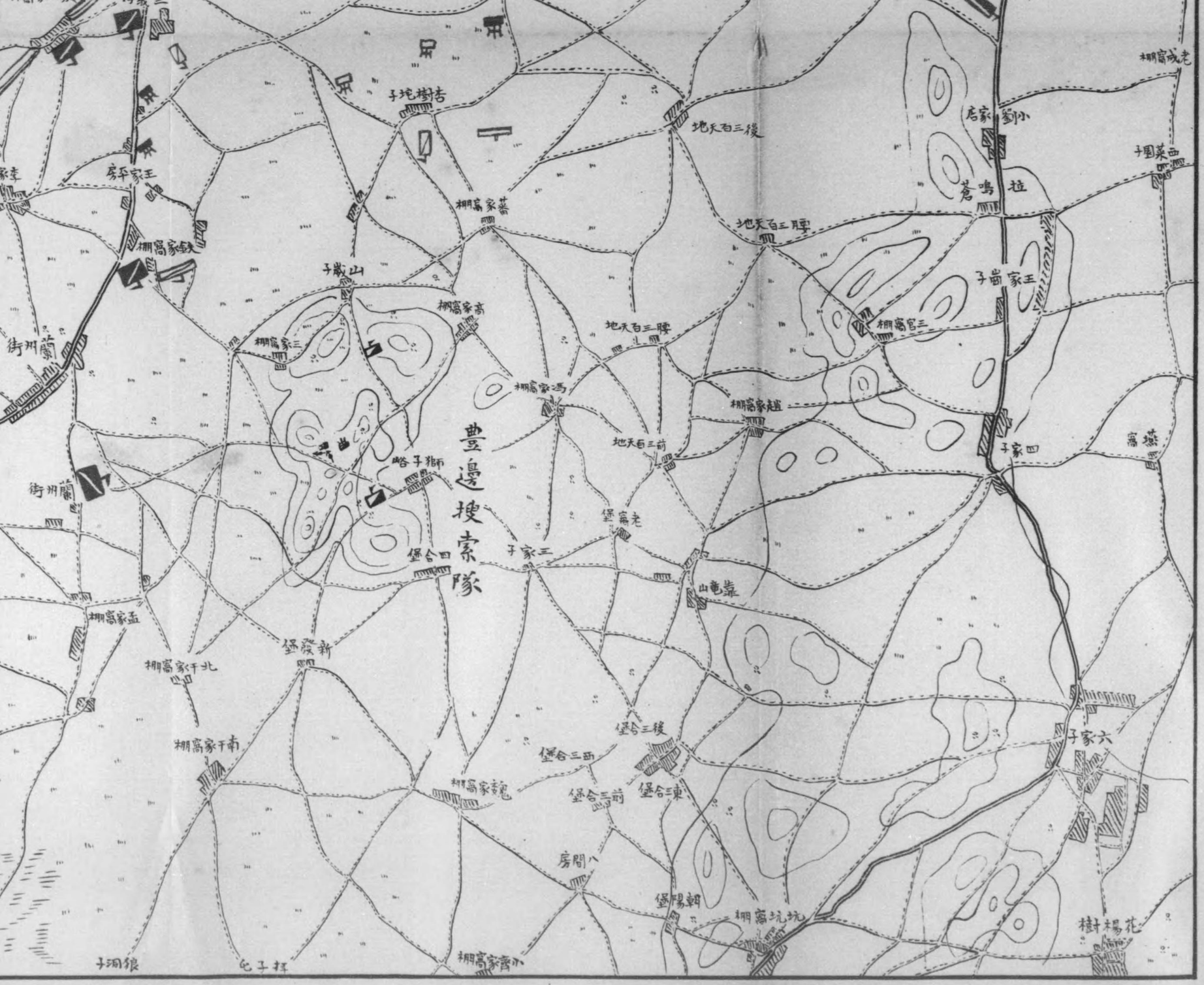

豐邊搜索隊
騎兵團 コンチェシミ
棚窩孫李
棚窩家河東
棚窩家河西
棚窩家白
棚窩家李
棚窩家鉄
街拉拉
街州蘭
棚窩家楊
棚窩家約鄉大
棚窩家孟
棚窩家北千
棚窩家南千
棚窩家三
棚窩家高
棚窩家馮
棚窩家鬼
棚窩家嘴
棚窩家邢
棚窩家越
棚窩家陽遠至
子家七
子家四
子家六
子家三
子家王
子園菜
子崗家王
子崗山
子地樹吉
子嶺山
王家平
王家平
新發街
新發堡
地檢制
地天百三後
地天百三腰
地天百三前
地天百三腰
地天百三
老堡寨
山龜寨
堡合口
堡合三後
堡合三西
堡合三前
堡合三東
蒼鳴拉
小劉家
高塚
三家油房

田家窩棚、三義好東方の王家平房、新發街及東西の兩河家窩棚を經て邊家窩棚附近の線に亘り、其搜索隊及斥候は我前哨線前に出沒し、又屢々獅子峪附近の我陣地を砲擊す、而して其兵力は後貝加爾「テレク、クバニ」「スレヂエレスコーウラヂ」高加士等に屬する哥薩克騎兵四、五千及第十軍團歩兵第三十一師團の一部と砲兵一、二中隊なるが如く、尙鄭家屯に將官の率ゐる約三、四千の騎兵駐屯せるものゝ如し。

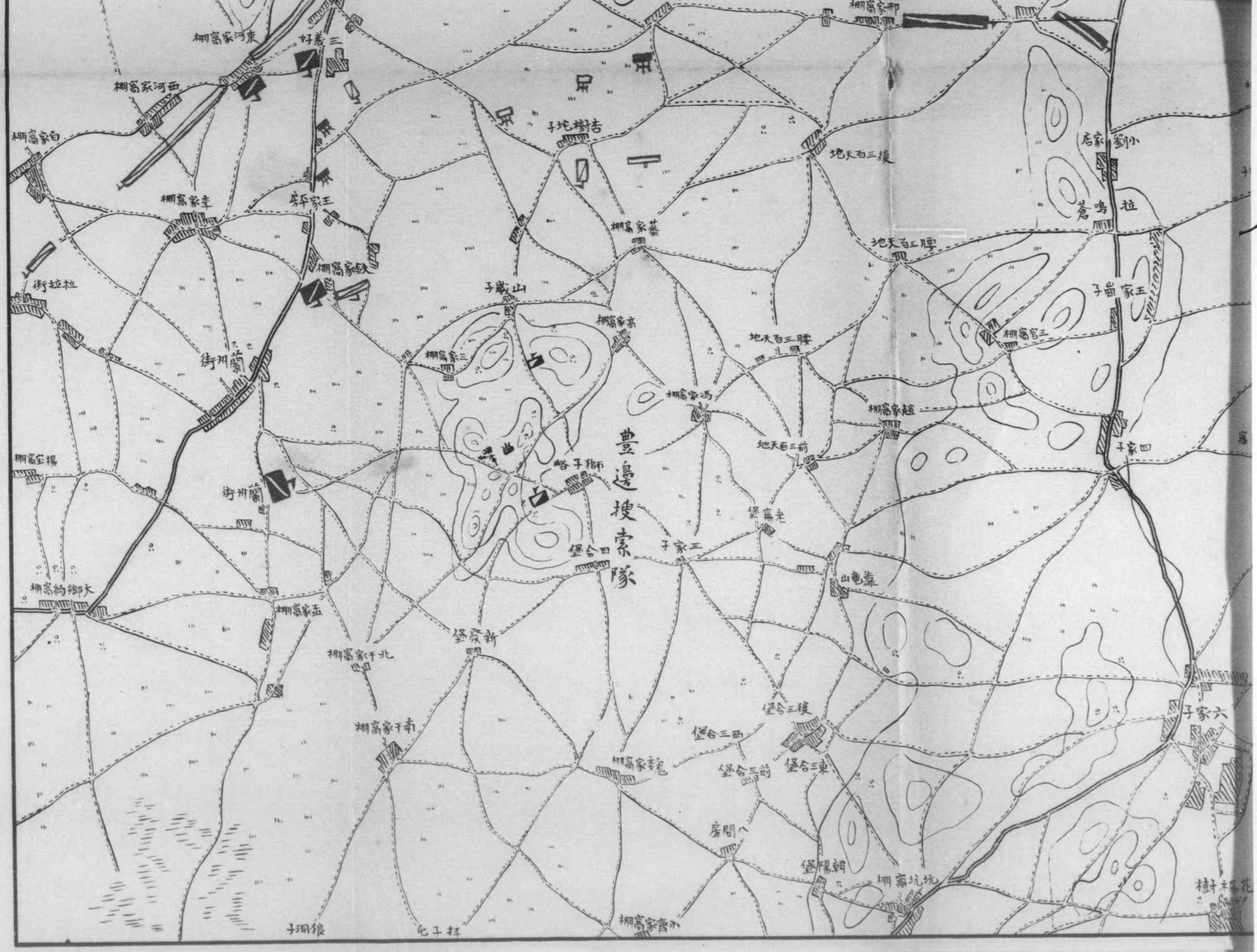
第七師團長男爵大迫中將は騎兵第一旅團及騎兵第二旅團と協力し、遼陽窩棚附近の敵を包圍して之を殲滅せんと

獅子峪附近之戰鬪

六月三日 ㊀八十前ノ位置 ㊁八十後ノ位置 五万分ノ一



第十五圖


豐邊搜索隊
棚窩家河東
好義三
棚窩家河西
棚窩家白
棚窩家李
房平家王
棚窩家鉄
街拉拉
街州蘭
棚窩家楊
街州蘭
棚窩家約鄉大
棚窩家孟
棚窩家于北
棚窩家于南
子山歲
子地樹吉
棚窩家蕃
棚窩家高
棚窩家三
棚窩家馮
棚窩家寬
棚窩家富小
堡合四
堡發新
子家三
堡窩老
山竜靠
地天百三後
地天百三腰
地天百三腰
地天百三前
棚窩家趙
棚窩家三
棚窩家王尚子
棚窩家鄭小
子家四
子家六
樹木楊花
堡合三後
堡合三西
堡合三前
堡合三東
房間八
堡陽朝
棚窩坑坑
棚窩家寬小
子洞狼
子子桿

し、六月十五日命令を下し、歩兵第二十六聯隊、騎兵第十三聯隊第四中隊の一小隊、砲兵第一第三中隊、工兵第二中隊の一小隊及衛生隊半部を黑澤歩兵大佐に指揮せしめ（黑澤支隊と稱す）夜半四家子、龕龍山の線を發し主力を以て興隆窪方向より遼陽窩棚に前進し、速に二道河子及鄭家屯に通ずる敵の兩退路を遮斷して遼陽窩棚を攻略せしめ、騎兵第一旅團（第十三聯隊第四中隊の一小隊を缺き歩兵第二十五聯隊第五中隊を附す）をして同時長溝子、四家子の線を發し。黑澤支隊の右方を遼河右岸に沿ひ馬家堡附近に前進し、速に二道河子附近遼河の渡場を占領し、東北及北方に通ずる敵の退路を遮斷し、歩兵第二十八聯隊（第二大隊欠）騎兵第十五聯隊第一中隊の一小隊砲兵第二第四中隊、工兵第一中隊の一小隊及衛生隊の一部を奥田歩兵大佐に指揮せしめ（奥田支隊と稱す）同時龍土廟子、三眼井の線を發し登家坨子、楊坤窩棚方向に前進し、黑澤支隊と協力して遼陽窩棚を攻略し騎兵第二旅團（騎兵第十五聯隊第一中隊の一小隊を缺き、歩兵第二十八聯隊第六中隊、騎兵第七聯隊（第一中隊の一小隊半欠）を附す）をして同時三眼井、大平庄の線を發し、奥田支隊の左方を孔家窩堡方向に前進し、北方に通ずる敵の退路の遮斷に任じ、吉田支隊（吉田少將の指揮せる歩兵第二十五聯隊、砲兵第十六聯隊第二大隊本部及第四中隊にして五月下旬以來六家子及坑々窩棚附近に在り）及歩兵第十四旅團長齋藤少將に命じ、之が援助を爲さしむ、尙ほ遼河左岸に在る第九師團は一支隊（平佐中佐の指揮せる歩兵第三十五聯隊第三大隊、騎兵第九聯隊（第一中隊欠）砲兵第二大隊の混成小隊、工兵第二中隊の一小隊）を西發堡（寶力屯西方二里）附近に進出策應せしむ。旅團の攻擊命令要旨左の如し。

一、遼陽窩棚附近には砲兵を有する敵騎四、五千あるものゝ如し。

二、第七師團は明日遼陽窩棚附近を搜索し該地附近の敵を包圍攻擊する筈。

黑澤支隊（歩兵一聯隊、騎兵一小隊、砲兵二中隊、工兵一小隊）は午前零時四十分四家子出發七家子を經て遼陽窩棚に向て前進する筈。

奥田支隊（歩兵二大隊、騎兵一小隊、砲兵二中隊、工兵一小隊）は登家坨子、楊坤窩棚に前進し、黑澤支隊と協力して遼陽窩棚を包圍する筈。

三、騎兵第二旅團は明日午前零時三眼井出發奥田支隊の西側を前進し敵の退路を遮斷す。

四、當旅團は本日第七師團と共に遼陽窩棚附近の敵を攻擊する目的を以て黑澤支隊の右側を前進す。

騎兵第十三聯隊第一第四中隊、歩兵一中隊は前衛に任じ四家子、河家信子、山東屯を經て馬家堡に向ひ前進す。

騎兵第一旅團の前進

注　意

敵の電線を發見したるときは之を切斷すべし。

騎兵第一旅團は騎兵第十三聯隊（第二第三中隊及第四中隊の一小隊欠）及歩兵第二十五聯隊第五中隊を小池騎兵中佐に指揮せしめ、前衛とし夜半長溝子を出發し、河家信子を經て馬家堡に、騎兵第十四聯隊（第一中隊と第三中隊と二小隊欠）及機關砲二門を右側衛とし、同時天鵝泡附近を出發し、金家屯を經二道河子に向ひ前進せしめ騎兵第十四聯隊第三中隊の二小隊を牦牛屯、四家窩棚附近に、同第十三聯隊第三中隊の一小隊及機關砲二門を花楊樹に殘置して警戒に任じ、殘餘の騎兵第十三聯隊第二第三中隊（一小隊欠）同第十四聯隊第一中隊、騎砲兵中

隊、機關砲七門を本隊として午後八時花楊樹西北に集合前進す、時に天候險惡黑雲油然叢を流すが如く空を蔽ひ疾風迅雷、尋で豪雨沛然雲漢缺するが如く、爲に道路は一時泥河に化し馬脚を沒す、午後十一時三十分四家子出發馬家堡に向て前進す、既にして雨霽れて月明ありと雖數日前大雨あり、行潦尙ほ道路に氾濫し泥濘にして行進容易ならず、殊に砲兵の運動困難なり夜に入り冷氣身に徹す。

拂曉に於ける狀況

六月十六日　拂曉孫家坨子に達し、黑澤支隊方面に熾なる銃聲を聞けり、此に於て前衛司令官小池中佐は戰鬪に參與せんとし、第一第四中隊（一小隊欠）を率ゐて急進し二、三十の敵を驅逐して午前五時南部馬家堡附近を占領す、此時黑澤支隊は遼陽窩棚南方八百米に達し、彼我の砲戰熾烈となり、尋で旅團の主力も亦馬家堡に集合す、乃ち小池中佐は同時三十分歩兵一小隊、騎兵第四中隊（一小隊欠）及馬家堡に來れる機關砲二門を以て小數の敵騎を驅逐し公河賴北方を占領す、旅團長は長徑六百米の敵の一縱隊遼陽窩棚より北方に向ひ退却するを知り騎砲兵中隊をして馬家堡北方より之を射擊せしめ、歩兵第五中隊（一小隊欠）騎兵第十四聯隊第一中隊及機關砲二門を其右翼に置き掩護に任ぜしむ、右側衛は夜半天鵝泡を出發し、東山東屯、泡家堡子を經て午前五時四十分頃前二道河子北端に達し、渡場の監視として第四中隊を殘置し、他を以て馬家堡東南に至り本隊に合す。

朝に於ける狀況

午前六時騎砲兵中隊は北部馬家堡附近に出沒せる敵騎約百を北方に擊退し、尋で續々遼陽窩棚東北及北方に退却する敵兵あるを認め、其東北方に行進中の四、五中隊を潰亂せしめ、六時四十分再び同方向に退却する砲兵約一中隊を急射し、尋で北部馬家堡に集合せる敵を擊攘せり、又渡場監視として前二道河子に在りし騎兵第十四聯隊第四中隊は七時三十分頃南方より來り、遂河を渡らんとする敵騎約四十を要擊して其數名を殪せり、同時五十分頃

敵砲約八門遼陽窩棚北方より公河頼附近を緩射し、八時三十分頃長徑二、三千米の騎兵の大集團北方に退却を始めしに依り、公河頼北方の機關砲二門之を射擊せしも距離遠くして効果無く、尋で九時三十分騎砲兵小隊公河頼に陣地を變換して之を射擊し潰亂せしむ、乃ち敵兵の東北及北方に退却せるもの約三千なり。

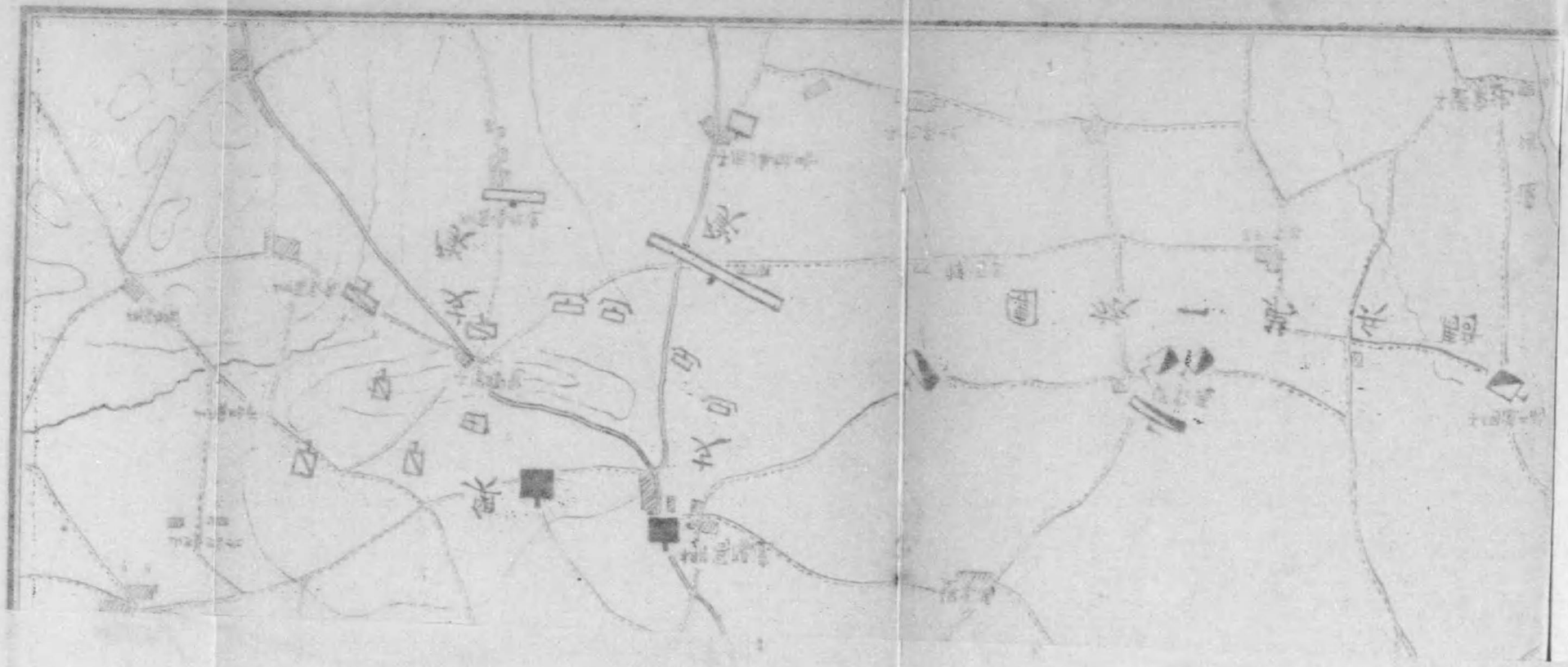
第七師團長は正午黒澤支隊の遼陽窩棚を略し、敵兵遠く北方に退却せしを知り、諸隊に令して各其占領地附近に宿營せしめ、康平に歸還せり、此に於て騎兵第一旅團は南部馬家堡附近に、黒澤支隊は追擊隊を招還し、共に遼陽窩棚に、奥田支隊は遼陽窩棚西方の村落附近に、騎兵第二旅團は劉財窩棚附近に宿營せり。然れども師團長は既に地形を審にし將來の作戰に資する所ありしに依り、此夜諸隊をして退却せしめ、黒澤、奥田兩支隊は十七日午前一時、騎兵第一第二旅團は三時各歸途に就き軍隊區分を解きて從來の姿勢に復し、騎兵第一旅團は十一時花楊樹附近に歸還す、而して敵の騎兵は此日夕より再び遼陽窩棚附近に侵入せり。

此戰鬪に於ける諸隊の損害は、酒匂騎兵特務曹長以下五十一名戰死、本間歩兵大尉以下二百三名負傷、馬匹九頭死し、十八頭負傷、尚ほ失踪下士卒三名、馬匹一頭にして、費消小銃彈藥約一萬一千三百發、砲彈約四百三十發なり。

三　秋山騎兵團の編成

遼陽窩棚附近の戰鬪後、騎兵第一第二旅團は依然第七師團の兩側に在り、敵の騎兵も亦舊態に復せしに依り、遼河沿岸の地より搜索すること困難なりしが故に、第三軍司令官は六月十九日騎兵第一旅團長秋山少將に命ずるに

第十六圖

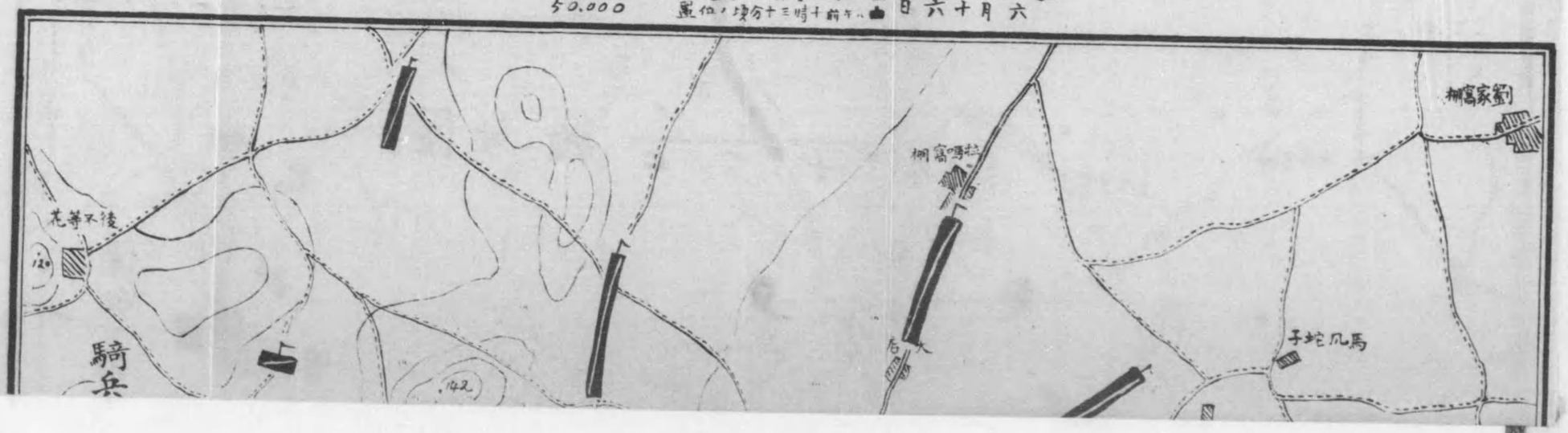


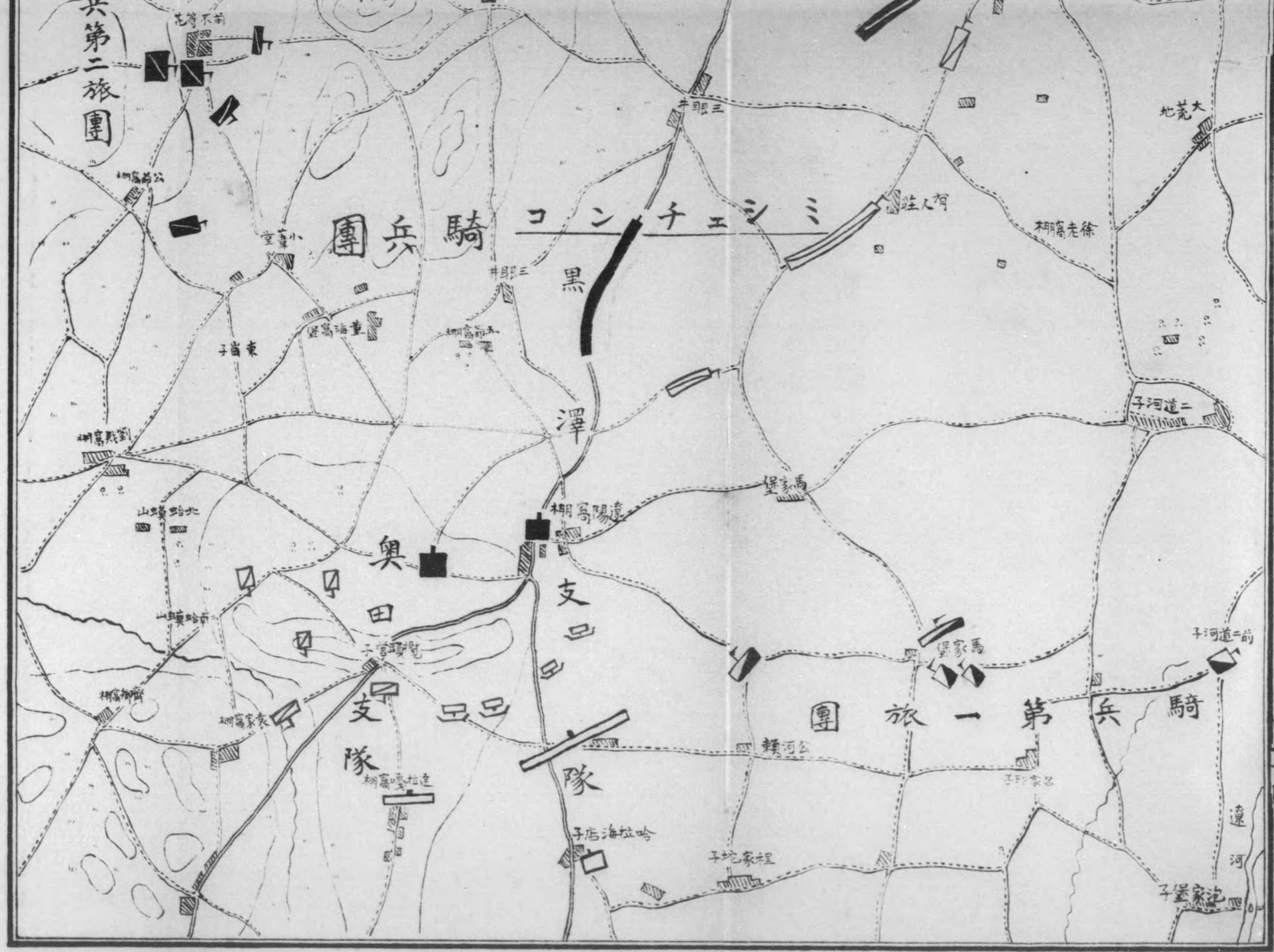
遼陽窩棚附近之戰鬪

1/50,000

□ 午前六時頃ノ位置
■ 午前十時三十分頃ノ位置

六月十六日





第十六圖

三　秋山騎兵團の編成

遼陽窩棚附近の戰鬪後、騎兵第一第二旅團は依然第七師團の兩側に在り、敵の騎兵も亦舊態に復せしに依り、遼河沿岸の地より搜索すること困難なりしが故に、第三軍司令官は六月十九日騎兵第一旅團長秋山少將に命ずるに

騎兵兩旅團及同第七聯隊を併せ指揮し、秋山騎兵團と稱し二牛所口附近に位置して軍の左側を掩護し、遠く遼河右岸の地を搜索すべきを以てせらる、依て騎兵團長は騎兵第十四聯隊（第三中隊欠）機關砲三門を花楊樹附近に殘置して右側の警戒並に第九師團との連絡に任じ、自餘の諸隊を率ゐ六月二十二日午前六時宿營地出發琉々窩棚、八家子、康平、馬連屯を經て二牛所口に移轉し、騎兵第二旅團及同第七聯隊（一中隊半欠）を合し、秋山騎兵團と稱し敵のミシエチンコ騎兵團と對峙せり。

騎兵團長は蒙古內部の敵情地形を查察せんとし、騎兵第一第二旅團より二小隊を佐原大尉に指揮せしめ、其情況を偵察せしむ、該搜索隊は六月二十六日出發深く蒙古內に入り、寂莫無限の沙漠を跋涉し隆暑に堪へ饑渴を忍び、萬難を排して數十日間の艱苦を嘗め、八月十三日歸還せり、其行程實に三百有餘里なり。

佐原搜索隊蒙古內部の敵情地形偵察

佐原搜索隊に對し第二軍司令官より左の通り感狀を授けらる。

佐原搜索隊

陸軍騎兵大尉佐原敬二の率ゐる騎兵第一旅團の一小隊
陸軍騎兵中尉島野　實の率ゐる騎兵第二旅團の一小隊

明治三十八年六月二十六日哈拉沁屯、彰武縣より齊々哈爾方位に出て蒙古內部の敵情及地形を偵察すべき任務を以て宿營地劉家窩棚を出發し彰武縣、「ナイムアン」「アルホルチン」東西「チヨロツト」「チヤスト」族下の諸部落を經て托羅河を渡り猶北進を繼續せんとしたるも情況之を許さゞるを以て已むを得ず往路と路を異にし「タラバン」「ボウワン」「ビントワン」族下の諸部落を經八月十三日宿營地に歸還せり行程實に三百有餘里日

數約五旬簡蠹の地圖を按して深く不毛に入り隆暑瘴癘を冒し饑渴騎乏を忍び地方團練の妨碍に會ひ或は有力なる敵兵の探知する所となり一難を經る毎に鋭氣加倍し周到緻密なる計畫を以て著々任務を實行し縱横敵地を馳驅し遂に克く蒙古内部の地形、物資、人情、風俗及び制度を査察し敵の西方地區に於ける勢力範圍と行動とを探窮し我將來の作戰上に裨益ある報告を爲したり

明治三十八年九月七日、

第三軍司令官　乃木希典

騎兵第十四聯隊の齋家坨子附近戰鬪

四　七月一日獅子峪附近の戰鬪

六月二十二日　花楊樹に殘留し右側警戒に任じたる騎兵第十四聯隊（第三中隊を缺き機關砲三門を附す）は花楊樹附近に於て、第七師團の吉田支隊と共に遼河右岸を警戒中、七月一日敵騎約二百劉家坨子より下甫に移り、午前八時同地西方に徒步兵若干散開し、同約二中隊天鵝泡に進み、尋で其約二百散開して前進し、在程家窩棚の我騎兵小哨（騎兵第十四聯隊第一中隊の一小隊）を包圍せんとす、乃ち趙秀窩棚に前哨たりし騎兵第十四聯隊第一中隊（一小隊欠）は直に齋家坨子に前進せんとせしも、同時三十分同小哨該地に退却し、九時三十分頃に至り、敵兵程家窩棚に達せしに依り小哨を收容し趙秀窩棚東方に在りて此敵に對せり。

騎兵第十四聯隊（第一第三中隊欠）は天鵝泡方向の敵に對し、午前十時頃出發（豫備隊として第四中隊を殘置す）十一時五十分齋家坨子に到り、敵の騎兵約二中隊天鵝泡より程家窩棚に前進中なりしを見、聯隊長豐澄大佐は之を攻擊せんとし、機關砲三門を齋家坨子東方二百米に置き、第一中隊（二小隊欠）及第二中隊の一小隊をして其

左翼に徒步戰を爲さしめ第二中隊（一小隊欠）を右翼後に置き豫備隊となせり、午後零時十五分頃敵の騎兵約一小隊途上縱隊を以て我陣地前を暴露して南進し、尋で約一中隊前方八、九百米の地に前進し來りしに依り、直に之を射擊するや瞬時に潰亂し、大部は程家窩棚に逃れ、零時四十分頃同村南端より亂射せるも、我第一中隊（二小隊欠）は齋家坨子西北約三百米の獨立家屋に、第二中隊の一小隊は其西方森林に據り隱蔽して之に應射せり、一時十五分敵の騎兵約三百程家窩棚より天鵝泡方向に退却せしに依り、我全線猛烈に射擊して之を潰亂せしめ、同時五十分第一中隊（二小隊欠）は程家窩棚を占領す、此頃四家子及獅子峪方向の銃砲聲尙熾なりしが故に、豐澄大佐は第一中隊（二小隊欠）を現在地に留め、主力を以て三時三十分花楊樹に著して之に備へり（負傷卒一名）。

騎兵團長は獅子峪附近吉田支隊の前哨敵の騎兵團の攻擊を受け、激戰中なる戰報に接するや、該方面の騎兵第十四聯隊（第三中隊欠）の兵力を增加せんと欲し、此夕同聯隊第三中隊（二小隊欠）及騎砲兵一小隊を豐澄大佐の許に派遣し（此兩隊は二日午前四時、二牛所口出發正午花楊樹に到着し同大佐の令下に入れり）尋で同支隊の獅子峪陣地の回復攻擊を企つるや之に協力せんとし、騎兵第二旅團の主力をして拉々街方向に前進せしむ。

七月二日　田村旅團長は其騎兵第十五聯隊（第一中隊を缺き機關砲二門を附す）を二牛所口に殘置し、三家窩堡附近に搜索中隊、騎兵第十五聯隊第二中隊）を派遣せしめ、主力（騎兵第十五聯隊第一中隊、同第十六聯隊、騎砲兵一小隊、機關砲六門）を率ゐ、午前四時牛頭位北方出發九時拉々街に達し、東河家窩棚附近に若干の敵騎在るを知りし外得る所なかりしも、十一時頃約一中隊白家窩棚に在りとの報を得、之を攻擊せんとし前進し白家窩棚を占領し、同第十六聯隊（第三中隊欠）をして其西北方丘阜の敵を攻擊せしめ、騎砲兵小隊をして同村西方高地

に故列を布置せしむ、乃ち騎兵第十六聯隊は第三中隊を大間隔に散開し、第一第二中隊を縱隊横隊とし、其左翼に第二線として前進し、第四中隊の白家窩棚南方一千五百米に達せし時、敵の射擊を受けしも我砲兵小隊之を沈默せしに依り、前進して敵騎約五十を西河家窩棚に擊退し、白家窩棚西北方丘阜を占領す、其後敵情變化無かりしに依り、田村少將の率るる騎兵旅團は午後三時十五分二牛所口に歸還せり。

七月六日　李家窩棚附近に於て前哨に任ぜし騎兵第十三聯隊第二中隊の警戒中、午後六時頃敵の騎兵約一百信家窩棚附近に在りし我將校斥候を壓迫し、尋で劉家窩棚の小哨（第二中隊第四小隊）を襲ひ小哨は損害を受け退却す、小哨長赤澤特務曹長は一騎と共に停止して偵察す、偶銃聲の爲め乘馬遁走するや、共に駐りし上等兵大友壬五郎は强て己の馬に小哨長を乘らしめ、其情況を中隊長に報告し感恩し、單身追擊せる敵と奮戰格鬪遂に身を以て上官を援ひたり、其忠烈實に軍人の龜鑑たり、編者は同中隊なりしを以て特に玆に記す。

騎兵團は依然二牛所口附近に在りて其防禦線を、王連窩棚より大王家窩棚を經て劉家窩棚に亙る線に定め、概ね趙家窩棚、太平庄を經六家子に亙り警戒せり、而して騎兵團長は中村支隊の前進するや、花楊樹附近に在りし騎兵第十四聯隊の内第一第二中隊を長谷川少佐に屬し　依然同地に置き其他を招還す。

長谷川少佐は八月一日敵の騎幕を明らかにせんとし、午前九時花楊樹出發劉家坨子、東山東屯を經て前進し、正午頃其前衛を以て寶家堡子を占領し、主力を以て其西方より錢家坨子の圍壁に據れる敵を擊退せんとせしも、其兵力逐次增加し我右側背に運動するの狀ありしに依り、東山東屯を經て歸還せり。

此日敵の騎兵約一中隊東草干附近に前進せしに依り、騎兵第十五聯隊（機關砲二門を附す）之が擊攘に任じ、二

日炭窰方向に退却せるが如きを知り、同地に向ひ前進して朝陽堡附近の敵の監視兵と射擊を交換し、尋で敵の騎兵約一百朝陽堡より西北方に退却し、其約三十炭窰西北高地に停止せしに依り歸還せり。

八月七日　騎兵團參謀として森岡中佐、大田黑少佐着團す。

八月十二日　騎兵第十八聯隊（第二中隊欠）は軍命令に依り小莫力克附近に到着し、騎兵團に屬し、又騎兵第八聯隊（第一中隊欠）は總司令官の命に依り、第二軍より騎兵團に轉屬せり。

八月十四日　花楊樹に在りし騎兵第十四聯隊第一第二中隊は、騎兵第一聯隊に其守備を讓り騎兵團に復歸す。

五　自八月二十八日 至八月三十一日　蒙古博王府方向の搜索

騎兵團長は博王府に騎兵約百五十、物資徵發中に在りとの情報を得、之を防碍せんと欲し、本多大佐の率るる騎兵第十六聯隊（第一中隊欠）同第十八聯隊第一中隊（一小隊欠）及第三中隊の一小隊、同第十五聯隊の集成小隊（邇騎哨に充つ）機關砲二門の搜索隊を派遣す、乃ち同隊は八月二十八日午後三時五十五分哈拉勿索に達し、若干の敵騎「オーホーイノソ」北方に在るの報を得、騎兵第十六聯隊第三中隊の一小隊を西蘇營子南方に派遣し、尋で之を攻擊せんとし、前衛たる騎兵第十六聯隊第二中隊と本隊の第三中隊を派遣するや、敵騎七、八十北方に退却し追擊に移らんとせしも日己に沒せしが故に、「オーホーイノソ」に宿營す、當時東蘇營子附近に在りし敵の騎兵約二百は悉く北方に退却せり、依て搜索隊は二十九日第四中隊に東蘇營子の占領を命じ、他を擧げて博王府に前進し六時「ミーリアエラ」に達し、更に同村北方高地に進出し、暫く霧の霽るゝを待てり、然るに同時三十分頃敵の騎

兵約百「中ショーホー」より東方に退却するを認め、再び前進して七時博王廟南方高地を占領し、尋で附近の敵を擊攘せんとし、前衛たる第三中隊を同地に進め、騎兵第十八聯隊第一中隊（一小隊欠）機關砲二門をして其南方高地を占領せしむ、乃ち前衛は敵の抵抗を受くることなく、博王府に進入し、尋で本隊も亦同地に達し前衛を以て其北方及東北高地を守備せしも敵兵既に遠く退却して其影を沒せり。

士民の言に依れば五、六十の敵騎時々物資の徵發として、遼陽窩棚方向より同地に來るを常とし、前夜も亦約百騎宿營し本朝東方に去れりと。

此に於て本多大佐は東蘇營子の第四中隊を右側衛と爲し歸途に就き、六時四十分哈拉勿索に達し宿營し、三十日同村に在りて博王府附近の敵情を搜索せしに、敵の十數騎午前十一時四十分「中ショーホー」に侵入せしも、爾後前進の狀無きを知り、午後三時四十分歸途に就き三十一日歸還せり。

是より先騎兵第十三聯隊第二中隊は本多支隊の博王府攻擊の際右側警戒に任じ、八月二十九日午前一時小王家窩棚を出發し、我德營子方向に前進し、西海咸甸子、東草干、西登美營子を經渉江たる沙漠を横斷して張五台附近の高地に進出し、東北方に對し警戒し三十日午後九時歸還せり。

九月二日騎兵團長より左の通り訓示ありたり。

近來我騎兵團に於て生死不明者を增加せしは諸官の夙に認知せらるゝ處にして近き一、二ヶ月間の統計を見るに其實に十數名以上に達せり、是等生死不明者の多數は其當時の情況眞に止むを得ざるものあるべしと雖も、優勢なる敵の包圍を受くる場合に於て志氣の銷沈の結果斃而止的日本固有の武士道に缺て大に缺くる所なきを

保す可からず、果して斯くの如くならんか我國軍の爲我兵科の爲轉痛嘆に堪へざるなり、是れを諸情報に徵するに我軍の機密は比較的瞭明に敵軍の探知する所となるものゝ如し、而して其主なる材料は我俘虜の自白に依るもの多しと云ふに至りては豈驚かざるを得んや、想ふに彼等は敵の優遇を奇貨とし潔白の贅辭を述べ死の脅迫を恐れて不知不識の間に斯の如き失態を來すなきに非んか。

各隊長は此際特に部下を戒飾し精神教育を勵行せしむると同時に、萬一不幸にして負傷の結果精神に異狀を呈し眞に止むを得ず俘虜となりたるものにありても斷じて我情況を告白すべからず、敵の訊問に答ふるの義務なきことを銘心せしむ可し。

明治三十八年九月二日

騎兵團長　秋山好古

第二十章　休戰

九月十四日　休戰に關する騎兵團臨時命令要旨左の如し。

休戰條約成立に付左の通心得べし。

一、日露兩軍第一線の中間地區を離隔地帶とす。

二、日露兩軍に屬するものは何等の名義を以てするに拘はらず離隔地帶内に入るを得ず。

三、雙廟子より沙河子に通ずる道路を兩軍の交通路とす。

四、來る十六日正午より右實行するものとす。

五、我騎兵團前面の日露兩軍の最前線は露軍は登家坨子、日軍は太平庄高地なり。

十月三日　陸軍大臣より左の通り訓示ありたり。

今回の戰爭は我國開闢以來未曾有の大戰にして敵の兵力優勢なりしこと多きにも拘はらず戰ふ毎に勝たざるなく偉大なる功績を擧げたるは

大元帥陸下の御稜威に由ること勿論なるも亦我將校下士卒の忠烈の結果に外ならず

今や

陸下は長く戰爭を繼續することの國家の利益に非ざるを思召され人道と文明との爲に速に干戈を戢め給ひ久しく戰場に勤勞せし我軍隊は茲に凱歌を奏して歸るに至れり

陸下の仁德の至大なるや將卒の此戰爭に死傷せしものを憐み給ひ法令に照して遺族等を救恤せしめられ勳功を建てし生存者に對しては既に夫々賞賜の經議を盡すことを命ぜられたり

抑宣戰と媾和との事は

陸下の大權に屬するものなれば軍人たる者は唯

陸下の命の儘に進退すべし假初にも和戰の可否を口にするが如きは本來の分際を辨へざる僻事にて固より紀律の許さゞる所と知るべし世間或は今回の媾和に不滿を懷く者なきを保せずと雖苟も

陸下の股肱たる軍人は儼然として本分を守り決して其等の議論に耳を傾くること有るべからず

今や戰爭は既に畢り我軍人の名譽は世界に發揚せり今後將卒の引續き隊伍に留まるものは益々職務に精勤し解かれて鄉里に歸るものは恭謙にして既得の名譽を失はず各自の本業に勉勵し出ては忠勇の軍人たり入ては誠實の良民たらんことを期すべし加之國運の伸張に伴なひては將來國際の形勢何時變態を生じ再び兵馬を動かすの必要あるやも測り難きが故に常に能く軍人の品性を保持し一旦緩急あるとき一令の下に直に起て國家を擁護する覺悟を忘る可からず

明治三十八年十月三日

陸軍大臣　寺內正毅

第二十一章　平和克復

十月十六日　平和克復せらる。

十月十七日　騎兵團臨時命令要旨左の如し。

一、平和條約批准は十月十六日發布せらる。

二、日露兩軍の平和は克復せられたり。

三、我滿洲軍は一部を殘置し本國に凱旋せしめらる。

四、前哨は今より撤去せらる。

十月二十一日　騎兵團は軍隊區分を解き後方に退き人馬を休養せんとし、二牛所口附近を撤去し、午前七時出

發して午後四時三十分大房身(法庫門西方約五里)附近に到り宿營す、此日朔風雪を捲きて寒氣凜烈たり。

十月二十二日　午前八時三十分大房身附近を出發趙家窩棚、臥牛石、劉秉窩棚、五成店、長崗子、宗三家子の諸村を經て午後四時秀水家子附近に宿營す(秀水家子は萬里の長柵の連亙せる地たり)。

十月二十三日　午前八時四十分秀水家子附近出發、板家窩棚、五家窩棚、劉家窩棚、小塔子の諸村を經て午後四時新宿營地たる東坨山子附近に到着す、當地は新民府より鐵嶺に通ずる街道上の稍繁佳の地にして、後には法庫門より蜿蜒連亙せる山脈の餘端の突兀たる山岳を負ひ、前には滔々乎たる遼河の流水を隔てゝ遙に石佛寺山を望み稍風景に富めり、又其山岳に馬を登らし西北一望すれば寂寞無限の蒙古の白沙悉く兩眸の中に入り、宛然羽化登仙の想あり、暫く此地に在りて人馬を休養し、凱旋輸送の順序を待てり。

十月二十四日　滿洲軍總司令官より左の訓示ありたり。

戰爭の目的を貫徹する爲重任を負ふて吾人の努力したりし日露の戰役は茲に終結を告げ平和は克復せられたり

回顧すれば開戰の始より年を閲する事殆ど二歲此間我滿洲軍は能く祁寒を凌ぎ隆暑に堪へ堅を摧き鋭を破り百戰百勝終に其任務を達成し得たるのみならず本職の乏しきを以てして敢て大瑾なきを得たるは全く我將卒の忠誠に職由せずんばあらず是本職の敬慕感謝する所なると同時に生命を本戰役に殞したる將卒に對しては悲涕哀悼の情禁ずる能はず

今や日ならずして我滿洲軍の大部は凱旋の途に就かんとす此時に當り依然滿洲に於て守備の任に留まる者は勿論平時の軍務に復し若くは武裝を解き鄉里に歸る者と雖武功に誇らず陣中の辛苦を忘れず自重して健康を保ち

常に戰役間に於ける心を以て戰勝より得たる自己の名譽を保持し將て模範を後世に貽さざるべからず又本戰役に因り吾人の經驗したる事に就て探究研磨し帝國軍進前の資料を提供するは本職の特に希望する所なり

惟ふに極東に發生す可き事件は將來益々深く刻國の注視する所となるべし此間に處して本戰役より得たる戰勝の光輝を失墜せず更に國威を發揚し國力を增進せんには勢帝國軍の整備と充實を必要とす可く此に於てか吾人の任務は一層重きを加ふるものと云ふ可し然れども苟も常に前述の精神を以て誠實に邁往せば恐くは目的の過半を遂行するに難からざらん將卒宜しく益々奮勵して其職務に盡瘁すべきことを望む

右訓示す

明治三十八年十月二十四日

滿洲軍總司令官　大山巖

十月二十七日　第三軍司令官より左の通り訓示ありたり。

第三軍將校下士卒に告ぐ

日露開戰以來陸に海に連戰連勝空前の大捷を獲茲に平和の局を見るに至れり之れ洵に陛下の神威聖德の致す所にして諸子と共に深く祝する所なり回顧すれば不肖希典曩に第三軍司令官の重任を拜して茲に一年有半此間諸士と共に親しく戰鬪に參與し前きには世人の稱して難攻不落となせる旅順要塞を陷落し後には奉天會戰に於て懸軍敵の脊後に迫り以て我軍の名聲を中外に發揚するに至れり彼の要塞に內薄するに當りては百難を排して毫も屈せず屍山血河の間に馳せて益々奮ひ遂に能く天爲人工の堅に勝ち其初心を一貫し以て守心を降服の餘義なきに至らしめ彼の奉天の野戰に於ては疾風迅雷の勢を以て前進し十數日間の長き梯風

沐雨寒に堪へ飢を忍び數倍の敵と奮戰健鬪終始攻擊を續行し以て敵をして已むなく敗退するに至らしめたり。

希典の不肖を以てして此の大任を辱めざることを得せしめたるものゝ之れ諸子が能く軍紀を守り協心戮力各其分を盡したる結果に外ならず深く感謝する所なり

今や平和の詔勅を拜し戰勝の光榮を擔ふて凱旋するの期將に近きにあらんとす然かも名譽大なれば其自重する所益々大ならざる可からず古來戰勝軍にして凱旋の途次或は財物を掠め或は住民を辱かしめ汚名を千歲に遺したるもの尠からず又狂するが如き國民の歡迎鄕黨の優遇を受けては覺えず自負傲慢に陷るもの其例も亦乏からず若し夫れ諸子にして此に鑑ることなく汚名を受くる如きことあらんか獨其の不幸のみならず實に國軍の聲價を失墜するものなり諸士夫れ深く戒心し隊中にありては軍紀を嚴守し訓練を勵行し隊外に在ては謙讓勤儉以て有終の美を完ふし益々國軍の榮譽を發揚すると共に國家他日の急に備ふるを努めよ

今や時將に寒天に向はんとし尙數ヶ月間此僻地に滯在せむ戰後惡疫の流行其例に乏しからず諸士夫れ衛生に注意し國家の爲自愛せよ

明治三十八年十月二十七日　　第三軍司令官　男爵　乃木希典

第二十二章　凱旋

滿洲軍諸部隊は第一軍の近衛師團を先頭とし、十一月下旬より後備隊に續き陸續大連若くは柳樹屯より逐次乘船、

凱旋の途に上り、騎兵第一旅團は三十九年一月二十三日午前九時東坨山子出發鐵嶺停車場に向て前進し、藍旗堡子、三台子、二台子、舊門、黎地彥、西拉馬河子を經て午後四時三十分東拉馬河子附近に宿營す、二十四日午前九時三十分出發烏巴海、阿吉牛象堡子、古城子、桂家窩棚、顧官屯を經て午後四時十分東、西貝海附近に宿營す、二十五日午前九時出發砂甫台を經て遼河の氷上を過ぎ江河泡、星新堡を經て午後三時遼海屯に宿營す、二十六日乘車準備の爲め滯在し、二十七日出發鐵嶺停車場に到着し、正午汽笛一聲萬歲を三唱し尋で凱歌を擧げ大連に向ひ、二十九日午前一時大連着同地に宿營す。

騎兵第十三聯隊第一第二中隊は三十日、同第三第四中隊及同第十四聯隊第一第二中隊は三十一日、第三第四中隊及第一繫駕機關砲隊は二月一日大連を出發、各隊は四日機關砲隊は五日宇品に上陸し、廣島に集合宿營し廣島より鐵道輸送を以て出發、東京に一泊の上各隊は九、十の兩日機關砲隊は十二日千葉縣習志野屯營に凱旋し、二月十日復員下令十六日復員完結、同日現役延期者並應召員を解除し、全く平時の姿勢に復せり。

擱筆に臨み本戰役に奮戰勇鬪して陣歿せる幾多將卒の英靈に對し滿腔の熱淚を以て敬意を表す。

著者は終始支隊に屬し乘馬は敵彈の爲に負傷し戎衣に彈痕を留るも身に微傷なきは每戰卑怯の譏を免れず。

蹄の光　畢

附錄

左記凱旋軍歌は吾人の一日も缺く可からざる修身、齊家、治國、平天下の精神なれば特に附錄として揭げたるものなり。

一　第三軍凱旋軍歌

軍司令官　乃木大將作

我日の本の軍人　強き敵とて何恐るべき　弱き敵とて侮りはせぬ　勝ちて驕らぬ此心こそ
強きを挫くの力と知れや　強きを挫くの力を持てば　弱きを助ける情もござる　我日の本の軍人
千歲萬歲萬々歲　其名を世界に輝かせ　君と國とに捧げし身には　家も命も何思ふべき
我日の本の軍人　日本心を勅諭で磨き　日本魂で勅諭を守る　心は石か鐵なるか
五條の勅諭を唯守るなり　我日の本の軍人
千歲萬歲萬々歲　其名を世界に輝かせ　討死なせし其戰友の　功名手柄を無にしちやならぬ　國の譽も我身の幸も
我日の本の軍人　骨を挫きし響と聞けよ　鮮血に染めなす色とも見へよ　我日の本の軍人
命捨てたる其戰友の　其名を世界に輝かせ
千歲萬歲萬々歲　軍役終れば故郷に歸り　農工商業皆夫々に　正しき道に勉むる事は
我日の本の軍人

戰するも心は同じ　家を富ませば國亦榮ゆ　和合一致の尙武の心　我日の本の軍人
千歲萬歲萬々歲　其の名を世界に輝かせ

二　騎兵第一旅團凱旋軍歌

旅團長　秋山少將作

我親愛の戰友よ　振古未曾有の日露戰　生死を共に曲家屯　得利寺、蓋平、大石橋
遼陽、沙河に沈旦堡　奉天、鐵嶺乘り越えて　開原、昌圖、鴛鴦樹役　大小數十の戰に
一度の敗を取らずして　平和克復茲に成り　數月の後は汝等と　親しき故郷に歸るらん
別に臨んで敎へ草　先づ筆執りて概略を　勤儉尙武は國の本　苦難は汝等の玉なるぞ
自勞自活は天の道　卑むべきは無爲徒食　一夫一婦は人道ぞ　酒色の慾を戒めて
品性修養怠る勿　日が暮れたなら天を見よ　常に動かぬ北斗星　陸地海路の旅行者の
便りに思ふ寶とぞ　世を渡るには誠心が　道を迷はぬ磁石なり　曲りし道に入りにしと
心疑ふ事あらば　吾が誠心に問へぬべし　親子兄弟離るゝも　天の與へし良心は
常に汝を導かん　絕ゑず汝を守るらん

陣中作者詠

其一

單身驅馬冒寒風。偵察敵情西又東。
月落平沙濛水霧。按鞭遙見狼煙紅。

其二

好是對陣渾水濱。千軍萬馬避紅塵。
清風颯々吹衣冷。照出林間月一輪。

附錄

大正十二年八月十三日印刷
大正十二年八月十六日發行

定價金拾圓五拾錢

本籍 埼玉縣北埼玉郡利島村大字柳生二四番地
現住 栃木縣足利市伊勢町南仲通五二番地
著作者 山中金次郎

栃木縣足利市家富町三八五番地
印刷者 永倉牧太

栃木縣足利市通四丁目二五七八番地
印刷所 永倉活版所
電話 八四〇番

栃木縣足利市伊勢町南仲通五二番地
發行所 山中金次郎

不許複製

319
440

終